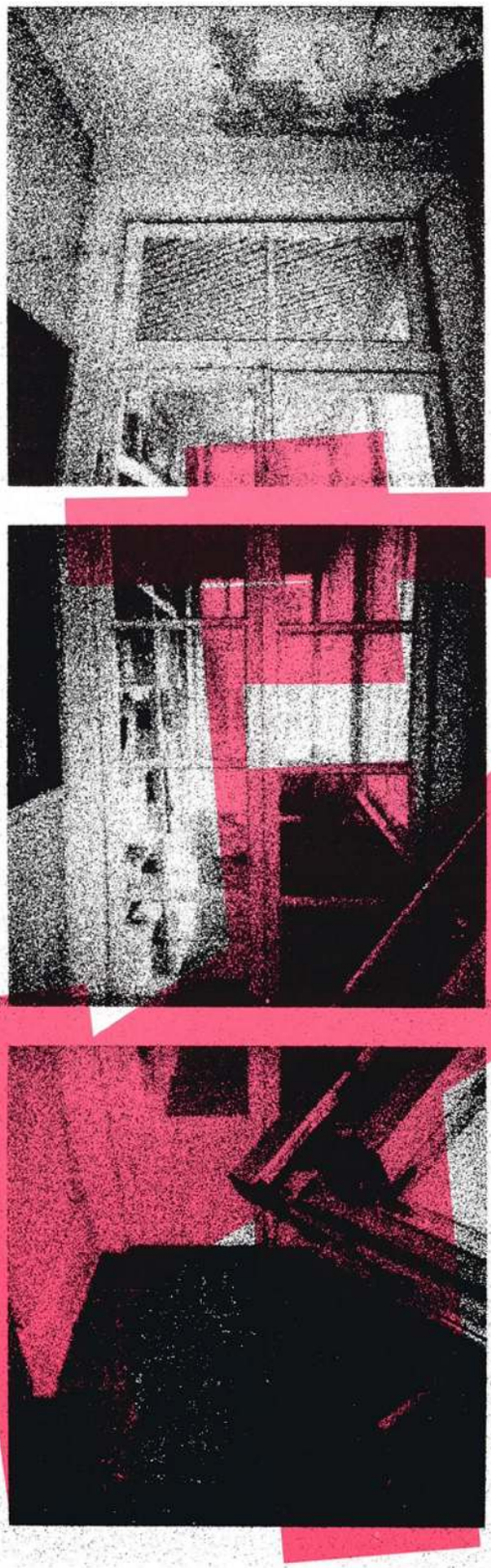
昭和58年8月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建　築　と　社　会

Vol.64 通巻 737号

特集● 東海の将来と文化を考える

8
1983



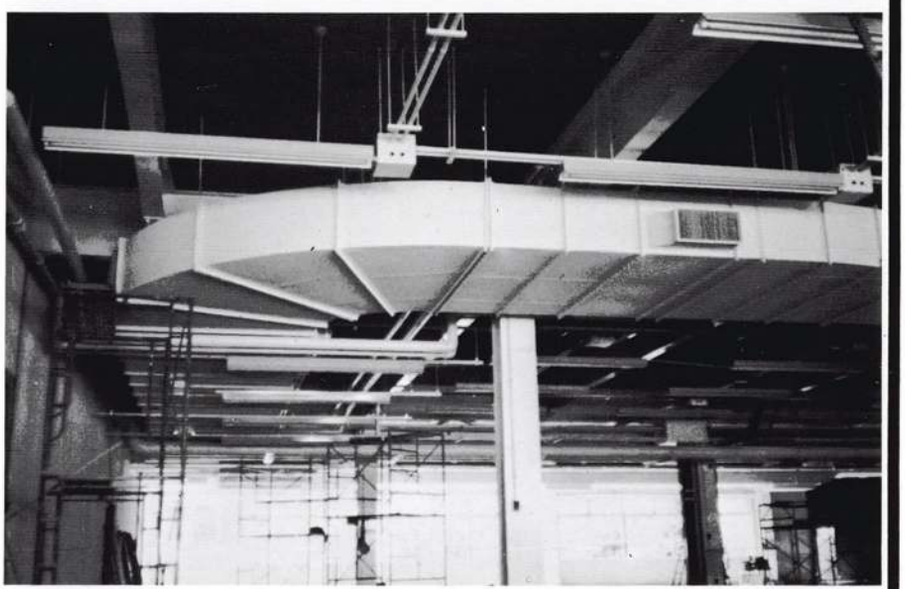
日本建築協会

建築界最後の課題 結露防止に躍進する

世界特許の セキュレート

防露材
防カビ材

・工場、倉庫の鉄板屋根裏に
・カーテンウォールの内壁に
・ダクト、タンク、パイプに
・近代建築・プレハブの内装に
・浴室、調理室の天井側壁に
・テレビ無人中継所、発電所など・重・弱電に
・その他あらゆる結露場所にうすい塗膜(0.8～2.0ミリ)の塗布型防露剤セキユレートは工期の短縮、簡単かつ経済的に皆様の問題を解決しています。



セキュレート施工した富士通・明石工場



エアレススプレーによる屋根裏折板吹き付け　京都信用金庫・北山支店

カタログ進呈　申し出で下さい

製造発売元 **茶谷産業株式会社**

セキュレート事業部

大阪市東区瓦町２－55(三和ビル)(〒541) ＴＥＬ大阪(06)203－5331㈹
東京都台東区西浅草１－１－９(〒111) ＴＥＬ東京(03)844－6171㈹

大阪の新しいビッグホール

◀〝大阪城国際文化スポーツホール〟を見る

（日本建築協会・大阪建築士事務所協会・
大阪建築設計監理協会・3会共催）



竣工間近の大阪城国際文化スポーツホール

国際的、文化的都市をめざす大阪は、本年、大阪築城 400年記念の大イベントを計画し、10月に催される記念式典をはじめ、各種の催し物の会場に使用するための中心的な施設〝大阪城国際文化スポーツホール〟の新築工事が急ピッチで進められております。

このホールは、広大な大阪城公園の中に位置し、すぐ東に大阪城を望み、周囲のみどりゆたかな自然環境の中で、外壁は大阪城と同じ花崗石の石垣貼りとし、屋根は銅板葺きの長円型ドームを採用し、自然と調和した景観プランの考慮がなされています。

また、最大収容人員約16,000人の規模をほこるこのホールの機能は、従来の文化ホール、会議場、展示場、体育館などと、式典、音楽・ショウ・演劇、スポーツ、各種文化的な催し、国際会議などを融合させ、高い次元の新しい多目的ホールにすることが設計目的の一つのテーマといわれております。

これら多様な目的に使用されるアリーナ部分は、演出効果を高めるために最新技術を織り込んだ音響、照明、舞台機構、空調などの各種設備や、アストロビジョンおよび電光掲示板を用いた音と光の演出が容易に実現することができ、ビッグホールにふさわしい特色となっております。

以上のようにこのホールは、明日の大阪の新しい文化、スポーツなど多岐にわたるイベントの拠点となる期待が各方面から寄せられています。

今回、大阪市経済局の特別のご厚意により竣工直前に建築3団体共催にて見学できることになりました。また㈱日建設計、大成・松村共同企業体に多大のご協力をいただきました。多数ご参加下さい。

お申込みは重複しないようにご関係の団体1ヵ所へお願いします。

日　時　9月13日(火)・集合13:30→解散16:00（晴雨不問）

集合場所　大阪城公園内・噴水の前付近・目標会旗
ただし、大阪・国鉄環状線または、地下鉄・中央線の各「森ノ宮」駅下車→大阪城に向かって大阪城公園入口を入ってすぐ前にある噴水。（集合所からは徒歩(約10分)にて現地へ参ります）

定　員　200名（各会割当 約65名）

参加会費　会　員　500円
会員外　700円
（当日受付でいただきます）

申込方法　往復ハガキ1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・所属部課名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「大阪城国際文化スポーツホールの見学」と明記の上9月5日(月)までに建築協会事業課へ。
定員超過の時は3会合同で抽せんにて決定し、お知らせいたします。抽せんは会員優先のため必ず会員、会員外の区別をご記入願います。

〔建築概要〕

所在地	大阪市東区大阪城3番の3－7
建築主	株式会社 大阪市開発公社
地区・地域	住居地域、準防火地域、風致地区、史跡指定地区
設計監理	株式会社 日建設計
建築施工	大成建設・松村組共同企業体
構造規模	鉄筋コンクリート造、屋根部鉄骨トラスト造 地下1階、地上3階
敷地面積	36,351.58㎡
建築面積	14,250.61㎡
延床面積	30,679.16㎡
軒高	14.450m
最高高さ	25.150m
主要外装	屋根：銅板葺き（デッキ下地軽量コンクリート打の上） 外壁：花崗石貼
収容人員	約16,000人
工期	昭和57年3月→昭和58年8月

日本建築協会協賛

「建築構造の耐震設計を考える」講習会開催

日　時　昭和58年10月12日(水) 9:30～17:00

会　場　大阪科学技術センター大ホール（大阪市西区靱本町1－8－4）

内容・講師・プログラム

主旨説明……金多　潔(京都大学)
新耐震設計法をかえりみて
設計用地震荷重……竹内吉弘(大阪工業大学)
設計手法……久徳敏治(竹中工務店)
鉄筋コンクリート造……森田司郎(京都大学)
鉄骨造……金谷　弘(神戸大学)
地盤と地業……水畑耕治(神戸大学)
耐震設計の将来像
世界の耐震規定とその方向…井上　豊(大阪大学)
耐震設計の将来像……南井良一郎(京都大学)
総論……小堀鐸二(京都大学)

定　員　380名

会　費　会員10,000円、会員外12,000円(テキスト代含む)（協賛団体は会員扱い）

申込締切　昭和58年10月5日(水)（ただし、申込先着順）

申込先　主催の日本建築学会近畿支部
大阪市西区靱本町1－8－4　〒550　電06－443－0538

日本建築協会企画・建築技術選書 34

身障者・高齢者のための建築設計

吉田あこ 著

―斯界の第一人者がわかりやすく語る配慮設計のポイント集―

国際障害者年を迎えてから２年が経過した．全国の都市には，車いす使用者用トイレや盲人用信号など，身障者・高齢者を配慮した設計にあちこちでお目にかかる今日である．しかし，配慮したつもりでも，何らまとを得ていないものも随分と多い．なぜだろうか．

そうしたいくつかの例の中から，数編を文章化して「配慮する」とはどういうことかを考えてみた．

本書は，「身障者だから配慮設計」と身構えるのではなく，配慮設計について誰もが考えられる身近な解決のポイント集である．

主要目次

Ⅰ　設計計画　―わかりやすい考え方―
- ●どんな理念，どんな姿勢で考えるか
- ●どれだけの数を対象にするのか
- ●ハンディキャップとはどういうことか

Ⅱ　設計詳細　―目につく矛盾とミス？―
- ●国際シンボルマークについて考える
- ●車いすの動作スペースはどれだけ必要か
- ●段差カットの手法および排水溝との関係
- ●手すり高はどれだけとるか
- ●これからの配慮設計，ＭＡＩ ハウス計画



Ａ５・160頁・定価1300円

〈目録進呈〉　☎075-343-0811　学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

日本建築協会企画　建築技術選書 35

高層集合住宅の維持管理

――建築技術の果す役割と将来――

長谷川工務店常務取締役
福嶋孝之著

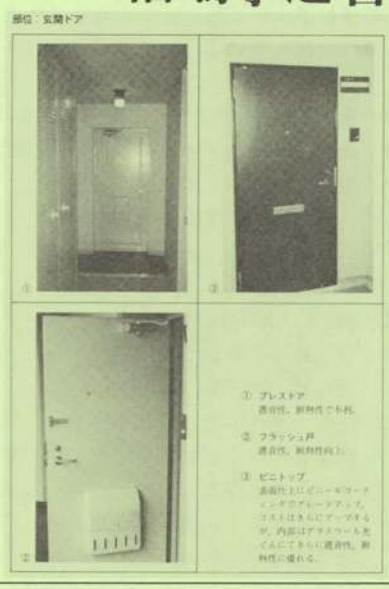


設計者が明かした建築技術からみた維持管理

マンションの維持管理に関して，今日まで設計者はどのような役割を果してきたのか．建物を良好に保つための修繕のやりやすさをどう配慮してきたのか．長年マンションの設計に携ってきた著者によってはじめて明かされた，建築技術と維持管理の重要な関わり．

主要目次

1．５つの課題
2．高層分譲集合住宅の維持管理の原点
3．メンテナンスフリーへのあゆみ
4．設計仕様の変遷
5．災害と補修
6．将来の維持管理の形態をさぐる
7．高層分譲集合住宅の維持管理の担い手



Ａ５・176頁・定価1400円

〈目録進呈〉　学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811

建築と社会
©1917年創刊
第64集・1983

通巻737号 8

表紙デザイン：
水野哲雄（京都芸術短期大学講師）

〈特集予告〉
■9月号／オフィス・インテリアの変革
■10月号／プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造
■11月号／第30回青年技術者
大阪城国際文化スポーツホール
■12月号／集合住宅と音

会　長　福田朝生
副会長　足立　孝・市川　宏
佐野正一・松村雄二
編集委員会（昭和58年度）
編集委員長
横山　誠一
編集理事
今井潤之介
金多　潔
北澤　登
小林　清
竹中　錬一
武田　恭一
長谷部朔郎
松村　慶三
横山　誠一
渡辺　忠
編集委員
（特集小委員会）
○福田　晴虔
●計画分科会
江口　崇
岡田　信幸
柏木　浩一
＊田中　直人
竹本　俊平
手嶋　純一
轟　泰輔
富川　薫
藤本憲太郎
舟橋　國男
船越　暉由
宮口　恒樹
山口　繁雄
●構造分科会
足立　直行
田渕　基嗣
＊高橋　尚
中西　尚晃
原　克巳
八尾真太郎
●設備分科会
磯田　憲生
川戸　敏雄
河津　隆之
中曽　暁尚
＊橋本　邦彦
秦　学
●施工材料分科会
阿川　清二
荒木　弘之
＊西牧　恵吉
三浦　康夫
横井　征夫
吉村　桂造
●法令分科会
＊坂　雅勝
西山　寛
南出　和延
三木　俊介
（作品作風小委員会）
浦山　哲
○小野　為一
小野知佳子
加藤　俊明
北村　恭一
黒木　省二
志方　敦育
苫名　正
能丸　弘毅
浜崎　彰
（投稿欄小委員会）
池口　和雄
磯部　正
嘉積　俊一
中馬　博良
○羽生　克彦
早田　平
（広告企画小委員会）
池渕　俊男
倉橋　岩夫
駒田　哲男
清水　修平
田上　章
△田中　功
棚橋　和夫
原田　常介
平等　一之
福井　喜朗
本間　利雄
松村　孝治
○渡辺　忠
○副委員長　＊幹事　△副委員長代行

編集人　松井昭光
印刷　昭和58年8月20日
発行　昭和58年8月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3－37
電　06－231－9648
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷　株式会社
電　06－451－7631
定　価　950円（送料共）

会告
読者の頁
建築と社会ニュース
東海だより
新建材紹介コーナー82
法令コーナー185
追悼記
設計者のプロフィール
見学記
日本建築総合試験所だより
都市気球 8
建築の眼
特集
作品作風
スケッチブック
座談会 1
各論
座談会 2
各論
構造の頁108
設備の頁107
施工材料の頁106
月報

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集●東海の将来と文化を考える

SPECIAL FEATURES ON VISION AND CULTURE OF TOKAI AREA

大阪の新しいビッグホール〝大阪城国際文化スポーツ〟を見る …… 1
アメリカ建築巡礼記（その8）IDSセンター（ミネアポリス）／小竹達也　海外工事のワンポイント（その3）バグダッドから／荒木利峯 …… 4
第15回中部建築賞作品募集．つくば万博'85－民間出展イメージ写真点描 …… 5
愛知県住宅防災工事資金貸付はじまる．テクノエリアー愛知県が開発構想．名古屋栄のオフィスビル建設－ミニ開発認める－ …… 5
機能性無機質複合材「セメンシャス＃2000、＃2500による鉄筋コンクリート劣化防止工法／中原泰… 6
「大阪市総合設計許可取扱要綱」の改正／茂苅日出男 …… 7
滝沢真弓先生／彦谷邦一・白木小三郎・宇都宮隆夫・山田幸一・林野全孝・谷川昭悦・坂本勝比古・後藤摂二・櫻井敏雄・飯田精次郎 …… 8
土肥耕一氏を訪ねる／インタビュア・柏木浩一 …… 13
三輪山徘徊／加藤力 …… 14
市街地に建つ高層建築物の周辺気流に関する研究／西村宏昭 …… 15
ポパイ少年たちの見つめるもの／杉浦正和 …… 16
建築文化も地方の時代がやってきた／中島　一．清洲越し／西方輝治．
立入禁止／辻野純徳．地城整備の目玉／田村真二 …… 18

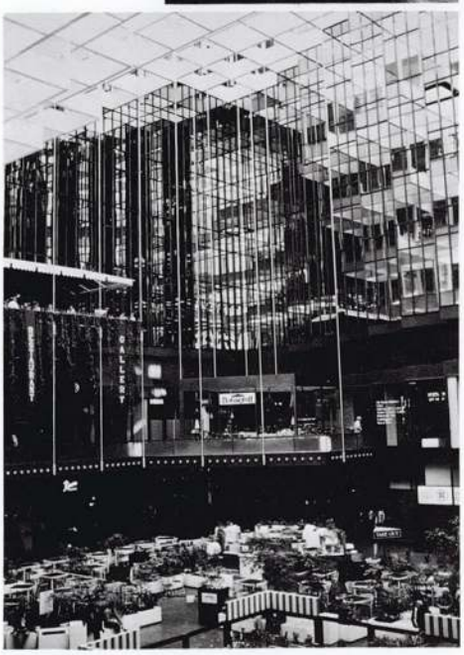
東海の将来と文化を考える ——企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会——

岐阜県美術館 …… 20
設計監理：岐阜県総務部管財課・日建設計名古屋／施工：大日本土木・土屋組特別共同企業体
愛知県岡崎勤労福祉会館 …… 24
設計監理：愛知県建築部営繕課・東海設計／施工：小原・三和建設共同企業体
美濃加茂市中央公民館・保健センター …… 26
設計監理：安井建築設計事務所／施工：戸田建設名古屋支店
春日井市東部市民センター …… 設計監理：黒川建築事務所／施工：岐建木村 …… 28
知北平和公園知北斎場 …… 30
設計監理：石本建築事務所名古屋支所／施工：前田建設工業名古屋支店
アイシンワーナー「希望の丘」 …… 32
基本設計：清水建設名古屋設計部／設計監理：清水建設名古屋設計部・富士工務店／施工：清水建設名古屋支店・富士工務店
日経名古屋電波会館（テレビ愛知） …… 34
設計監理：伊藤建築設計事務所／施工：戸田建設名古屋支店
ホテルコンコルド浜松 …… 設計施工：竹中工務店 …… 36
皇学館大学100周年記念講堂 …… 設計施工：鹿島建設 …… 38
平田町立平田中学校 …… 設計監理：鈴木隆二設計事務所／施工：大橋組 …… 40
最近竣工した東海地方の作品28点（No.1684～1711） …… 42、62、63
「東海の将来像を語る」 …… 43
出席者　井澤慶一／井沢知旦／外山公司　　司会　中島　一
「21世紀の中部ビジョン」にみる東海四県の将来像 …… 48
したたかな愛知 …… 浅井　岾一 …… 52
愛知県のいまとむかし－名古屋を中心として－ …… 久住　典夫 …… 53
「東海の文化を語る」 …… 54
出席者　寺　光彦／三水　弘／水野　宏　　司会　中島　一
中部における地域社会の国際化 …… 青山　公三 …… 59

ＪＡＳＳ６の改定の要点（その1）／羽倉弘人 …… 75
最近の電話設備（その2）／西宮三郎 …… 76
高層ＲＣ壁式プレハブ工法－PASH工法－／小島　雄 …… 77
日本建築協会月間の動き（昭和58年6月分） …… 79

読者の頁





アメリカ建築巡礼記　その8

〝IDSセンター、ミネアポリス〟

小竹達也／昭和設計

僕の乗ったグレイハウンドがミネアポリスのバスターミナルにすべり込んだのは午前4時頃だったろうか。まだ暗い街に見物に出る訳にも行かず、またいまさら宿屋を捜すのも馬鹿らしく、しばし待合室の固いイスの上で眠ったのを憶えている。目が覚めると7時過ぎ。カフェで朝食をとり、外はと見れば朝の太陽がようやく街の上から陽光を注ぎ出したかの如く、清々しい朝である。さっそくカメラとショルダーを携え外に出た。

このＩＤＳセンターは市中でもっとも高い建物らしくすぐに目についた。行って見るとお目当てのプラザ（カタログにはクリスタルコートとある）は朝早くてしまっている。やむなく他所の見学に回る。さてどう見つけたのかよく憶えていないが、もう一つの目的、グンナー　バーカーツによる連邦準備銀行も発見。しかしこの建物の公開プラザが予想以上の傾斜なのに少々その本来の意義を疑問に感じつつＩＤＳセンターにひき返した。

道は一筋で前方に颯爽と聳えるＩＤＳセンターの美しい姿が見える。その通りを歩きつつ何となく洒落た街路の設いに、どこでどう気がついたか忘れたが、これがハルプリンによるニコレットモールであると知り、ミネアポリスとは良くできた街だと一人納得する。

さてＩＤＳセンターに戻るとプラザも開いており、まだ人出の少ないコートに朝の光が差し込み、清新で都会的な現代の人民広場を現出している。何よりもこの太陽光線がうれしい。要所要所に用いられたグリーンも効いている。同じフィリップスジョンソンの作品でも先のペンゾイル・プレイスに較べるとその洗練さにおいては一歩譲るように思えるが、ここに提供された場は、ヒューストンのものよりも、さらに活々として人の集うに相応しい雰囲気を持っている。それは時がたつにつれて人々の数が増え、この空間がより活性化されるにつれて、その本来の機能を果している状況を見るにつけ、強く印象づけられた。

僕はしばしこの場の雰囲気を楽しんだ後、昼頃にはミネアポリスを出発した。たった半日の滞在ではあったが、なかなかリッチな建築体験であったと至極満足だった。

海外工事のワンポイント　その3

〝バグダッドから〟

荒木利峯／清水建設設計計画部海外課



イ・イ戦争の影響をもろにうけながらも、戦時下での街づくりは幾多の難関・難問を克服して今、完成の日を目前にし日本人技術者・多国籍の外国人ワーカー共々活気溢れる毎日である。

海外工事では、労務の効率化・資機材の管理はもとより契約上の品質と、予定の工期を守りぬくことが重要であることは言うまでもない。

しかしながら、建設地における地域特性から発生する思わぬ問題に直面することが多く、これを退治することが最大のポイントである。

気候・風土

この地は、高温低温の典型的な砂漠気候で、春と秋のシーズンがない。寒い冬が終わる3月頃から除々に暑さが増し、5月から10月にかけて日中、日影温度は40度を超え7・8月には50度を超える日が何日かある。

うっかり素手で単管足場や鉄筋に触れると、やけどをしたり、養生用散水は、かけている傍から湯気をたて乾いてしまうことも、あながち誇張ではない。

このような状況下では、モルタル塗りの壁面はもとより108角半磁器タイル、メラミン化粧板等の表面に無数の亀裂が生じ、壁紙貼り用のボンドは直ぐにドライアウトして各所剝れる。ことに外部に用いるコーキングやマスチック等は異常な乾燥収縮により見事にその本性を表す。日本には高品質で安価、見栄えの良い建築材料が多くあるが、特に外壁面に塗ったり、貼ったりするものは日本の感覚ではとても高温低湿によるこの曲者を退治することはむつかしい。

品質とことば

契約上の品質は、工事仕様書と設計図面によりさらに詳細に記述・表現されるが、ことに工事仕様書（SPEC.と略す）の内容の構成や解釈の相違から発生する問題もある。欧米流契約社会理念に基づくこの国もまたSPEC.の重要度が高く、SPEC.の一語、一語がお金に関係してくる。時には彼等の要求している品質はとてつもないことであることも分る。顧客と直接話し合い問題の解決を図るも、日本国内と異なり解釈のギャップを埋めるには複雑な手続を経て相当の日時を費すことになる。これもまた曲者のひとつである。

広義にとれる記述や応用問題的な表現を避け、出来るだけ親切に共通語での表現が、解釈の相違をなくすことになる。海外においては、SPEC.と設計図面が顧客と結ぶ唯一の言葉である。

意地悪インスペクション

このプロジェクトの工事の監理は、12,3名からなるイラク人エンジニアー・インスペクターが建物用途別と、専門職域ごとに監理している。彼等監理技師をResident Engineerと呼ぶ。(以下R.Eと略す)

設計フォロー・アップは、R.Eから設計図書の内容や、施工品質について質疑ある場合顧客に代わり、契約条件や設計主旨に添って解説し、また施工品質の判定をして工事が円滑に進むようフォローする役目がある。

R.Eもまた契約上の品質を守るため厳しい注文をつけてくる。モルタル塗りの壁に2m大の定規をあててその隙から一枚の紙が落ちると〝No〟、何万平方メートル分もある床のテラゾータイルの一部に、製作の過程での若干の色違いやマーブルチップの混り具合の違うものがあれば即座に取り替えるまで検査を中止する。設備工事の配管の位置が2㎜違うと言って以後の関連工事の検査もすすめない。彼等には許容誤差や施工に必要なアローアンスという言葉は通じにくい。意地悪なインスペクションは契約上の品質や工期をたちまち変えてしまう。

相互信頼し、より高い次元でお互いに所期の成果を分ち合う理念はなかなか見つけ出せないし、理解も得にくい。

故意に意地悪しているとは思えない面もあり、直面するクレームについて技術論・芸術論で対抗すればかえって身構えられて対峙することもある。

商品を売ったり買ったりする基本的な考え方が異なる国民性・民族気質からくるとてもやっかいな曲者は、鎧の下から見え隠れする猜疑心でもあろう。

チグリス、ユーフラテスに挟まれたこの地は文明の発祥地として名高い、民族の興亡を繰り返し古い歴史の中で文明を継承発展させたものとして、人々の誇りは高く、また気性も激しい。

海外工事がスタートした頃『海外は海外』とひとつの割り切りで仕事を納め、それで良かったと聞いたことがある。

近年、海外市場を求め各国のコントラクターが進出している中で顧客のニーズも多様化し、厳しいものになっている。建設地域にはびこるやっかいな曲者を退治してこそ凌駕することになろう。

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

第15回中部建築賞作品募集

中部建築賞は昭和44年に創設されて以来今回で15回を数えるが、昭和58年度の作品を公募している。この賞は中部地域社会の発展に貢献したと認められる優秀な建築作品に対し、その功績を讃えるもので、さらに優秀な建築作品が生まれる基盤を礎くことを目的とし、建築主、設計者および施工者の三者を対象とする。

応募作品は、つぎの条件に該当するものとする。

(1)昭和58年３月31日までに竣工した作品で点数の制限はしない。

（一般部門） 公共、文教、生産、商業、厚生、集合住宅、団地計画、都市開発、都市公園などを含む建築物等で規模の大小を問わない。

（住宅部門） 住宅で規模は問わない。

(2)作品は中部圏（愛知、石川、岐阜、滋賀、静岡、富山、長野、福井、三重の９県）内で実施されたもの。

(3)所定の申込書に記入し、指定の図書および応募料（一般部門20,000円・住宅部門10,000円）を添えて、８月31日までに各県の中部建築賞協議会加盟団体（日本建築協会東海支部ほか20団体）を経由して提出すること。

(4)添付図書

ａ．図面：平面・立面その他特に強調したいもの。

ｂ．写真：大きさは四つ切判からキャビネ判までとし、台紙に貼り付ける。枚数に制限はない。

ｃ．説明書：企画・設計・施工など特に留意した事項および総工事費

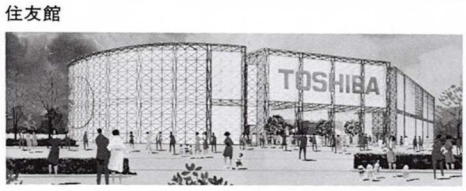
上記ａ．ｂ．ｃ．を綴紐で仮りとじし、折畳みしないこと。Ａ２版を基準としてパネルに貼り付けないこと。

詳細は、中部建築賞協議会事務局（電話052－262－0838）へお問い合わせ願いたい。

つくば万博'85 民間出展イメージ写真点描



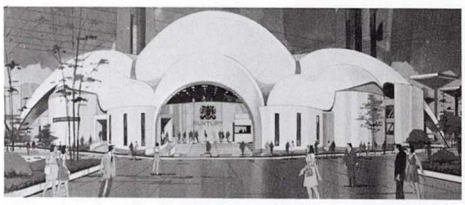
住友館



東芝



芙蓉グループ



サントリー



健康・スポーツ館（デサント、スズケン、大塚製薬）

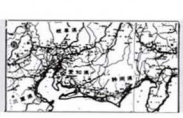


三菱



電力館（電気事業連合会）

東海だより



日本建築協会東海支部

この号から毎号、〝東海だより〟が掲載されることになった。東海支部テリトリーのニュース、トピックス、行政などについて、リポートします。ご期待いただくとともに、情報をお寄せください。

愛知県住宅防災工事資金貸付はじまる

地震による住宅等の倒壊、地盤沈下などによる住宅の浸水被害を防止するため、耐震補強工事または、かさ上げ工事をする人に、次の要領で、取扱銀行から工事資金を貸し付けられる。

１．貸付を受けることのできる者の条件

(1)愛知県内に居住し、次のいずれかの工事をしようとする者

①　耐震補強工事

②　住宅のかさ上げ工事

(2)借入希望額に対する年間返済額の５倍以上の年収のあること

(3)愛知県内に居住している連帯保証人のあること。

(4)他の公的機関の類似の貸付を受けていないこと。ただし公庫の住宅改良資金、災害復興住宅資金の貸付は、この限りでない。

２．貸付条件

(1)貸付額：270万円（10万円単位）

(2)利率：年5.55％

(3)返済期間：10年以内

(4)返済方法：元利均等毎月返済

３．申込手続

申込受付期間は昭和58年５月２日（月）から昭和59年１月31日（土）まで、詳細は、愛知県建築部民間住宅課まで問合わせてください。

テクノエリヤ 愛知県が開発構想

愛知県は、６月６日、技術集積型産業や研究施設、住宅・都市機能を結合させた岡崎・豊田両市を核とするテクノエリヤ（技術集積型産業エリヤ）の開発基本構想を発表した。

テクノエリヤは、既存の産業、学術研究、住宅・都市などの機能を有効に活用、地域内に先端産業を導入して、活力ある社会づくりをめざすもので、昨年５月岡崎・豊田地区を最初の建設地と決め、開発基本構想を練ってきた。

構想によると、ソフト面では、岡崎地区を医療、健康、豊田地区を「移動と伝達」の機能をもった新しい都市に発展させるため、学術、研究機関の導入、技術交流、人材養成を図るほか、住宅など都市機能を整備するものとし、ハード面では、岡崎・豊田地区の開発を、現在、国、東海三県一市が調査、研究中の東海環状都市帯構想の中に位置づけている。

その上で、産、学、住機能整備方針として、同地域を６つのゾーンに分割、既存のプロジェクトを利用しながら、ゾーンごとの開発構想を示している。

名古屋栄のオフィスビル建設 —ミニ開発認める—

名古屋市中区錦三丁目の栄交差点東北角地で建設が計画されているオフィスビルについて、名古屋市は、６月14日、原案どおり着工を認めることを地主の会社と、日本生命保険に正式通知をした。これに先だち３月末、同市建築局に出されていた建築確認申請は認められたようである。しかし、市としては、この角地にある市有地、松阪屋所有地などを一体とした共同開発構想を実現するため、近い時期に関係部局によるプロジェクトチームを設け、計画を策定したいとしているが、今回の独自のビル建設計画に対し、将来の共同開発計画への協力を求め、設計変更などを働きかけてきたが、このビルと市の開発構想ビル同志が連絡できる方策も考えているようである。いっぽうこの問題で、市民グループらは、栄角地有効活用への提言をめざし６月15日に緊急会議を開いた。

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介　No.103》

機能性無機質複合材
『セメンシャス#2000、#2500による鉄筋コンクリート劣化防止工法』

恒和化学工業株式会社

本　　社　〒143 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センタービル9F ☎(03)767-3561

大阪支店
大阪営業所　〒561 大阪府豊中市豊南町南6-3-13 ☎(06)332-5721

鉄筋、鉄骨コンクリート建築物の耐久性は半永久的に考えられていたが、必ずしもそうでない現象が現われているのが現状である。これは鉄筋、鉄骨コンクリートの中性化の進行、鉄筋、鉄骨の腐食によるコンクリートの崩壊、脱落が生じていることで、鉄筋、鉄骨コンクリートの耐久性に影響を与えるため、その防止策および対応策が大きなニーズとして取り上げられつつある。

ここに紹介する特殊な機能を付与させたポリマーセメントによるコンクリートの劣化防止工法は、セメントのもつ高いアルカリ性による長期防錆能力および強度、耐久性とポリマーのもつ優秀な遮断効果による酸性ガス（炭酸ガス、亜硫酸ガス等）の耐透過性、特殊な配合物による初期防錆効果および広範囲な下地への優れた付着力により、比較的簡便に大きな防錆、中性化防止効果が得られる工法であり、建築物の耐久性を保持できる工法である。さらにこの工法にシーラー（ダイヤシーラエポ）と仕上塗材（各種仕上材）を併用することで近年需要の増加しているコンクリート建築物の改装に適応する下地調整材ともいえる。

したがって鉄筋、鉄骨コンクリート建築物の中性化防止、抑制、保護塗材として初期に施工するとコンクリートの中性化、劣化を大幅に遅らせる効果があり、また中性化、劣化が進んだ状態で施工した場合は、中性化、劣化をその時点で停止させる効果がある。また鉄筋、鉄骨が露出している状態の補修材として優れた防錆、保護効果があり、同時に改装下地調整材としての機能を持つ材料、工法といえる。

組成および特長

セメンシャス#2000は水硬性のセメントを主体とした主材と防錆力を付与されたアクリルエマルションを主体とし、それに種々の添加剤を加えた混和液からなる。セメンシャス#2500はセメンシャス#2000に骨材および添加剤を加え、モルタルとして厚付けに適した組成にしたものである。したがって施工は現場で主材と混和液を混練りして使用するものである。セメンシャス#2000、#2500は、

(1)鉄部、コンクリート面に優れた付着力を有する。

(2)鉄部に対してセメントのアルカリ性と特殊ポリマーによる相乗効果で積極的な防錆効果を有する。

(3)炭酸ガス、亜硫酸ガス等の透過抵抗が大きく、ガス遮断効果に優れている。

(4)耐透水性、耐水、耐アルカリ性に優れ、かつ耐凍結融解性に優れた効果を有する。

(5)耐久性、耐亀裂性、たわみ性に優れた機能を有する。

(6)下地を均一化、強化保護し、耐久性のある固着層を形成する。

(7)幅広い上塗り適性があり、各種塗材に適した下地となる。

施工

(1)露出鉄筋のある鉄筋コンクリートの改修工法。

表－1　セメンシャス#2000の施工仕様

材料名・調合割合	所要量	塗回数	間隔時間
セメンシャス#2000　主材　15kg	0.8～1.0kg／㎡	1	16時間以上（20℃）
〃　混和液　5kg	1.4～1.6kg／㎡	2	（工程内は3～5時間）
清　水　1～1.5kg			

表－2　セメンシャス#2500の施工仕様

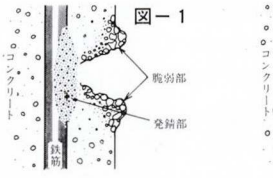
材料名・調合割合	所要量	塗回数	間隔時間
セメンシャス#2500　主材　15kg	約10.0kg／㎡（5㎜厚さ）	1～2	16時間以上（20℃）
〃　混和液　2.5kg	約19.5kg／㎡（10㎜厚さ）		
清　水　0.8～1.0kg			

工程を図－1～図－6に示し、施工仕様を表－1、表－2に示す。

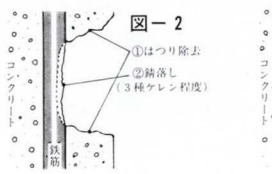
図－1～2はケレン清掃の工程である。鉄部の除錆は、完全に除去は難かしいがセメンシャス#2000の場合は少々の錆の残存を許容できる（3種ケレン）。図－3のダイヤシーラーエポは脆弱部が除去しきれない場合の仕様で浸透固着により下地を補強する。図－4はセメンシャス#2000の塗布でダイヤフィラーブラシ（左官刷毛）ダスター刷毛等で塗付ける。鉄筋部は防錆、コンクリート部は中性化防止の効果を発揮する。図－5は機能モルタル、セメンシャス#2500の充填でコテ、金ベラを用いて行う。図－6は吹付け、刷毛塗りにて全面塗布し、中性化を防止、抑制する。また仕上材を施工する場合は機能性下地調整材となる。中性化防止、抑制を目的とした工法も図－6の工程が中心となる。中性化防止、抑制は巣穴、ピンホール、亀裂があっては効果がなく、セメンシャスによる処理が有効である。この工法は一般建築物、道路、鉄道、港湾構築物等に適応できる。

(2)改装時の機能下地調整材としての工法。

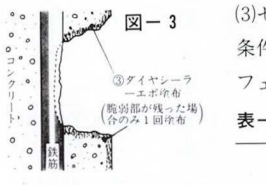
磁器タイル、各種複層模様吹付材等の下地に対しても優れた付着力があり図－7～8の施工もできる。



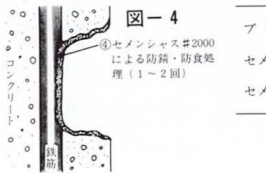
図－1



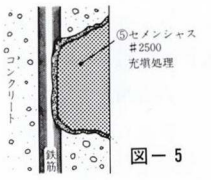
図－2



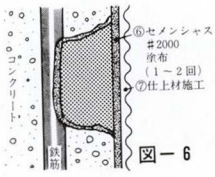
図－3



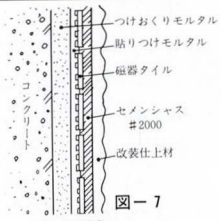
図－4



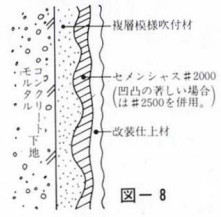
図－5



図－6



図－7



図－8

性能

(1)セメンシャス#2000性能試験結果（材令28日）

表－3　セメンシャス#2000性能試験結果

項目	基板	条件	結果	評価
付着力	SS－41 SS－41 SPCC－SB 1－2モルタル 磁器タイル	室内養生 屋外養生 室内養生 室内養生 室内養生	14.4kgf/㎠ 26.5 12.5 20.6 18.1	
塩水噴霧	SPCC－SB	35℃、5%NaCl	1500時間	異常なし
促進耐候性		サンシャインカーボン促進耐候試験機	1000時間	異常なし
透水性	舗道コンクリート	JIS－A－6910	0.8mℓ/24時間	
耐摩耗性		テーバーテストH－22、500g、1000回転	5300mg	

(2)セメンシャス#2500性能試験結果（材令28日）

表－4　セメンシャス#2500性能試験結果

項目	基板	条件	結果	評価
付着力	舗道コンクリート セメンシャス#2000層	室内養生 室内養生	17.3 kgf/㎠ 21.2	
曲げ強度		JISR－5201－10成形、アムスラー	95.7 kgf/㎠	
圧縮強度		JISR－5201－10成形、アムスラー	318.0	
収縮率		マイクロストレイン、ゲージ	0.26㎜/m	

(3)セメンシャス中性化促進試験結果（表－5参照）

条件は炭酸ガス濃度100％、20℃30日連続送気後、フェノールフタレイン溶液による深さ測定。

表－5　セメンシャス中性化促進試験結果

	各塗材の厚み(㎜)	モルタルの中性化深さ4箇所の平均値(㎜)	中性化深さ比較
ブランク(無塗装)	－	8.1	100
セメンシャス#2000	0.6	0.9	11
セメンシャス#2500	10.0	0（#2500層内で2.7）	0（#2500層内で33）

建材委員／中原　泰

（大阪セメント株式会社研究開発統括部）

日本建築協会法規委員会
（担当：編集委員会法令分科会）

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

185

「大阪市総合設計許可取扱要綱」の改正

主要改正点新旧対照表

項目	新	旧
敷地面積の規模（大阪市建築基準法施行細則第15条の3）	令第136条第2項ただし書の規定に基づき市長が同条同項の表(ろ)欄に掲げる数値によることが不適当であると認めて定める敷地面積の規模は、次の各号に掲げるとおりとする。 ① 第2種住居専用地域、住居地域、近隣商業地域又は商業地域内においては、500平方メートルとする。 ② 準工業地域内においては、1,000平方メートルとする。 （大阪市総合設計許可取扱要綱実施基準 第1．1(1)）	令第136条第2項ただし書の規定に基づき市長が同条同項の表(ろ)欄に掲げる数値によることが不適当であると認めて定める敷地面積の規模は、次の各号に掲げるとおりとする。 ① 第2種住居専用地域、住居地域及び準工業地域内においては、1,000平方メートルとする。 ② 商業地域内においては、500平方メートルとする。
接道条件	建築物の敷地は、次の各号に掲げる区分に従い、幅員が少なくとも当該各号に掲げる数値以上である道路に接しているものとする。 なお、当該道路は、その幅員以上の幅員を有する道路まで通り抜けているものでなければならない。 ① 第二種住居専用地域、住居地域又は準工業地域　6メートル ② 近隣商業地域、商業地域、工業地域又は工業専用地域　8メートル ただし、次の地域における共同住宅（延べ面積の$\frac{2}{3}$以上を住宅の用に供するものに限る。）及び第1・4・(2)「商業地域の指定する区域内の容積割増」に該当するものは、次に掲げる数値以上とすることができる。 ① 第二種住居専用地域又は住居地域　5メートル ② 近隣商業地域又は商業地域　6メートル （同第1．1(3)）	建築基準法（以下「法」という。）第52条第1項及び第2項の規定に係る法第59条の2第1項の許可を受けることができる建築物の敷地は、次の各号に掲げる区分に従い、幅員が少なくとも当該各号に掲げる数値以上である道路に接しているものとする。 ① 第一種住居専用地域、第二種住居専用地域、住居地域又は準工業地域　6メートル ② 近隣商業地域、商業地域、工業地域又は工業専用地域　8メートル
工業地域内における共同住宅	工業地域内の共同住宅については、総合設計制度を適用しないものとする。 （同第1．1(5)）	特に規定していない。
共同住宅の割増容積率の上限係数	基準容積率(v)：$\frac{10}{10}$以上$\frac{20}{10}$未満／割増係数(K_i)：$\frac{1}{3}+(9-v)\times\frac{1}{8}\times\frac{1}{3}$／上限係数($K_u$)：$\frac{3}{10}+(9-v)\times\frac{1}{8}\times\frac{9}{20}$ 基準容積率(v)：$\frac{20}{10}$以上／割増係数(K_i)：$\frac{1}{3}$／上限係数(K_u)：$\frac{3}{10}$ （同第1．4(1)）	基準容積率(v)：$\frac{10}{10}$以上$\frac{20}{10}$未満／割増係数(K_i)：$\frac{1}{3}+(9-v)\times\frac{1}{8}\times\frac{1}{3}$／上限係数($K_u$)：$\frac{2}{10}+(9-v)\times\frac{1}{8}\times\frac{3}{10}$ 基準容積率(v)：$\frac{20}{10}$以上／割増係数(K_i)：$\frac{1}{3}$／上限係数(K_u)：$\frac{2}{10}$
良好な公開空地の有効係数	① 一の空地の面積が500平方メートル以上の公開空地で、幅員6メートル以上の道路に接し、その配置及び形態等が良好なものについては、当該公開空地の面積に、1.2を乗じて得たものを有効面積とすることができる。 ② 一の空地の面積が1,000平方メートル以上の公開空地で、その最小幅が15メートル以上あり、かつ二方以上が幅員6メートル以上の道路に接し、その配置及び形態等が特に良好と認められるものについては、当該公開空地の面積に1.5を乗じて得たものを有効面積とすることができる。 （同第1．2(2)）	下記の公開空地については、それぞれに定められた有効係数を当該空地の面積に乗じて得たものを有効面積とする。（技術基準第1(2)(ロ)の附加及び緩和） 道路に接するもので、その単位面積が500㎡以上の良好な公開空地――1.5

大阪市では総合設計制度の許可について、従来より、「総合設計許可取扱要綱」を定め、これにより運用してきたが、先般、建築基準法施行令第136条第2項の改正により、総合設計制度の適用対象となる敷地規模の下限が引き下げられ、また三大都市圏の既成市街地における市街地住宅の供給促進を目的として、「市街地住宅総合設計制度」が創設され、その積極的な活用が図られるよう通達がなされているところである。

これらの主旨を踏まえて、大阪市においても、より積極的に市街地環境の整備改善並びに市街地住宅の供給の促進を図るために総合設計許可取扱要綱を改正するものである。

この要綱は、昭和58年7月1日から実施される。

改正の概要

(1) 適用対象となる敷地面積の下限を、市細則第15条の3の改正（昭和58年4月1日施行）に伴い、つぎのとおり改めた。

・第2種住居専用地域、住居地域または近隣商業地域においては、従前1,000平方メートルを500平方メートルに引き下げた。

・その他の地域においては、従前どおりとした。（商業地域500平方メートル、準工業地域1,000平方メートル、工業地域または工業専用地域2,000平方メートル）

(2) 適用の条件の一つである接道幅員（敷地が接する道路の幅員）を、つぎの地域における共同住宅については、それぞれの数値まで緩和することとした。

・第2種住居専用地域または住居地域
……従前6メートルを5メートルに。

・近隣商業地域または商業地域
……従前8メートルを6メートルに。

(3) 工業地域内における共同住宅については、本制度を適用しないと定めた。

(4) 共同住宅の割増容積率の算定式において、上限係数を市街地住宅総合設計制度の値に改めた。

(5) 良好な公開空地の有効係数として、一の空地の面積が500平方メートル以上で良好なものについては1.2倍とし、1,000平方メートル以上で良好なものを1.5倍と定めた。

（大阪市総合計画局建築指導部指導課　茂苅日出男）

大阪市総合設計許可取扱要綱（改正要綱抜萃）

（目的）

第1　この要綱は、建築基準法（昭和25年法律第201号）第59条の2の規定に基づく総合設計制度の許可に関し必要な事項を定めることにより、本制度の適正な運用を図り、もって土地の有効利用と市街地環境の整備、改善並びに市街地住宅の供給の促進に資することを目的とする。

（許可）

第2　総合設計制度に係る許可は、建築計画が建設省住宅局長通達「総合設計に係る許可準則について」（昭和46年9月1日付け住街発第48号）、建設省住宅局市街地建築課長通達「総合設計許可準則に関する技術基準の改正について」（昭和53年4月1日付け住街発第14号）、建設省住宅局長通達「市街地住宅総合設計制度の新設について」（昭和58年2月7日付け建設省住街発第11号）及び建設省住宅局市街地建築課長通達「市街地住宅総合設計許可準則に関する技術基準について」（昭和58年2月7日付け建設省住街発第13号）の趣旨に基づき別に定める大阪市総合設計許可取扱要綱実施基準（以下「実施基準」という。）に適合しているものであって、交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がなく、かつ市街地環境の整備改善に資すると認められ、本市建築審査会の同意の得られるものについて行う。

なお、本要綱の適用に当たっては、総合設計制度の趣旨に則り、総合的な判断に基づいて行うものとする。

（許可申請）－略－

（事務）－略－

（附則）－略－

追悼

滝沢真弓先生



明治29年２月９日　長野県東筑摩郡会田村に生まれる
昭和58年５月22日　神戸にて逝去　享年87才

略歴

大正６年　第一高等学校理科卒業
大正９年　東京帝国大学工学部建築学科卒業
同年、旧来の様式主義的建築を批判し、新しい方向を指向して東大同期生、森田慶一、山田守らと共に分離派建築運動をおこす。これは日本の近代建築史上に有名で、滝沢は論客として活躍した
大正９年～昭和６年
順次下記において設計実務に携わる
・葛西万司建築事務所
・平和記念東京博覧会工営課
・堀越三郎建築事務所
昭和６年　神戸高等工業専門学校教授
昭和24年　大阪市立大学教授
昭和34年　同停年退官
昭和34年　神戸山手女子短期大学教授
昭和41年　樟陰女子短期大学教授
昭和44年　近畿大学理工学部教授

主な委員会活動

日本建築学会常議員
日本建築学会近畿支部常議員
神戸市教育文化研究所委員
大阪府建設業審議会委員
神戸市社会教育委員
建築学会賞選考委員
日本建築協会近代建築調査委員会委員長

＊

●芥川龍之介全集書簡集の中に、矢羽真弓(やばまゆみ)注宛の書簡２～３通。
●神戸工専時代、建築論、建築史担当。パルテノン研究をライフワークとする。学生の作ったかぞえ歌に、「５つとせ　いって来たのかパルテノン　滝沢教授のしたり顔」というのがあり、本人は気に入っていた。
●昭和49年神戸時代の教え子有志とパルテノン旅行。このことを生涯喜んでいた。
●昭和41年４月29日、勲４等旭日小綬章を受ける。
●クリスチャンになって１年余り。楽しんで礼拝に行き、楽しんで聖書を読んでいた。葬儀は５月24日日本基督教団須磨教会でとり行われた。

注）東京帝国大学在学中に旧姓矢羽から滝沢に養子縁組

各追悼文の見出しは編集側でつけたものもあります。ご了承下さい。

芥川の帽子

彦谷邦一

随分古い話だが、学生時代に滝沢先生のお宅によんでいただいて御馳走になったことがある。その時うかがった話はすっかり忘れてしまっているが、なぜか、あの部屋の鴨居にかかっていた一高の帽子が、今でもあざやかに目に残っている。当時もなお大事にしておられたその帽子は芥川龍之介からもらわれたものであると聞いたが、何かそういったロマンを大切にしておられるところがあった。因みに先生は東京府立三中から一高、東大と進まれたが、芥川とは同窓で中学以来、先輩、後輩の間柄である。

装飾法（建築論）という学科も単なる通り一ぺんの講義ではなく常に脱線するのであるが、私にとっては楽しみであった。先生の頭の中に一杯あるものをきわめて整然と話されるのではあるが、ともすると独演ということになっていた感があった。時に「落下の雪に踏みまよう……」と太平記の道行(みちゆき)の一節を流暢に最後まで暗誦されたり、シューヴェルトの〝野ばら〟や〝ローレライ〟を原語で歌われる姿には未だ旧制高等学校のおもかげがうかがわれて、羨ましい思いがした。先生は永遠の青年ではなかったかと思われる。博識多才の大変な教養人であることは今さら言うまでもない。今、あらためてパルテノンについての論文を読みかえして、その広い範囲にわたっての傍証に敬服させられた。それが、ともするとペダンテックに見えてくるのかもしれないが……。

私は教会のお葬式に参列して牧師の語る先生の御一生のうちでとくに、若い頃大変苦学されたこと、と同時に晩年洗礼をうけられキリスト教徒になられたことを初めて知り、感慨深いものがあった。最近お逢いする機会がなく、回心の動機などを直接お伺いできなかったのが心残りである。

（ひこたに　くにいち　彦谷建築設計事務所所長）

「広さ」と「深さ」

白木小三郎

滝沢先生が大阪市立大学の教授をしておられた昭和30年頃、同じ神戸の須磨に住んでいた関係で、国鉄の須磨駅から電車でよく同席する機会がありました。そんな車中で、先生の「広い」教養は、当時の自分などには理解できないようなむつかしい話となって、絶えることなくつづいたことは忘れられません。わからないお話をじっとして聞いていることが重圧となってきて、先生とは同じ電車にならないよう、時間をずらして乗るようにしたこともありました。

しかし、このような車中での多くのお話のなかで、今日でも忘れ得ないお話の一つは、教授の立場の「広さ」と研究者の立場の「深さ」についてのお考えでした。「教授はより多くの有為な学生をより広い教養を持つように教導する立場であり、一方的な『深い』研究からだけしか得られないような博士の学位とは直接つながるものではない」。「この頃のように学位がないと教授になれないのは理解できない」。

このような滝沢先生の意見は、昭和15年頃、恩師の本野精吾京都工専教授(現京都工繊大)が助手の私に「学位なしで教授になるような広い勉強を」と教えていただいたことと完全に一致するものでした。滝沢先生の車中のこのようなお話に、改めて「建築」という領

域の「広さ」を教えていただいた想いをしました。そして、本野先生の建築の分野から工芸デザインの分野での活躍、エスペラントや日本式ローマ字の開発など、その「広い」教養と業績に、改めて教授としての教導力を痛感させられた次第でした。研究者としての「深さ」とは違った教授としての「広さ」を、滝沢先生のお話のように、今こそ考えてみる必要があるのではないでしょうか。

（しらき　こさぶろう　大阪市立大学名誉教授）

「江南春」の書

宇都宮隆夫

昭和18年の暮れ、当時内蒙古張家口の勤務先から休暇をもらって帰る途中、かねて先生からお聞きしていた漢の画像石のことを思い出し、北京の瑠璃廠（チャン）で喜祥県武梁祠の拓本の一包を見つけたので、神戸高工の先生の研究室へお持ちしたところ、大層喜んでいただいた。ところが20年３月の空襲で灰になってしまって、残念がっておられた。しばらくして、三宮にあった私達の事務所へみえて、「おそくなったが、あの拓本のお礼に」と外面溜塗で内面黒塗の小型で美しい弁当箱と、画像石によく見られる漢時代の戦車を染め抜いた日本手拭をいただいた。記念に残したかったけれども、当時のことで手拭はいつの間にかなくなってしまった。弁当箱はつい最近まで、台所の戸棚の隅で見かけていたように思う。

先生が大阪市大に移られ扇町の仮校舎におられた頃、研究室へ時々お邪魔する機会があった。その頃書の勉強をしておられたが、杜牧の有名な「江南春」の書をいただいて帰った。しかし軸を掛ける壁面がなかったので、巻いて棚に置いたままになっていた。それから20年近く経って、先生を自宅にお招きする機会があった。つい最近日の目を見ることになった例の書をご覧になって、「これは出来がよくないから、いずれ適当なのを書いてあげよう」と言われた。昭和46年の春のことである。

一昨年、兵庫県南庁舎の保存運動へのご協力のおねがいにお伺いしたとき、昔のアルバムを見せていただいた。それには分離派建築会のお歴々との会合の写真が何枚かあって、随所に先生の立派な書が掛かっている座敷の壁が写っている。そのとき、やっとあの「江南春」の自書を見て言われた言葉の意味がわかったような気がした。「千里鶯啼……」にはじまるこの七言絶句の書は私だけの宝として、いつまでも掛けておくつもりでいる。

（うつのみや　たかお　宇都宮建築設計事務所所長）

明日香乙女に高島田

山田幸一

滝沢真弓先生に初めてお目にかかったのは昭和18年神戸高工入試面接のときであった。後でお名前を知ることになるが、当時建築科長をなさっていた先生から種々質問を受けたことを不思議によく覚えている。「建築、architecture」の語義の説明に始まる授業は軽妙洒脱、ともすれば殺伐になりがちな戦時下で聴くのが楽しみであったが、勤労動員等で十分先生に接する機会のないまま卒業してしまった。

先生をより身近に感じるようになったのは、私自身も教職について先生と同じ大阪市大に奉職するようになってからである。西洋建築技術史に関する拙い論文を添削していただいたこともあった。桂離宮参観に同行してタウト建築論への鋭い批判も伺った。また旅先の宿では古典から現代までの建築作品を語られて倦まれることがなかった。ここではパルテノン研究の泰斗として、さらに分離派建築会の驍将の一人としての面目躍如たる先生のお姿があった。

しかし滝沢先生という場合、私には学究というよりも偉大な常識人というイメージがどうしても先に立つ。講義は文字の解釈にとどまらず、漱石の「三四郎」からアインシュタインの相対性理論に及び、法隆寺の復原を評して「明日香乙女に高島田」という名句ものにされた。また誰しも謹厳にならざるを得ない学位論文の公聴会では、座談さながらの話術で聴講者を魅了し尽くされもした。そして教え子に囲まれてアクロポリスに立ち、「行ってきたぞよパルテノン」と喜ばれる茶目気も持ちあわせておられた。こういう場面での先生は、およそ学者という枠からはみ出した存在であった。

私は最近学生向けのガイドブックに「建築は帝王学」という一文を載せたが、それは多分に先生のお姿を意識してのことであった。学問は時とともに細分化するもので、建築もその例外ではなかろうが、そうであればこそそれを総合するコンダクターをより必要としよう。先生こそはまさにそれに最適の、しかも最後の人格ではなかったか。

巨星また一つ墜つの感しきりである。

（やまだ　こういち　関西大学教授）

君これをあげるよ

——市大のころの先生——

林野全孝

滝沢先生には、大阪市大発足後の昭和20年代後半から31年３月までの６年間、私は助手として直接ご指導を受けた。指導といっても、先生は磊落な方で、私には好きなことをさせて、またご自身のことも決して私に手伝わさず、何でもご自分でされていたので、こんな楽な助手はなかった。それに先生ははなはだユーモアに富み、いつも洒落を飛ばしては私たちを笑わせておられた。

当時、私は神社建築の発生に関する研究を主としていた。先生は直接には何の意見も述べられなかったが、「君、神社を勉強するなら、まずこれを読みたまえ」と、フレイザーの金枝編（岩波文庫）を下さった。また埴輪家について調べていると、「君、これをあげるよ」と何げなく、赤堀村今井茶臼山古墳の豪華な報告書を下さった。この報告書は昭和８年帝室博物館が発行した、今では大変な貴重本である。このようなことがしばしばあって、古本屋から珍本や珍資料を買って来られては、その中で私に必要と思われるものは惜しげもなく「これ君必要だろう」と下さる。昭和28年の伊勢神宮造替のときには、旧神殿の特別拝観紹待状を持たれて、「君伊勢へ行って来なさいよ」と先生の代理で拝観したこともあった。これは私にはとくに有難く、おかげで心の御柱の考察を発表するもととなった。

なお先生が市大を定年退職されてから後、建築協会で近代建築調査委員会が発足し、先生はその主査になられて、再び先生のご厄介になり、さらにまた近畿大学でも２年ほどお



滝沢研の新年宴会（於林野家）——1953年１月５日
左より小松益喜、林野全孝、一人おいて滝沢真弓、後藤捷二、上田光雄の各氏



十国峠にて――1955年5月　左より鳥田家弘、滝沢真弓、林野全孝の各氏

世話になり、幸いに先生との縁は続いた。

先生は直接に私を指導することはされなかったけれど、常に、どこかで私のしていることを知っておられて、必要な資料を集めてきてはさりげなく下さったので、実際には直接指導たまわったこととなろう。この辺に先生の先生らしい温かさがあったように思われる。ご他界前にもう一度お目にかかりたかった。これは私にとって今最も悔まれることである。心より先生のご冥福を祈り、ご生前のご教示に改めて厚く御礼申し上げたい。

（はやしの　まさのり　京都府立大学教授、工博）

パルテノン見学

谷川昭悦

1974年6月13日（木）快晴・アテネ

「葡萄酒色なせる海のただ中にクレタと呼ぶ島あり波浪めぐる豊けき国……」ホメロスの詩に始まるいつもの名調子でアテネの起源・パルテノン建立の由来から比例の話へと滝沢先生の話に聞き入る。朝食後のアテネパレスホテルのロビーに集まったのは神戸大学木南会の「滝沢先生と共にヨーロッパ建築の源流を探る旅」に参加したメンバーで、昨日アテネに到着したばかり。今日パルテノン見学に先立っての勉強会である。

くねくねとバスはヒロパポスの丘を登って行った。この頂上から見るアクロポリスは圧巻である。右からパルテノン・エレクティオン・プロピュレイア等が3000年の歴史を秘めて真正面に浮かんで見える。先生はただじっと喰い入るように眺めておられたが、その胸中を去来するものは？〝行って来たのかパルテノン〟とかつて学生達に唄われたそのパルテノンを臨んで、われわれには計り知れない数々の回想が浮かんでいるのだろう。

アクロポリスへの急な石段を登りつめ前門（プロピュレイア）からパルテノンへ一歩一歩踏みしめるように歩かれる先生は終始寡黙で、あまりお話しにならなかった。生涯をかけてのテーマであったパルテノン、今その全貌を目の前にしてすべてのエネルギーをこの巨大な建物に集中しておられるのだろうか。そこには学究の徒滝沢真弓を彷彿させるきびしい表情がうかがえた。



ヒロパポスの丘にて滝沢先生

午後はスニオン岬を訪れた。バスの沿道はさながら太陽の国ギリシャを象徴するかのように光にみちみち、空と海は抜けるように碧い。先生も午前中の緊張感がほぐれリラックスしておられたが、やはり78才のご老体にはハードなスケジュールであったかも知れない。

スニオン岬での夕食は今日一日のフィナーレを飾るにふさわしかった。ほどよいワインの酔いと海の幸の数々に話がはずむ。折しも太陽は「葡萄酒色なせる海」に沈もうとして、今まで白亜に燿いていたポセイドンの神殿が茜色に染まり、やがては黒い柱列のシルエットに変わってゆく。まさに壮大にしてアルカイックな美しさを秘めたエーゲ海の落日のドラマであった。

（たにがわ　あきよし　谷川建築設計事務所所長）

近代建築調査委員長として

坂本勝比古

学生時代に歯切れのよい口調で、難解な論旨の講義を受けたことが印象に残っているが、先生と直接お話しできる機会は、学生時代よりもむしろ実社会に出てからであった。

私が近代建築の研究を志すようになって、いろいろな機会に先生のご指導を受けることになったが、もっとも思い出深いのは、昭和34年から40年まで5年余り続いた、日本建築協会のなかに設けられた近代建築調査委員会に参加させていただいたことである。このころは近代建築についての関心がようやく高まり出したころであったが、建築協会ではいち早く委員会を設置し、滝沢先生を委員長に、亡くなられた政岡基次氏を参謀格として、当時の官界、設計事務所、施工会社、設備、材料関係の長老をはじめ、学者、若手研究者を集めた構成で発足した。

滝沢先生は申し上げるまでもなく、分離派建築会の驍将のお一人であり、古くさい様式建築には興味を示されないのではないかと思っていたが、この委員会の活動には大変ご熱心で、積極的にわれわれ若手の研究者を勉励された。ちょうど昭和36年2月号で、主として私が受け持った居留地建築特集では、内容が初めての企画であったため各方面から好評を得たことに対して、大変喜んでいただいたことが思い出される。

滝沢先生とは委員会の帰り道、同じ神戸であったため、よく大阪駅までお伴して一緒に国電で帰ることがあった。滝沢先生は小柄ながら、いつも端正な風丰で、見るからに清廉なお人柄が印象的であった。先生が言われたことのなかで、今思い出す言葉は、「分離派といっても、つまるところはヨーロッパの模倣であった。ヨーロッパの影響がいかに強いものであったか改めて感じとることができる」と述懐されたことであった。また旧兵庫県庁舎（山口半六設計）について、あれだけの力作を建築学会の「明治大正建築写真聚覧」に掲載されていないのは、学会の中央偏重、地方軽視の表れだと、いろいろな機会に述べておられた。

滝沢先生は大学を卒えられたのち、分離派の活動や、学会の仕事、堀越三郎先生の事務所におられたが、建築評論にもしばしば執筆しておられる。先生がなぜ神戸に移られたのか、私は伺う機会を失して残念であるが、先生のもつ反骨精神が中央で相容れないむきがあったからではないだろうか。あるいは先生のことなので、阪神間の住み心地のよい風土がお気に入られたゆえであったのかもしれない。日本の近代建築史のなかで巨星の一つが、静かに墜ち去ったという思いがしてならないのである。

（さかもと　かつひこ　千葉大学教授）

パルテノン秘話

後藤摂二

一見、俗事の寄せ集めと考えられる新聞の切り抜きから、独特のユーモアと皮肉を交えて料理される滝沢流の学問の手ほどきを受け、なにかを学んでほしいという先生の漫談的情報理論、情熱、思想に反して、金稼ぎの徒に脱落している私だけが感銘を受けた教え。

『行って来たのか？　パルテノン　滝沢教授のしたり顔……』という旧神戸高工の剛毅節第5番目の数え歌に因んで10年近く前、卒業生有志が先生にぜひパルテノンを踏査していただこうと據金し実施に至った。当初私もお供をする申し込みをしながら、直前になって勤務先の企業が危うくなり、急ぎ取り止めざるを得なくなった。

事を察知された先生は突然私の所に、「旅費は心配いらないから、ぜひ一緒に行かないか」とわざわざご持参下さったのである。卒業生有志の血と汗の結晶……據金の満額……。先生の馬力にいったんは押されたが、もちろん固辞した。

学問・人生の最終目的は何か？　先生は真・善・美を知ることであると説かれ、「徳は決して教えられない。個人個人自らの魂の浄化を助けるのみ」としたソクラテスの教育態度を実践された。

この姿勢は今後もなお私の心に若々しく生き続けることであろう。中原先輩の梅田の酒房『山小屋』のトイレ扉に輝く直筆の木板額『抜き放つ三尺の秋水処』とともに。

（ごとう　せつじ　神戸ホームビルダー事業協同組合技術担当）

温故知新

——近畿大学時代の先生——

櫻井敏雄

大阪市大時代の滝沢先生を存じ上げてはいないが、恩師浅野清先生や林野先生を通じて、お話を伺うことが多かった。私が直接、存じ上げているのは近畿大学にお出まし下さるようになってからのことで、私の方がひと足さきに奉職していた。直接、同じ研究室ではなかったものの、意匠・建築史の講座ということで、先生に接する機会も他の方よりは多かった。

学生を通して伺う先生のご講義は、私が大阪市大以来、お聞きしている通りのものであったらしく、軽妙洒脱、かつ矍鑠としておられた。当時、西洋建築史の講義は、先生と私がコース別に分けて担当していたが、先生が退職されると、ご担当であったコースの講義ももつようになった。その最初の年には、先生の講義の単位を未修得の学生が受講し、その答案にはいつも大きく「温故知新」と記されていた。

昔のことをたずね求めて、そこから新しい見解・知識を得ようとすることは、先生の建築史に対する基本的な態度とお見受けしたが、この基本的命題だけでも、先生は学生に教えようとされておられた。

そのことのもつ意味を、分離派建築会のおひとりとして先生の選ばれた道と、どのように関連するのか、学生が理解したかどうかはわからない。しかし、そのことのもつ意味は、学生の脳裡に強く焼きつけられたものと思う。

先生は出来の悪い学生に対しても変わることなく、時流を越えて、ご自身の見識を確固とまもられ、それは学生にも、私達にも忘れ難い印象を強く植えつけたことは事実であろう。

（さくらい　としお　近畿大学理工学部助教授、工博）

分離派以降と先生

飯田精次郎

先生が神戸工高に赴任されたのが昭和6年(1931年)、私が卒業したのが1930年。ご講義を受けたことは残念ながら1回もない。

1917年、帝国大学の卒業生のうち石本喜久治、堀口捨己、山田守、矢田茂、森田慶一、滝沢真弓の6人が分離派建築会の設立宣言をした。この6人を刺激したオットー・ワーグナーのセセッション建築工芸運動宣言が20年前の1897年である。分離運動の理論的中心人物は滝沢先生と森田慶一先生の2人らしかったが、当時有名になった新人作家の芥川龍之介に会って意見を聞くなど、滝沢先生の青年らしい意気が感じられて、ほほえましい気持ちになる。

滝沢先生がギリシャのパルテノンを研究され、森田先生がヴィトルビュースを研究されたことは分離派の運動と対照して興味のあることである。

分離派の人達が卒業した1917年は第一次大戦が終わった年で、世界が大きく変わろうとしていたときだった。その当時から次々と建築運動が起こったが、日本でも次々と世界に通用する建築家が育っていった。

先生は1929年の世界大恐慌の翌々年に神戸に来られた。それまで東大の先輩の堀越建築事務所に勤めておられた。日本でも底知れぬ不景気に突入していった。神戸に来られたときの建築事務所のむつかしさが想像される。

その後、時々学校を訪ねて諸先生にお目にかかったが、先生は日本の将来を大変心配され、私達若い者にもいろいろアドヴァイスをして下さり、達筆の毛筆書のお葉書をたびたびいただいた。

戦後、法隆寺壁画火災事件のとき二度現場調査に行かれ、復原問題に大変明快な意見を出されている。

パルテノン見学旅行のときご同行できなかったことを、今も残念に思っている。

（いいだ　せいじろう　株式会社共同設計代表取締役）

お手紙拝見致しました　あなたは私に一年前くらいから興味を持って下さったそうですがその点では私の方がもう少し前からあなたのことを知っていますもっとも初めはあなたの名前が面白かったのであなたの存在を（こう申し上げるのが失礼でなければ）みとめたのですがその後いろいろな人からいろいろなことを聞いて漸くあなたに対する私のある感情がきまるようになりました　そこであなたと話してみたいような気がかなり前からしていましたが先輩というものの大嫌いな私から推してあなたもさぞ私の所へなぞ来るのが退屈でいやだろうと思いましたからそこで遠慮して黙っていました　あなたはこの間遊びに来いと言われて勇気がついたとお言いですが私はまた遊びに来てもよさそうなことをあなたが言ったのでそれで勇気がついてこの前の手紙を書いたのです
画もろくな画はありませんが遊びには是非来て下さい　私の都合はいつでもいいんですが早くから日がきまっていればなお結構です
その日にほかの人の来ないようにできますから互いに知らない人が二人私の所でおちあうのが私は大嫌いなんです

二十八日

芥川龍之介

矢羽真弓様　梧下

大正4年9月28日芥川龍之介から滝沢先生（旧姓矢羽）宛の書簡
——角川書店「芥川龍之介全集」第1巻所載——

CEILING & PARTITION





どうあるべきか、内外装のこれからは…

奥村重兵衛㈱は、建築物のより高い居住性を考えた場合天井及び間仕切こそが内部空間創造のルーツであり、建築物の雰囲気を決定するものと確信しています。金属天井及び間仕切材のパイオニアである当社は内部空間創造に関するあらゆる技術を誇っています。… ユーザーの要望を即製品に反映させる柔軟な管理及び生産技術により、非常に広範囲のコンビネーションが可能な体制で取り組んでいます。… 最近では足場及び吊りボルトの不要な工法や、耐震工法、クリーン工法などすべての領域に高度な施工技術を開発してあらゆる建築空間創造のテーマに挑戦しています。

テクニカル・データ

大阪駅前市街地ビル第４棟及びプロムナード

● 創作金属パネル
大阪駅前市街地が新しく変わりました。ビルの３階に造られた公園につながる外部からのエスカレーターと、展望タワーをとおして第３棟と第４棟を結ぶプロムナードがビルとビルの谷間に広がる憩いの空間として明るく調和しています。アルミニウム、ステンレスパネルなど当社の創作金属パネルが随所に採用されています。

設計－東畑建築事務所

OKUJU・リアル・システム

- 内外装創作パネル
- OKUJU式パーティションシステム〝NS-P・NS-PW〟防火第126号・第127号・第242号／1時間耐火構造W1008・W1052、2時間耐火構造W2104・W2110／遮音構造第4号・5号・45号・59号・61号
- 装飾天井〝クロッバー〟
  チェックル／ブロック／マイルドチェックル／アンブリ／キャストル／メタルグロリア／サニーライン／サニースパン／レインボー／バイブル／ワイヤネット／アーティスト／フォーカス
- OKUJU式軽量鉄骨天井・間仕切〈JIS製品〉
- 片面壁システム〝JW工法〟
- 天井点検口〝ALTS〟
- OKUJU式システムシーリング〝ALTS工法〟〝Jライン工法〟
- 天井防煙壁〈固定式・可動式〉〝ケムノン〟

OKUJUグループ

大淀金属工業㈱・日進工業㈱・㈱大向商会・三栄軽金属㈱・ニシネ㈱・㈱日建・第一産業㈱・㈱アモウ・高知中央建材㈱・新日本建工㈱・藤田産業㈱・吉野建材店・㈱佐藤忠七商店・㈲松本建材店・㈱松岡商会
岩崎木材㈱・第一交易㈱・東建工㈱・中元建材工業㈱

空間を追究する技術
Okuju

奥村重兵衛株式会社
本社　〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号 ☎(06)312・4131㈹
東京(03)437・3361 名古屋(052)522・5436 福岡(092)291・0459
仙台(0222)65・6568 沖縄(0988)53・6850

土肥耕一

東畑建築事務所

聞き手・編集委員　柏木浩一（竹中工務店）
プロフィール撮影　島　修一（STUDIO A・T）

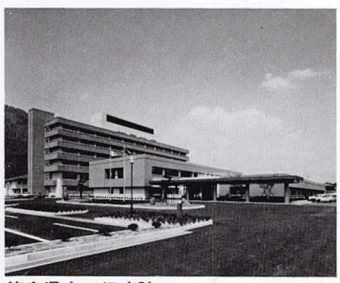
略歴

生年月日	昭和8年5月21日(50歳)
出身地	大阪府東大阪市
最終学歴	京都大学工学部建築学科 昭和34年卒業
職場	東畑建築事務所取締役 設計部長
事務所所在地	〒541 大阪市東区伏見町5－19
代表作品	医療法人みずき会芸西病院（高知県安芸郡）　徳島県立三好病院（徳島県三好郡）
好きな空間	ストーリーのある空間





医療法人みずき会芸西病院



徳島県立三好病院　撮影 S S

忘れられた人々のために

「もし、建築の道に進んでいなかったとしたら、精神科医になっていたら面白かったのではないかと思う。人のいきざまや人間の裏や表が一番良くわかる職業であるから……」と述懐する。幼い時から成長するにつれ人間の内面に一歩踏み込んだ仕事がしたかったと語る。建築を志した動機も、それが人間と深い関連を持ち、人間と社会との触れ合いの要素が大きいと考えたからである。

東畑事務所に入って10年ほどたち、ようやく病院を設計する機会に恵まれた。社会的弱者の立場に返って建築を造りたいという想いがかなえられて、それからは堰を切ったようにと病院の仕事が続く。次から次へと病院の設計を手がけ、今やこの分野ではオーソリティーの1人である。代表作品には徳島県立中央病院、芸西病院、三好病院、高槻病院などが続く。病院建築の魅力についてズバリ「そこでは人間が24時間生活し、人生の裏と表があり、しかも哀しみ喜びの両端を支えている。その人間臭さに魅かれる」また「その反面、技術的には非常にハードな面が重視される分野」を人と建物とのかかわりの深さ、それに高度の技術性を求められることを挙げる。

インタヴューでは病院設計の中で得た数々の貴重な体験話を披露してくれた。例えば、ある精神病院の設計を依頼された時、医師から〝精神分裂症にかかっているのは貴方が風邪をひくのと同じだと思って設計して欲しい〟といわれ、大変感銘を受けたという。「人間、いつ自分と立場がひっくり返えるかわからない。いつ、人の災難や不幸が自分のこととなるかわからない。そう考えると、つい人ごとでなくなる」と社会的ハンディーを背負った人々のための空間造りに、気迫のこもる執念を見せる。また、ある精薄児童施設を手がけた時、施設の人から〝危いものから精薄児を隔離するのではなく、ストーブに触ると熱い、ガラスを破ると寒い、そうした実感を子供に覚えさす建築を造って欲しい。貴方もそうして生きることを学んできたのでしょう〟との言葉に、目からうろこの落ちる思いがしたと計画の根本に迫る実感を語ってくれた。常に弱者の立場に立ってものを見つめようとする強い使命感が言葉の端々にうかがえる。性分として弱い者を見捨ててはおけないと語る。

さて、現在は50年の伝統をもつ東畑建築事務所の設計部長の職にある。自ずからは次第に手を動かさなくなって辛いという。しかし組織の中では、かえって手を動かすと全体のシステムがうまく回わらないと割り切るが、反面、設計者としての寂しさを隠しきれない様子をのぞかせる。手を動かさないことに関連して、最近の大学の建築教育にも一言、「手を動かすことが少なく、頭だけで教わる傾向にある。若い人が手を使わなくなることを考えただけでも恐ろしい」と設計の基本が手の訓練にあることを説く。また、設計組織の管理職の立場にあって、量から質への転換期にある今、組織としての対応をせまられていると語る。とくに若い人の才能を、どう芽ばえさせて位置づけていくかが重要課題の一つであると、「分業態勢は量的解決を図るためのもの、ともすれば個人の持っている良さを殺す傾向にある。効率化への限界を見きわめた上で、分業でない分担がスムーズにできないかを模索している」一人一人の持ち味を発揮できるような集団のチームワークをはぐくむ土壌が大切と考えているのである。

常に現場が気になり、時間のある限り現場を回って見ているという。病院建築の場合はとくに気がかりとなり、足しげく現場に出るという。また「本来、建築とは人の出合いの大切さを知ること。仕事の一件一件ごとに出合いがあり、それを感動的な出合いに高めることも、自分の努力と能力のうちだ」と言い切る。「ものを創る行為は建築主や施工者と設計者の、いわゆる人と人との対話から生まれるものである」「施主と抱き合って感激をわかちあえる仕事を自分自身もしたいし、若い人たちにも体験してもらいたい」と語った後、「いたる面でアンバランスがあらわな今、どれだけ手をこめて創れるか、そして破綻を予感する今、どこまで主体性を貫けるか自問する」ともいう。

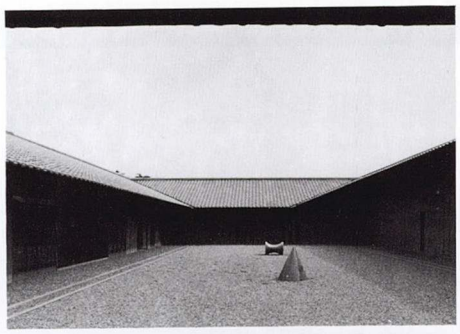
寡黙にして重厚な気迫を秘めているが、一旦、微笑が崩れると、そこには弱者の痛みをとことん知りつくした人の優しい眼があった。

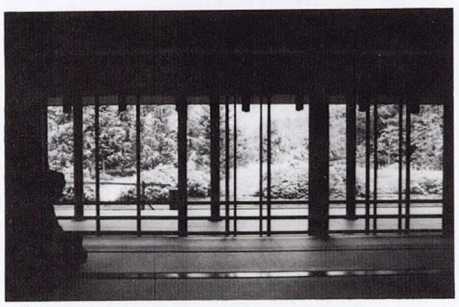
〔次号の登場者は川崎清氏（京都大学）〕

三輪山徘徊

——第3期竣工を機に、三輪そうめん山本本社（狩野忠正氏設計）を見る——

加藤　力





薄霞が立ちこめていた。幾分か強い日射しの下で奈良の嶺々は今日も青く、風も凪ぎ、うっとりとした睡気を誘ふ静止感が土地を支配していた。特急を乗りついで桜井に向い、そこで国鉄に乗り換える。やがて三輪駅に降り立つ頃は、都市の苛立を数える新興の家々のひしめきあった密度は薄らぎ、ひっそりと過去の夢を追うかのような鄙びた町の風情が漂っていた。町並みをぬけると、あたりの表情は一段とゆるやかになる。三輪山を望んで巻向川の流れる縁に、うっそうと木立の繁る場所がある。神山と呼応しながら森閑として、そこは三輪山の神大物主の妻、倭迹々日百襲姫の墓と伝えられる箸墓という。そこだけが一種、冥界な空気をよどませて土地の特色を造り出している。このあたりはいまだなお、神々の伝説と現実とが薄ぼんやりとした意識の中で交差するような時の余韻を残している。バス道路を挟んで箸墓と向い合う位置に、三輪そうめん山本本社はある。樹木の陰に見え隠れして大屋根の連なりがゆるやかな拡がりを見せている。瓦が、その一枚一枚に微妙な陰影をうねらせて、上空からの陽光を一心に集め、淡く鈍色の光彩を放っている。歴史の奥深さと、未だ神々が彷徨うこの地で建物はいささかも憶することもなく、しっかりと地に足をつけて建てられていた。遠くからはそれと一目で解るが、なんのてらいもなく、たしなみのある光景をかたち造っていた。道路との境目は立木に囲まれ、わびさびた素愁さをしのばせている。その内側は細石が一面敷かれ古代紫の色の建物まで続いていた。

人は足元から音を立てながら建物に近づく。軒下が深く、低く、そのたおやかな膨らみの下に深いかげりを滲ませている。薄明りの中に一定の間隔を置いて、何本かの柱が立ち並び、中央で一旦とぎれた所が入口である。見事な足元の処理に誘われて、軒の下に一歩踏み込む。歩行の感触が、幾分か強い御影石の調子に変わり、周辺から音が消えた。陽光のもとで、いささか火照った身体を軒下に淀む冷気が、すっぽりと取り囲むように包んだ。爽涼にして、静謐な夏の匂いが全身に浸みわたった。身は外気に預けているが、ひんやりとして内に存り、視界は軒の先で切られて内にあるが、遮るものは前になく外を見る。内と外との微妙な領界に寄りかかりながら、意識はすでに内を視ている。立ち並ぶ柱は見慣れた太さに比べれば、わずか心細い。しかしその細さの為か、その分だけの緊張感を生み出している。思わず柱の一つに近寄って、つと手の掌を押しあててみた。冷えた感触が腕の中に浸み入って、次の瞬間、ある衝動がはたらいた。再度、その材質感を確かめるように指先で軽くはじいてみた。手の先で金属質の鋭い音が冷涼たる反響を残して小さく裂けた。光彩を集めるだけ集めて、やがて色を失なった薄暗がりの軒下を、音が柱のあいだに伝播して、共鳴し波紋を広げていった。しばし戸惑いがあって、やがて広漠とした寂寥感が空間の中に流出していくのが解った。意識と感触との狭間に、素材の微細な響きを聴いた。響きは萎えてもおらず、鈍くもなく、よどみもなかった。媚びるところもなく、素朴で清けき余韻を残して消えた。

建物の内と外との隔は瀟洒な枠を持つガラスで軽ろやかに仕切られている。希薄な光の中を視線を透して、内外の空間の質量を平衡化している。揺らぐような空間の密度に押し流されて内部へと入る。床が、射し込んできた低い外光に照らされて、ゆらゆらと幾つもの光を立ち昇らせている。その光の上を視線は、大きく伸びやかに迂回し、流れていく。空間の広さの故に棲みついた陰影が、天井の下で、壁の脇で淀み塊っている。その場限りの小細工じみたところがなく、長い年月のうちで醸華、体得されてきた人と空間との関係の尺度が両現されていて、安堵がある。視線の移ろいの中で、止めどもない拡散が始まっていた。しばらくして、視線がたどり着くよりも先に、意識が正面にある光庭の位置を探し当てていた。開口は大きくあけ放たれていて、空気の流れは確かそこから伝わってくるに違いない。けれども流れとは逆に、一旦、空間の中に拡がった意識は、なだれこむようにと庭に集中している。庭には白い砂利が、一面敷きつめられて寂とし、その上に根元的な成業をもつ、さらに白い石の彫刻が2つ、見えない糸で張られたような緊張した距離で相対して置かれている。三輪山の伝説をなぞらえて形づくられたものである。陽の光のもとで庭はいっそうの白さを含み、眩むような光を放っている。汚れもみせない庭に手繰られて、意識は昂まりをみせ、やがてフーッと気を抜かれるようにと上空へ舞い上がって逝く。沈黙がさらに深みへと誘い、しばし瞑目して思った。ここには何かしら目に見えない力が働いている。さて、この建物の中には豊饒ではあるが、一般では目に触れられぬ、秘やかに張りつめた空間が2つある。一つはホールの脇の奥に配された和室であり、もう一つは倉庫の上に位置する屋上庭である。いずれも居ながらにして三輪山の輪郭を捉えることができる。あるいは逆に神山から見竦められるという場所にあり、ある妖しさを秘めている。とくに屋上庭は四方を瓦の屋根の傾斜だけに囲まれて、ただなにもない。箸墓の繁みを棟の上に覗かせて、三輪山だけが望まれる。設計者はこの居場所を得んが為に、あるいはこの建物を造ったかも知れぬと語る。清涼、豊饒たる時をすごして、建物を辞す。

三輪山の北斜面にのぼれば、山懐は時ちょうど蜜柑の花が豊潤たる芳香をのせて、華やいだ空気を漂よわせていた。しかし、桧原神社を境にして、大神神社へかけては、身体にまとわり着くような、湿々とした暗さがあった。土地への意識の深まりが、一歩づつ核心に迫るような霊気を孕らんでいた。何かしら土地に執着するものがあった。時々、思い出すかのように視界が開け、奈良の平野が望まれた。平地にはうっすらと沈澱しているかのように霞がかり、その中に大和の山々が薄ぼんやりと姿を現わして居た。悠久の時の流れが体内を駆まわり、いにしえの深淵さと情景とが再現されていた。時折、するどく鳥のなき声が神山をかけ抜けた。大神神社まで登りつめ、その帰り道、参道に敷きつめられた玉石を踏みしめながら、禁じ得ないある想いが頭の中に固着していった。はたしてあの建物は、土地の精霊どもが人を指名し、形態を示唆し、素材を選び造りあげていったかも知れぬと。よしんばその空想は隠当を欠いてはいようとも、不条理が故にこそ信んじる自由は許されよう。

日はまだ落ちてはいなかったが、三輪山を振り返えり見ると神山は青く、次第にその輪郭を濃くしていた。

（かとうつとむ　京都工芸繊維大学住環境学科・講師）

市街地に建つ高層建築物の周辺気流に関する研究

1．まえがき

高層建築物周辺に発生する強風現象が社会問題として注目されてから既に久しくなる。その間、数多くの風洞模型実験や実測がなされ、現象の解明に成果をあげている。ところが、その成果を他に応用することは難しい。なぜなら、建物形状や周囲の状況がそれぞれに異なるうえに、実験結果を公表されることが少ないためである。

そこで、著者らは市街地に建つ高層の集合住宅を想定して風洞模型実験を行ない、周辺気流の性状を調べたのでここにその一部を報告する。本研究は単純な形状の模型を用いて強風現象の概略を把握し、風害予測の検討に必要な基礎資料を得ることを目的として行なわれたものである。実験結果の詳細は、当試験所の機関誌「ＧＢＲＣ」26号、および31号をご覧頂きたい。

2．実験概略

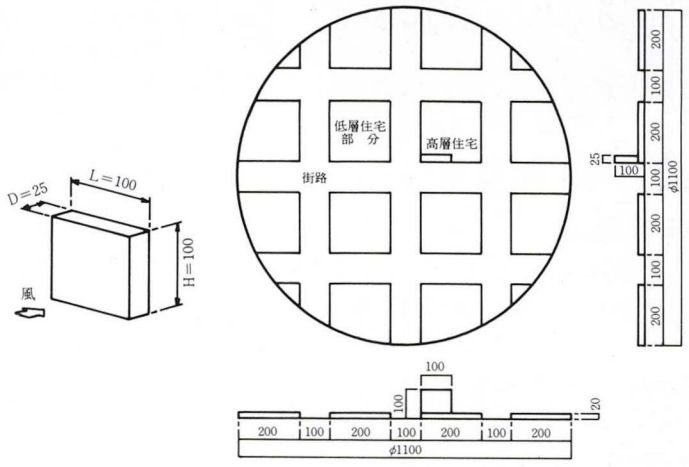
実験は、市街地の自然風に相似させた気流を当試験所所有のエッフェル型吹出式境界層風洞内に作り、**図－1**に示す高層建物模型および市街地模型に当てて、周辺の風速分布を測定した。市街地模型は偏平な板状の低層住宅群とそれによって作られる街路で表現した。風速の測定高さは５㎜および25㎜で、想定した高層建物の縮小率から換算して、実際の高さでは２ｍおよび10ｍであると考えられる。

3．実験結果とまとめ

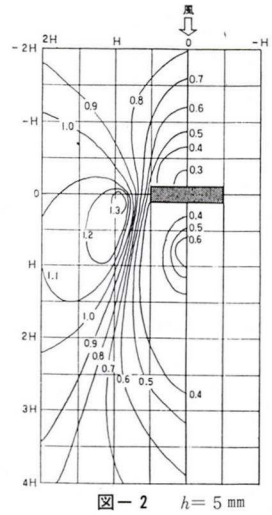
実験結果を**図－2～図－5**に示す。図中の数値は、各測定点高さにおける接近流速に対する測定された平均風速の比(風速比と呼ぶ)を表わす。つまり、風速比が 1.3の領域での平均風速は、高層建物や市街地の影響を受けないところでの接近流速の30%増になるものと考えられる。

市街地内に高層建物が建つ場合の実験結果は市街地自身の影響も含んでいるが、風害を問題とする多くの場合は周辺低層住宅が既に存在するためその影響分を差引いて論じなければならない。つまり、高層建物だけの影響を調べることが必要である。そこで、風速の増加域に注目して、市街地模型だけの風速増加分を**図－4**および**図－5**から引いてみると、測定高さｈ＝25㎜の場合は高層建物単独の実験結果と比較的近いが、ｈ＝５㎜の場合は高層建物単独の実験結果よりさらに大きくなり、高層建物単独の実験結果を用いて風害を検討する場合は過少評価する危険性があると考えられる。

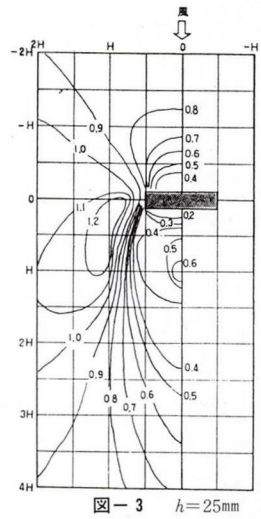
構造物試験室風洞試験係　西村宏昭



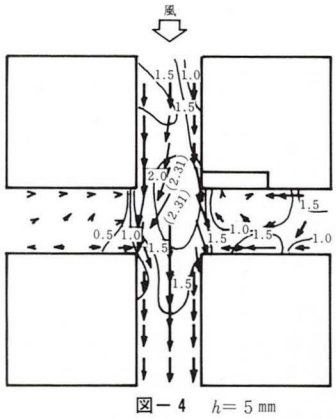
図－1　模　　型



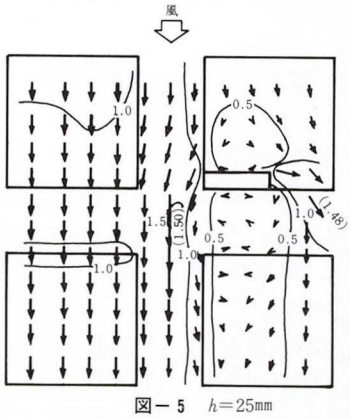
図－2　h＝５㎜



図－3　h＝25㎜



図－4　h＝５㎜



図－5　h＝25㎜

■案　内　図



■道　順

●梅田からの場合

阪急梅田駅より北千里行きに乗車、北千里駅下車。北千里駅より北西約１km、千里東筋沿、国立循環器病センター西側。徒歩約15分。

バス利用の方は北千里駅より「青山台経由千里中央」行きに乗車、「青山幼稚園前」下車、あるいは、北千里駅より「下院の里」又は「栗生団地」行きで「循環器病センター前」下車。徒歩５分。車利用の方は北千里よりタクシー約２分。

●新大阪駅からの場合

地下鉄新大阪駅より千里中央行きに乗車、千里中央駅下車。千里中央駅よりバス「青山台経由北千里」行きに乗車「青山幼稚園前」下車。あるいは、千里中央駅より「栗生団地」行きで「循環器病センター前」下車。徒歩約５分。車利用の方は千里中央駅よりタクシー乗車約５分。

●大阪地下鉄からの連絡

御堂筋線で千里中央行、堺筋線で北千里行きに乗車。

■財団法人　日本建築総合試験所

本試験所　所在地●大阪府吹田市藤白台５丁目125番地の８
電　話●大阪(06)872－0391番（代表）（〒565）
道　順●左図参照

大淀分室　所在地●大阪市大淀区長柄西２丁目１－18
電　話●大阪(06)351－7217番（〒531）
道　順●阪急電車天神橋六丁目駅下車北へ約700ｍ

堺分室　所在地●大阪府堺市浜寺石津町西２丁１－34
電　話●石津(0722)44－3912番（〒592）
道　順●南海電車本線石津川駅下車北へ約400ｍ

京都分室　所在地●京都市伏見区中島前山町24番地の２
電　話●京都(075)622－0713番（〒612）
道　順●**自動車の場合**：名神高速道京都南Ｉ・Ｃより国道１号線を南へ800ｍ
バスの場合：京都駅より市バス19番、20番で、国道赤池下車、徒歩１分

都市気球8

ポパイ少年たちの見つめるもの

杉浦正和

都会という言葉がある。都会は都市と同じではない。地方の中心都市に育ったわたくしには、都会は東京や大阪のような大都市、それも中心地区を意味していたのである。中学や高校の修学旅行の行き先は、教育理念の変化もあって、多様化してきた。ところが昭和30年代、40年代の地方の中学校や高校の修学旅行先は都会が多かったのではないだろうか。この時期は大都市への人口流入が最もはげしかった時期で、修学旅行が少年や若者にとっての都会への最初の誘ないであったのかもしれない。

ふりかえってみると、都会に対するイメージは時代ごとに変化している。娯楽雑誌や歌謡曲の推移をみれば一目瞭然で、この20年ぐらいの間の変化は「東京ナイトクラブ」から「TOKYO トキオ」への変化といってもいい。イメージとしての都会が成立しうるということは、そのイメージを共有する人達がいるということでもある。今日のシティボーイやシティギャル達にとって、都会はどのようにイメージされ共有されているのだろうか。

（鳴海邦碩）

1. 「ポパイ」という雑誌がある。昭和52年、平凡出版社より創刊。定価270円・毎月10日と25日に発売・公称75万部。"Magazine for City Boy" が唄い文句。兄貴分に「ブルータス」（公称40万部）、妹分に「オリーブ」（公称38万部）あり。ライバル誌は講談社の「ホットドッグープレス」（公称40万部）。内容、構成は、似たり寄ったり。

2. 今でこそ「ポパイ」も随分とトウがたってしまい、かつての斬新さや活力（パワー）を失っている。しかし、私が「都市」という捉えどころのないものに対し、とりあえず「ポパイ」を通じてさぐりを入れてみようと思いついた3年前、耳にウォークマン・小脇に「ポパイ」というのは最もナウい City Boy たちの風俗であった。

「情報化時代」・「情報化社会」という言葉が定着して久しい。「ポパイ」はこうした時代の流れをす早く反映し、「情報誌」と呼ばれる新しい雑誌のジャンルをつくり、フォームを確立した。

情報誌と呼ばれる雑誌の第一の特徴は、何といっても豊富な情報量にある。どのページにも小さな活字がびっしりと並んでいる。

第二の特徴として目をひくのは、いたる所に散りばめられた「都市」をあらわす記号の氾濫である。例えば1980年3月号の「ポパイ」は "City Life manual" というテーマのもと、「街で暮らすための服装術」「Urban Life——男が住む部屋」「街少年は23インチのワークブーツに乗る」（傍点筆者）といった特集を組んでいた。

第三には、情報とは専らモノとイベントについてのことだという点が挙げられる。モノやイベントが「都市」のシンボルであることはいうまでもない。

さらに極め付けは、それらの情報に必ず付記されている、店や会場（モノやイベントを現実に入手する場所）の名前、所在地、電話番号（☎）、営業時間（営）および定価（¥）の諸データである。こちらには「都市」が渋谷、青山、六本木等の実名入りで登場する。

情報誌は、このように情報という名の「都市」の記号・シンボル・実名によって全ページが埋め尽されている。私が「ポパイ」を、「都市」分析の手段として選んだ理由はここにある。

3. 1983年5月——最近の「ポパイ」は元気にやっているだろうかと思い、私は駅のキオスクで新しい「ポパイ」を買ってみた。今回のテーマは、「ボクはデートの天才だあ！」

例えば、まずデートは「朝のシャワーから始まる」ので「イジニス社のボディ・ブラシ」を使って下準備。日比谷のアメリカン・ファーマシー☎03・271・4034 ¥23,000。次に、「気になるコーディネート」は「ネイビーブレザーとホワイトバックスをペアで」。ブレザーは原宿のクールズ☎03・408・1168で¥32,000、靴は渋谷のミウラ＆サンズ☎03・461・7753で ¥24,800。身仕度が整ったら「アウディ・ワーゲン・BMW」で「家までお迎えというのが必殺キメ技」。食事は青山のジョエル☎03・400・7149に「2人分の席をリザーブ」。営10：30AM～10：30PM・年中無休。そして「真打ちはやっぱりお酒といきたい」ので六本木のケネディハウス☎03・422・0083営6：30PM～3：00AM。

4. さて、こうした情報誌はどんな若者たちに読まれているのだろうか。厖大な量の情報は幾体どこにインプットされているのだろう。

「ポパイ」には "from Readers" というコーナー（読者の投稿欄）がある。そこで自分の方からも情報をフィードバックしている彼らは、ある意味ではポパイの主役たちと言ってもいいだろう。今月号の投稿者のうち採用されたのは計10名であった。広島県尾道市P君。岩手県釜石市B君。神奈川県鎌倉市I君。新潟県中蒲原郡亀田町S君。東京都杉並区N君。兵庫県西宮市W君。山梨県八田村S君。和歌山県和歌山市H君。東京都国立市O君。福島県二本松市A君。

この10人の内多くにとっては「ポパイ」の教えてくれる懇切丁寧な☎・営・¥は何の意味も持たない。にもかかわらずこれらの情報は亀田町のS君や八田村のS君の意識の中にインプットされ、蓄積されてゆく。

渋谷・青山・六本木 vs 中蒲原郡亀田町・八田村・二本松市。ここには決定的なずれがある。しかもその断層は、今迄の都市に対するアプローチでは説明できない。

「ポパイ」の読者（1980年11月現在）

●地域別——80%以上が東京以外。

東京	その他の関東	大阪	他の近畿	中部	北海道東北	中四国九州
16.4%	31.9%	10.7%	7.4%	12.8%	9.1%	11.7%

●年齢別・職業別——25才以下・学生。

16～19才 42.7%	20～24才 39.3%	15才以下 7.6%	25才以上 10.4%

学生 66.3%	会社員公務員 26.1%	他 7.6%

5. 都市とは人が多勢、密に住んでいる所である——常識的な都市社会学はいつもここから出発した。ウェーバー然り。パーク然り。建築家たちは職業上、都市をビルや道路等、ハードウエアの組み合わせとして発想してきた。コルビジェ然り。リンチ然り。「住みよい街づくり」めざして市役所・区役所の人たちも頑張ってきた。

アプローチの仕方こそ違え、これらの見方は、そこにある都市つまり現前する都市を対象とする点で共通していた。都市と非都市は、人口100万人、3万人など専らデモグラフィックな基準によって区別され、さらに都会人とは都市在住の者であるという点に至っては議論の余地の無いこととされていた。

ところが、すでに見てきた様に、全国いたる所にCtty Boy は健在であり、彼らは行政区域の枠を飛び超えて都会人である。

この事実の説明を試みるにあたり、2つの概念を定義しておきたい。

ひとつは都市である。これは、マスメディアの提示するリッチで洗練された City Life を送っている人達とそのライフスタイル全体を示し、人口論的に規定された「都市」の概念とは切り離して捉えて頂きたい。

もうひとつは「準拠集団（レファレンス グループ）」という社会学用語である。これは、個人が価値感や規範を内面化してゆく際の規準となり拠り所となる、「準拠枠（フレーム オブ レファレンス）」と形成する集団のことである。

さて、"from Readers" を読む限り、彼らはいつも都市を見つめている。彼らの行動を規定しているものは「ポパイ」の提示する、渋谷・原宿・代官山での Urban Life にある。「ポパイ」の情報は Readers の意識の中で準

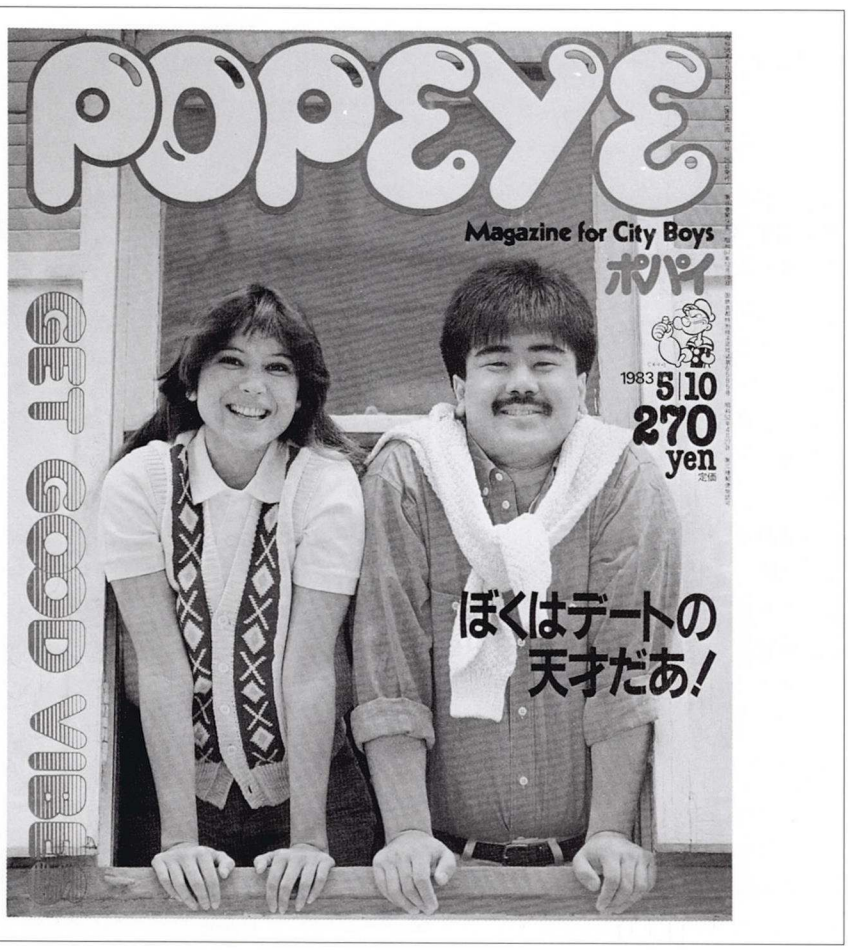
拠枠を形成しているといえる。

つまり、City Boy たちにとって都市は準拠集団なのである。逆にいえば City Boy たちによって熱いまなざしで見つめられている（つまり準拠集団にされている）世界こそが都市なのである。

都市はそこにあるのではない。都市は都市を準拠集団とする者の意識の中にあるのである。

「ポパイ」に都市の「生き生きとした幻想」[注1]がいかに詳細に描かれていようとも、「ポパイ」を閉じればそこには「都市」の「青ざめた現実」[注2]がある。このギャップは六本木と八田村の隔りと同じ位大きい。都市はあくまでもひとつの幻想にすぎない。それでも尚、都市は多くの若者の意識の中で準拠枠を形造る準拠集団なのである。

現実はいつでも青ざめている。それ故にこそ人間誰しも夢色の背景を必要とする。クー



ル、ファイブは「そして神戸」の中で、「誰かうまい嘘のつける相手捜すのよ」「夢の続き見せてくれる相手捜すのよ」と唄った。田舎暮らしにうんざりしている City Boy にとって、また東京の現実に疲れた City Gal にとってマスメディアの中の都市はうまい嘘をつき、夢の続きを見せてくれるお手軽で格好の相手なのかも知れない。Nevertheless、都市は幻想でしかない。青い鳥が結局は家にいた様に都市は都市を捜しに出かけようとするまさにその意識の中にあるのだ。

6. 「ポパイ」の言い分を聞き入れる限り、都市は随分と楽しい所の様である。あんなモノもある。こんなコトもできる。「ポパイ」の編集者たちはすべてを東京在住者の目を通した形で語ることによって Magazine for City Boy のフォームを形造っている。田舎ののんびりした景色もフレッシュな空気も、それらを求めて品川ナンバーの BMW でハイ ウエイを飛ばして辿り着くことによって始めて価値を持つのであってそこに住むことには価値がない。

しかし、現実の東京は、「ポパイ」が描いてみせる都市とは随分かけ離れている様である。毎朝夕ラッシュの電車や地下鉄の人ごみの中で押され、押し返しながら、私は見知らぬ人からのいわれなき敵意を感ずることがある。ローンの重圧にあえぐ大人たち。新宿でうろつく中学生たち。

7. 都市は個々人の意識の中にある。もしも個人の意識を覗くことができたら、そこには色々な都市が棲んでいるに違いない。

普通、個人の意識をつくりあげてゆくものは自分の体験、周囲の教育などであろう。が、こと都市に関してはマス・メディアの影響を無視して語ることはどうしても出来ない。

マス・メディアは功妙かつ強力である。私たちは生活時間のうちかなり多くをマス・メディアと対峙するためにさいている。そしてテレビも雑誌もあるいはすべてのメディアにまたがる広告もそろって同じトーンの「都市讃歌」を唄っている。マス・メディアによって形造られた都市に関する意識は私たちの大脳表皮をかなり占領している。

ドイツの社会学者エンツェンスベルガーは、マス・メディアを「意識産業」と名付け、次の様な問題提起を行った。

「問題は（略）意識産業がうけおっている社会的な委託の内容なのだ。（略）つまり、どんな種類のものであろうと、現に存在する支配関係を永遠のものにするという課題である。意識産業は、意識と搾取するために、ひたすら意識を誘導しなければならないのだ。」[注3]

現在「意識産業のうけおっている社会的委託」とは、ありていの言葉でいえば、「資本主義体制の維持と強化」である。

市場が成熟し、マーケティング・セグメンテーションが進み、消費者の多様化するニーズにぴったり合ったモノやイベントがすぐ手に入る今の日本は、生活物資すら欠く後進国や社会主義国に比べて格段に恵まれた状況にある。都市は定価つきのモノで溢れんばかりである。都市のシンボル、例えば代官山のマンション、品川ナンバーの白い BMW アルマーニの服とハンチングワールドのバッグ位カネさえあればいくらでも手に入る。

しかし、そのことがかえって私には寂しくうそ寒く思われるのである。都市は手の届かぬ幻想だといったけれども、要はカネの問題でしかない。都市を求める回路は余りにも素直に資本主義社会の要請と合致してはいまいか。マス・メディアの情報は一方通行・一面的・操作可能である。それに対して私たちはどれだけ自立した意識を持ち続けることができると断言し得るだろうか。

8. 都市肯定論と都市否定論を同時に提出したまま後始末ができないでいる。

都市は都市を拠り所にして生きている人々の意識の中にある。意識の中で都市は生き生きと輝いて青ざめた現実に対する夢色の背景となってくれる。しかし一方、意識の中にあればこそ都市は巧妙で強力な意識産業によっていかようにでも姿を変え、意識そのものにまで影響を与えるのである。

都市には何でもある。そして都市はどんなものにも変身しうる。都市の本質は都市に内在するアンビバレンツそのものにあるのかも知れない。

注1）2）：「幻想の時代」ブーアスティン　創元社
注3）：「意識産業」エンツエンスベルガー　晶文社

（すぎうら　まさかず　日産自動車株式会社輸出計画部勤務）



けんちくの眼

中島 一（なかじま はじめ）
愛知工業大学教授・本会東海支部長

西方輝始（にしかた てるし）
愛知県建築部長

辻野純徳（つじの よしのり）
浦辺建築事務所取締役

田村真二（たむら しんじ）
竹中工務店常務取締役

7月号から12月号まで上記の4氏が担当

建築文化も地方の時代がやってきた

最近の大学卒業生は、大都市の大企業に集中するといういままでのあり方とは違って、故郷にUターンしてくる傾向が強くなってきたといわれている。大都市でのきびしい生活環境と激しい競争の行なわれている社会を避けて、住み慣れた豊かな自然環境の中で趣味にあった生活をおくりたいという気持が強いからだという。これと歩調を合せるかのように、大都市圏から地方圏への人口移動の増加という新しい傾向がある。こうしたいわゆる「人口の地方定住化」とよばれる動きが目立ちだしたのが昭和40年代後半以降の新しい動向なのである。「地方定住化」と説明されている人の動きの大半は若年層によって現われている。

『国民生活白書』によると、すでに盆おどり、お祭り、運動会、展示即売会、趣味の講習会、発表会というコミュニティ活動に相当多くの人が参加した体験を持っているとのべている。この中には、数多くの青年建築家もいるはずである。かつて中央と地方という構図は、建築家のなかでもあった。地方より中央の方が優位である。サァ、建築家の地方の時代が到来した。きっと地方性のある、ゆったりとした、心のふれあいを求めた地方の建築文化の創出が実現するゾー。　（H・N）

清洲越し

ＮＨＫの大河ドラマ「徳川家康」が放映されているが、現在のところ、当地を舞台にしたシーンが多く、家康ゆかりの地では観光ブームが起きている。時折り国道一号線を通ると、岡崎市の昨年新築された家康館附近では観光客のグループを見かけることが多い。徳川家康といえば、戦略家、政略家としてのずばぬけた才能は周知のとおりだが、戦国時代の武将としては「まちづくり」の才能もすぐれていたようである。江戸のことはともかくとして、世にいう「清洲越し」といわれているものについてみても、その感が深い。

この「清洲越し」は、戦略上の見地から、尾張藩の拠点を清洲から名古屋に移すことであったが、軍事、行政、産業等を含んだ都市機能を、築城、運河掘削などの大建築、土木工事をやりながらそっくり移転させる大事業だった。これを、今日的にいうならば、都市計画決定から約４ヵ年で完成させていることに驚く。現在の建設能力と比較すれば、大変な突貫工事であったに違いない。まちぐるみの引越しとなれば、移転先の選択、決定など如何なるものであったろうか。もっとも清洲ゆかりの町名や社寺仏閣等のイメージをできるだけ残したかたちで移したといわれているから、全くの違和感はなかったのかも知れない。民心をうまくつかみ抵抗をやわらげ、武力一辺倒ではなかった点など、「まちづくり」の手法にも通ずるものがある。　（T・N）

立入禁止

５月21日、大徳寺法堂で開山大燈国師 650年大遠諱の法要がとり行われ、日頃「拝観謝絶」の札をかかげている塔頭の門が、この日ばかりは開かれ、参詣者を迎いいれた。栄西禅師による抹茶法の伝来以来、茶と禅宗のかかわりあいは深く、この日の法要も開山に茶をささげる特為献茶にはじまった。古渓和尚との親交と、荒れた大徳寺の復興に堺の大檀那として尽力した千利休との関係ゆえか、大徳寺塔頭すべて茶とのかかわりあいはとくに深い。あの利休賜死の理由とされた山門金毛閣はこの法堂の前にある。また法堂に近い塔頭聚光院には、利休の墓と聚楽第より移したという利休自刃の閑隠席があり、茶の心得ある人が参詣の数も目立った。結界の青竹も控え目に、拝観もカメラも自由だが、ただ時折おこる僧の声は、方丈前の敷瓦に踏み込む参詣者を制止する為であった。敷瓦におかれた玉石に棕櫚縄（しゅろなわ）を十字にかけた関守石、これ以上の進入を禁ずる標として周知のこと、知ってか知らずか。

〝立入禁止〟のサインもしばしば侵される。注意すると「やっぱり入ってはいけないのか」と。立札にもかかわらず咎められない公園の芝生、これが慣（なら）いになったのだろうか。　（Y・T）

地域整備の目玉

建築物審査という目的で３年間に全国南から北へ二十数都市を訪れる機会をもつことができた。会社の出張と違って第三者的な立場で都市建築を観ることは得難い体験である。最近における地方都市の施設的整備は素晴らしいものがあるが、何かその開発プロセスに一つのパターンがあるように思える。公民館の建設から始って庁舎の建て替え、博物館・美術館と続いて次は図書館というように、知事・市長の唱導する地域整備の目玉が次々と打ち出され、それが公約となって無理矢理できあがっていくという観をまぬがれない。従ってそれらの中には明らかにその時の知事なり市長の威信を見せつけるための道具となり、また、近隣都市の競走となって建築は必要以上に大型化する。

美術館を訪れてもその建物の威容と設備には一驚するが、その展示物の少なさに驚くこともある。ヨーロッパの一都市の美術館の館長以下が日本の地方都市を訪れ、その新築された美術館を見てびっくりしたということを聴いた。市民生活とこれら施設のアンバランスをつくづく感ずるとともに、次の地域整備の目玉は何かということを真剣に考えざるをえない気持ちになったものである。　（S・T）

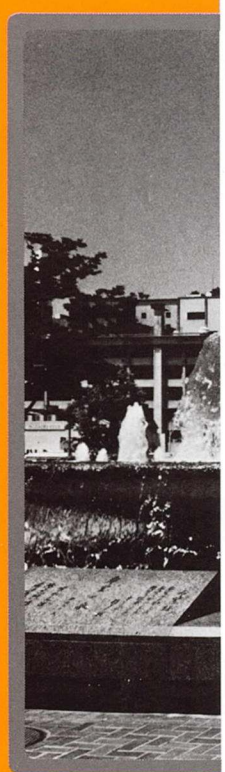
特集　東海の将来と文化を考える

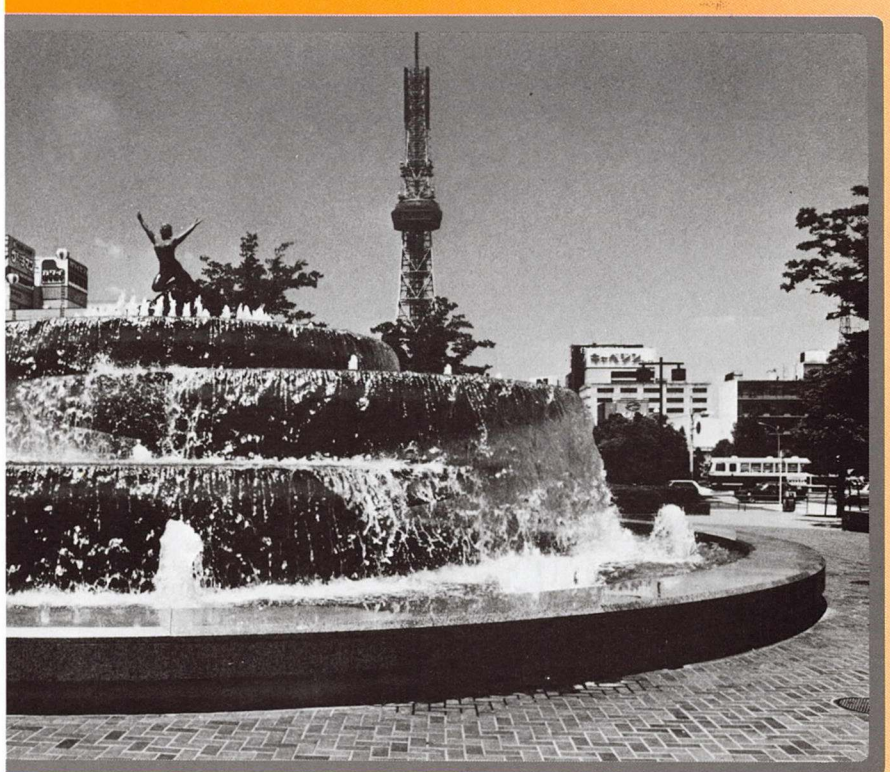
作品作風

- 岐阜県美術館
- 愛知県岡崎勤労福祉会館
- 美濃加茂市中央公民館・保健センター
- 春日井市東部市民センター
- 知北平和公園知北斎場
- アイシンワーナー「希望の丘」
- 日経名古屋電波会館(テレビ愛知)
- ホテルコンコルド浜松
- 皇学館大学100周年記念講堂
- 平田町立平田中学校

スケッチブック

最近竣工した東海地方の作品28点





座談会 1

東海の将来像を語る

出席者：井澤慶一／井沢知旦／外山公司

各論

「21世紀の中部ビジョン」にみる東海四県の将来像

各論

したたかな愛知／浅井岐一

愛知県のいまとむかし―名古屋を中心として―／久住典夫

座談会 2

東海の文化を語る

出席者：寺光彦／三水弘／水野宏

各論

中部における地域社会の国際化／青山公三

本特集企画・日本建築協会東海支部
特別編集委員会

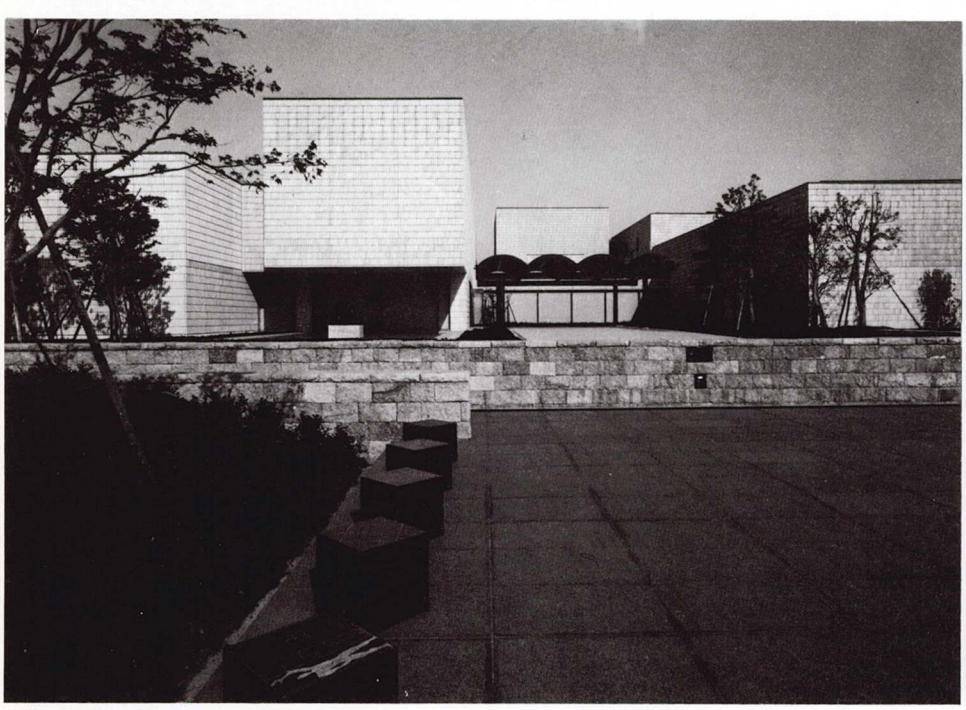
委員長：中島　一
委　員：一圓俊郎／小川利光／太田信二／小坂忠勝／高橋大善／手塚二郎／林金之／長谷部利夫
広瀬敏郎／広田外雄／町田哲／水野教宏／宮崎辰敬／森鉦一／森口雅文／盛田輝勇

岐阜県美術館

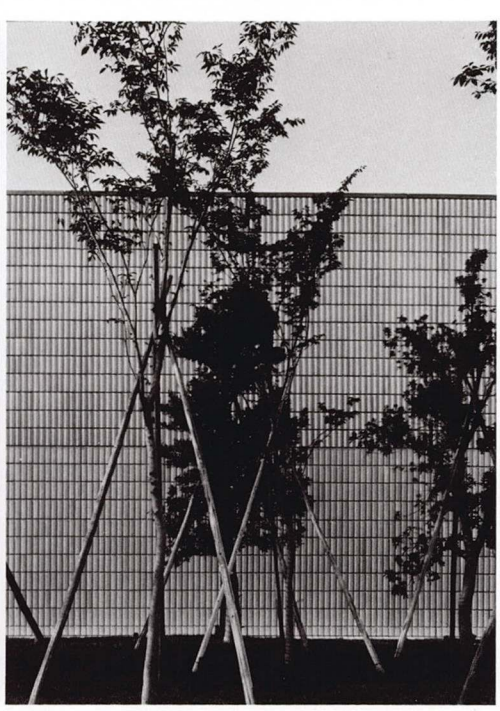
設計監理　岐阜県総務部管財課、日建設計・名古屋
施　　工　大日本土木・土屋組特別共同企業体（建築）
　　川北電気工業・安田電機暖房特別共同企業体（電気）
　　イビデン工業・吉村造園特別共同企業体（植栽）

南西側よりみる





外観西面（中央の彫刻はマイヨール作「地中海」、手前の石は各種の正方形の分割を彫刻してある）



南面ディテール（中間から上は山形タイル、中間から下は半山形タイル）

所 在 地　岐阜県岐阜市宇佐４－１－22
敷地面積　28,007.63㎡
建築面積　 6,200.63㎡
延床面積　 7,160.83㎡
構造規模　ＲＣ(一部Ｓ)、Ｂ１、２Ｆ
工　　期　昭和56年１月～昭和57年10月
最 寄 駅　国鉄岐阜駅または名鉄新岐阜駅

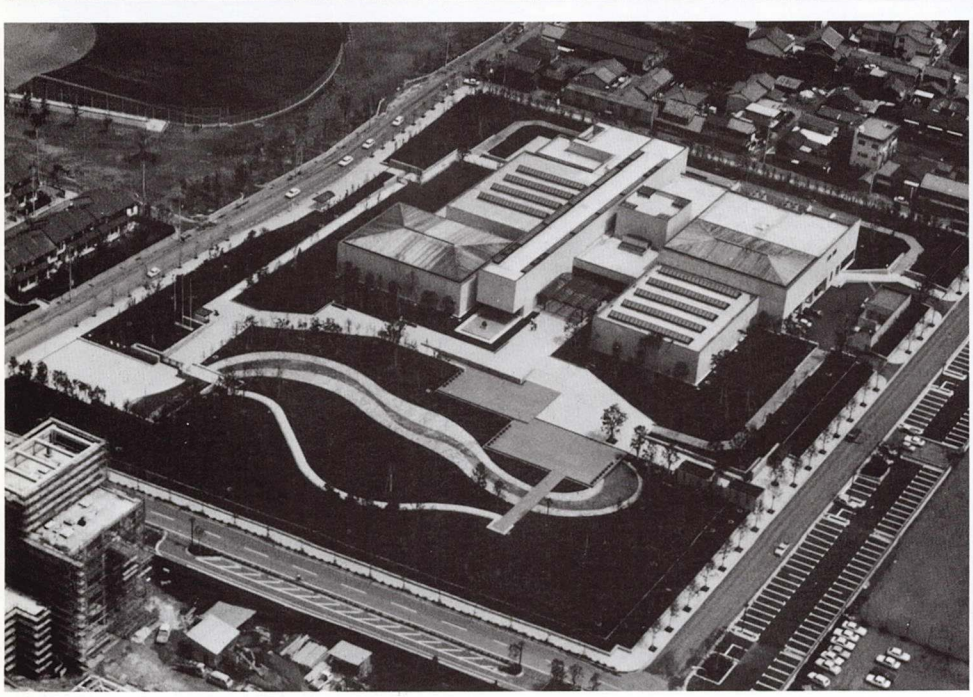


一階多目的ホール(中央はミケランジェロ作「ピエタ」のレプリカ)

岐阜県美術館

1階多目的ホール(左はミケランジェロ作「夕と曙」)





航空写真



美術館ホール

岐阜県美術館の建設は「みどりの連帯―美とふれ合い・美と対話する―」をテーマに８年の歳月をかけて進められ、何よりも県民に対して「開かれた美術館」であることが求められた。

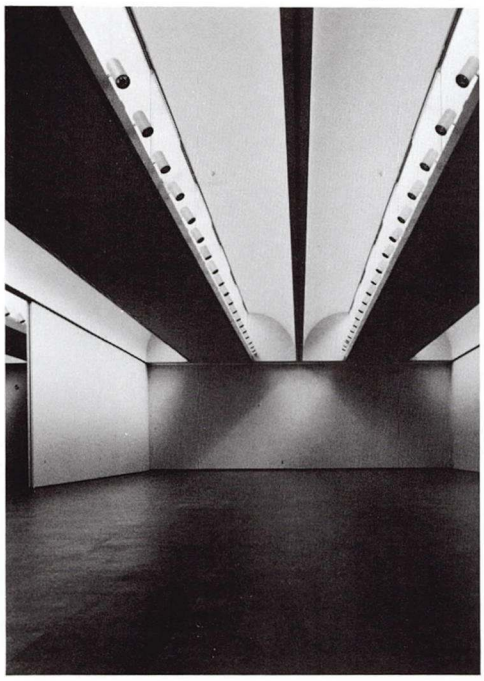
建設地は県と市が一体となって進めている地区開発の中心に位置し、３ha近い敷地は、約2500本もの高低木の植栽による開放された公園として計画されている。建物の外壁は、岐阜の伝統産業「美濃焼」の表現として山形断面の施釉大型炻器質タイルを採用している。

美術館内部は「開かれた美術館」の具体化のひとつとして、来館者のための施設はすべて１階に配置し、利便性を高めると同時に、印象の連続、一体感を高めている。平面に広がる各施設に秩序を与え、同時に展示室相互を関連づけるため、館を東西に貫く、長さ70ｍ、巾、高さ８ｍあまりの「美術館ホール」を設け、将来の巾広い美術館活動の場として計画された多目的ホールと共に、自由に出入のできる公共空間としている。

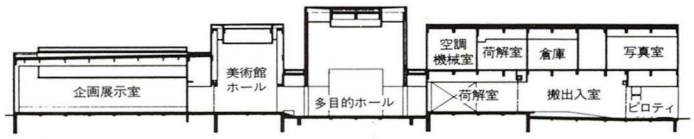
展示室は常設・企画・一般の３展示室が中心となるが常設展示室は長期展示を考慮し、外壁、屋根共に二重構造とし､作品の保存･管理の安全を計っている。企画展示室（20ｍ×36ｍ）および一般展示室（20ｍ×30ｍ）は、それぞれの無柱空間を可動パネルで分割し自由な壁面構成を可能とし、さらに無段階調光可能なルーバー付きトップライトからの自然採光と人工照明との併用で、多種多様な企画に対応できる展示室となっている。

（三浦忠誠／日建設計・名古屋）

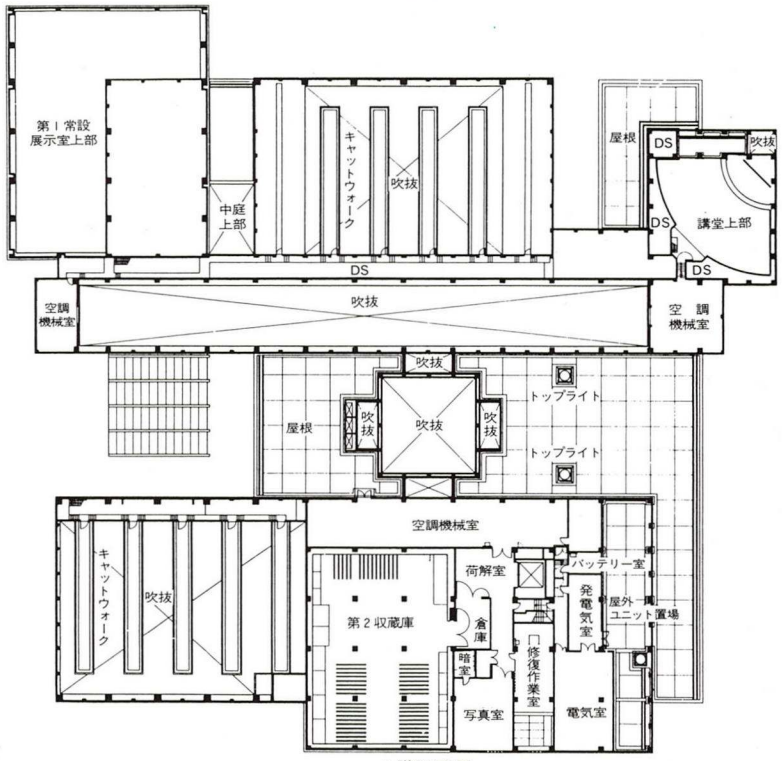
１階企画展示室



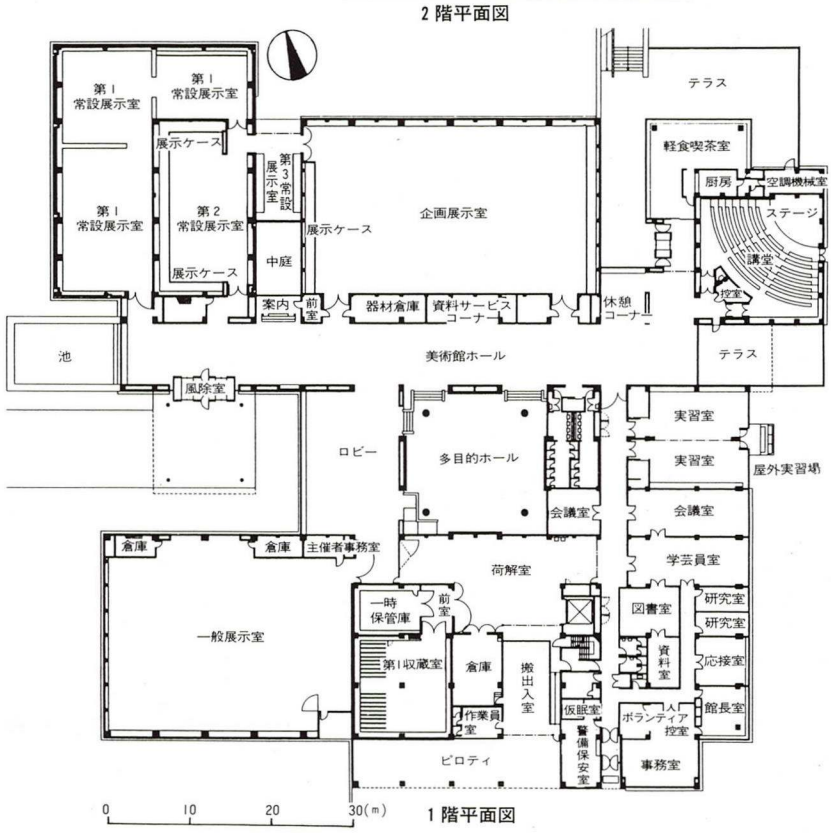
撮影：センターフォト



断面図



２階平面図



１階平面図

愛知県岡崎勤労福祉会館

設計監理　愛知県建築部営繕課　東海設計
施　　工　小原・三和建設共同企業体

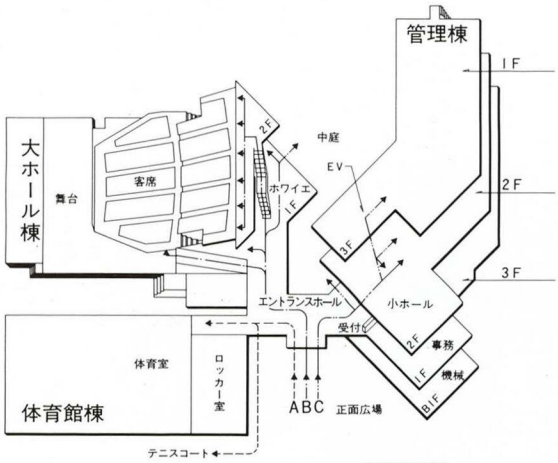


配置図





大山田池より望む



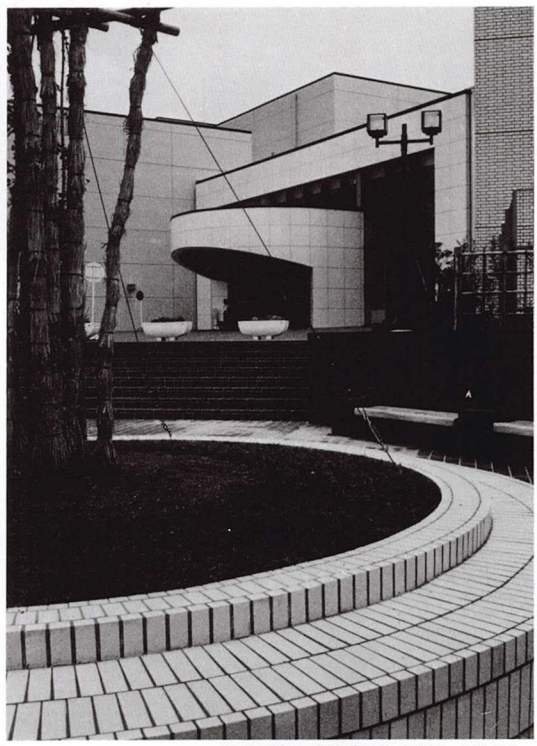
内部動作図

1F　宿泊フロアー
宿泊室(8帖)、特別宿泊室、大浴室、小浴室

2F　会議フロアー
小ホール、大会議室、中会議室、研修室

3F　管理・会議・食堂フロアー
事務室、労政事務所、管理人室、厨房、食堂、談話ロビー、和室、中会議室

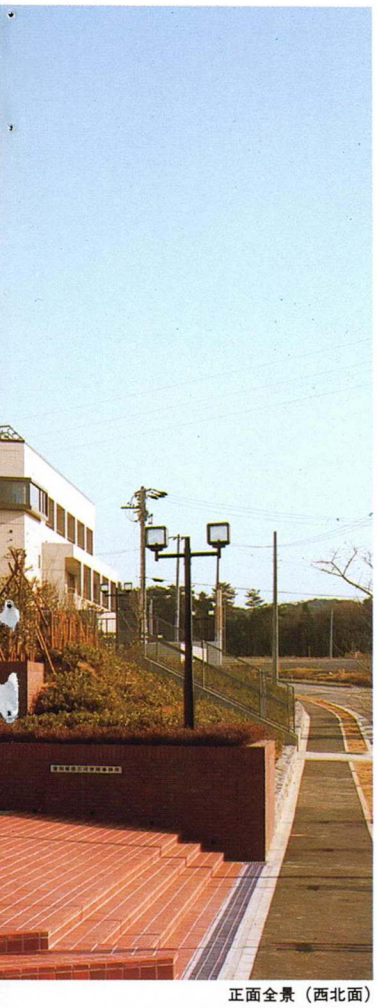
A：体育施設利用者
B：大ホール利用者
C：会議宿泊施設利用者



玄関風除と前庭プラザ（撮影：編集部）

電気	東光・東和建設共同企業体
空調	川崎・陣内建設共同企業体
管	ホッタ設備工業
汚水処理	東武産業
受変電	高岳製作所名古屋支社
昇降機	東京芝浦電気中部支社
電話	東洋通信工業

所在地	愛知県岡崎市上地町下矢崎18
敷地面積	15,139.28㎡
建築面積	3,846.73㎡
延床面積	6,112.39㎡
構造規模	ＲＣ、一部ＳＲＣおよびＳ
工期	昭和56年７月～昭和57年11月
最寄駅	国鉄東海道線岡崎駅、名鉄東岡崎駅



正面全景（西北面）

この施設は、勤労者の文化意識、教養、体育の向上に寄与することを目的として、愛知県の各都市に設けているもののひとつである。

設計のテーマとして、まずこの施設が新しく区画整理された住宅地の一画にあり、周辺の住宅に威圧感を与えず、親しみ易い雰囲気を出すようにすること、つぎに集会、研修、宿泊、結婚式および体育等の複合機能を持つ建築であるため、利用者の明快な動線が確保されること、複雑な管理を一箇所で集中できることであった。それには各棟を分離して、エントランスホールで結ぶプランニングによって解決した。

周辺の環境に対しては、できるだけ前面を空けてプラザとし、建物周辺には植樹して緑化に努めている。大ホールは特に圧迫感を与えるので、前面に出さず体育棟の奥に設けている。

外装は白の二丁掛磁器タイルで全面を覆い、周辺の緑に調和させ、また敷地西側の大山田池に映るように計画し、周囲の環境のムードを盛り上げている。

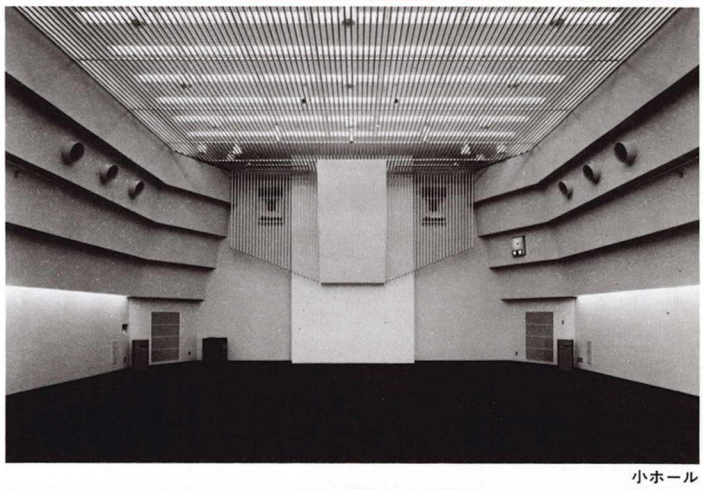
内部については、外部空間が流れ込むよう意図し、灰白色のモノトーンな仕上の中に、床の色の変化によって空間を引締めている。

大ホールは800人収容の大きさで、音響計画についてはＮＨＫ技術研究所の指導のもとに使い易いホールを心掛け、ほぼ所期の目標が達せられたように思われる。

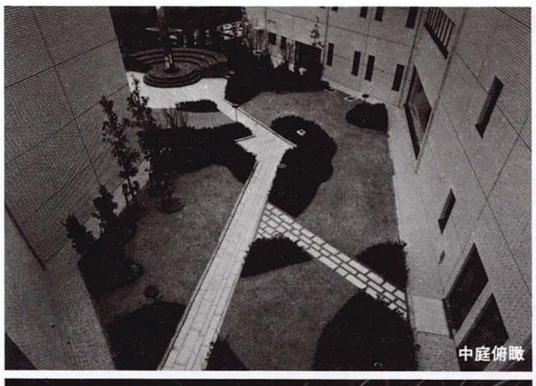
（小坂忠勝・栢本良三／東海設計）

大ホール正面

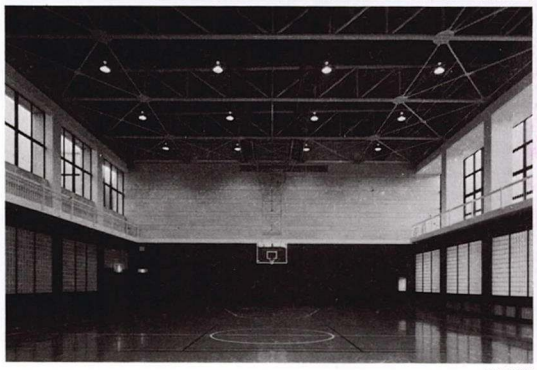




小ホール



中庭俯瞰



体育館



ホワイエ夜景（陶壁：加藤重高作）

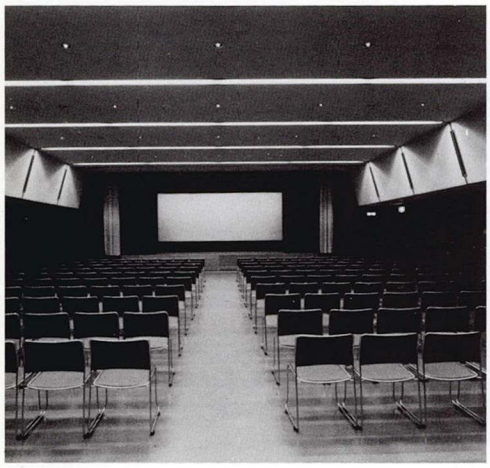
撮影：ＳＳ名古屋

美濃加茂市中央公民館・保健センター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　戸田建設名古屋支店（建築・外構）
　　川北電気工業（電気）
　　ナミレイ名古屋支店（空調・管）

南西面外観

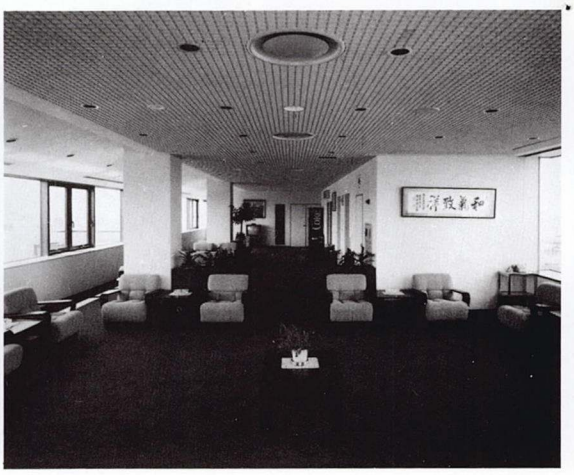




2階集会室



3階視聴覚教室



6階市民サロン

撮影：センターフォト

所 在 地　美濃加茂市太田町字神ノ木3425-1
敷地面積　3,800㎡
建築面積　1,283㎡
延床面積　3,631㎡
構造規模　ＲＣ(一部ＳＲＣ)、６Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和56年12月～昭和58年２月
最 寄 駅　国鉄高山線美濃太田駅

日本ラインとして讃えられる木曽川の清流沿いに、江戸時代からの５街道の１つである中山道の宿場町として栄えてきた美濃加茂市は、その交通の便により、現在は旧くからの町並の中に新しい産業の育つ地ともなっている。その市の中心にある市役所に隣接して建設された中央公民館は、生涯教育の場としての地区公民館の軸となるばかりでなく、併設されている保健センター・休日急患診療所も含めて、「人づくりと豊かなまちづくり」を目指す市の核となる施設である。

配置計画は、市役所と共にまとまった建物群をなすこと、および町並の連なる市の中心地を走り抜ける国道沿いに明るい開かれた広場を設けることを意図して、前面一帯に緑で囲まれた広場、池、および駐車場を設け、国道よりのアプローチは公民館と市役所の中央に位置させ、両建物を曲面を持つ庇によって結びつけている。

建物の外観は、旧くからの町並を保ちつつ新しいまちづくりを目指す美濃加茂市の中心施設として相応しいように心掛け、淡い土色の炻器質タイルを用いた落着いた壁面に、外光を映し出すハーフミラーのカーテンウォールを組み込むことにより、町並に溶け込むと共に清新さを主張できる形態としている。

平面構成は、利用者にわかりやすいように建物の中心にエレベーターホールを設け、各階このホールから全室が見渡せる明快な動線としている。また、保健センター、休日急患診療所を１階に限定して、階別の使用目的をはっきりさせている。

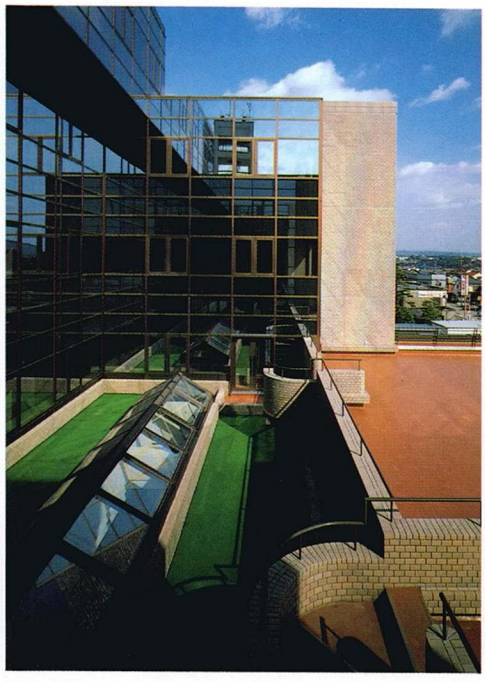
この建物の施設的な特長は、市が目指す人づくりのための、開かれた生涯教育の場として計画されていることであり、飛騨木曽川国定公園に含まれている市の全域を望む市民サロンが６階に設けられていて、一般に開放されている。ここから豊かな緑と木曽川の美しい流れを臨みつつ、自由な話合いの場が生まれることを期待しています。

（安井建築設計事務所）

２階ホール

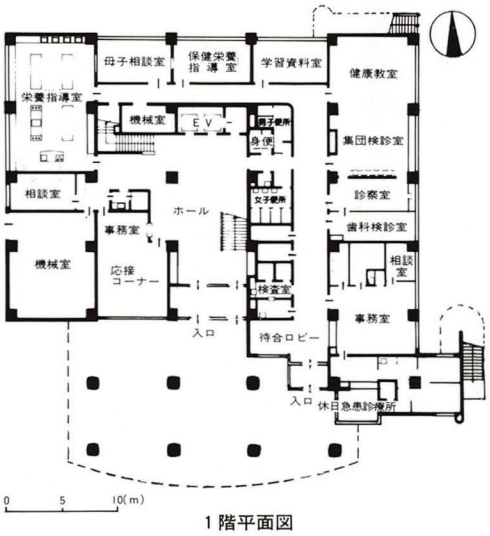




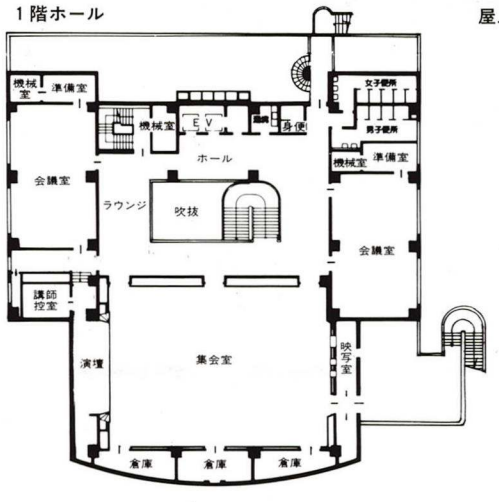


１階ホール

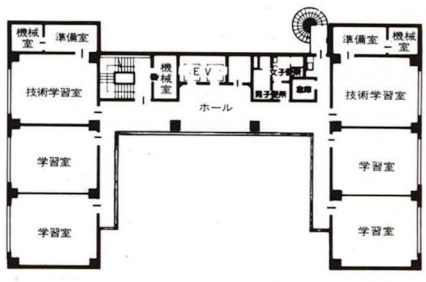
屋上広場



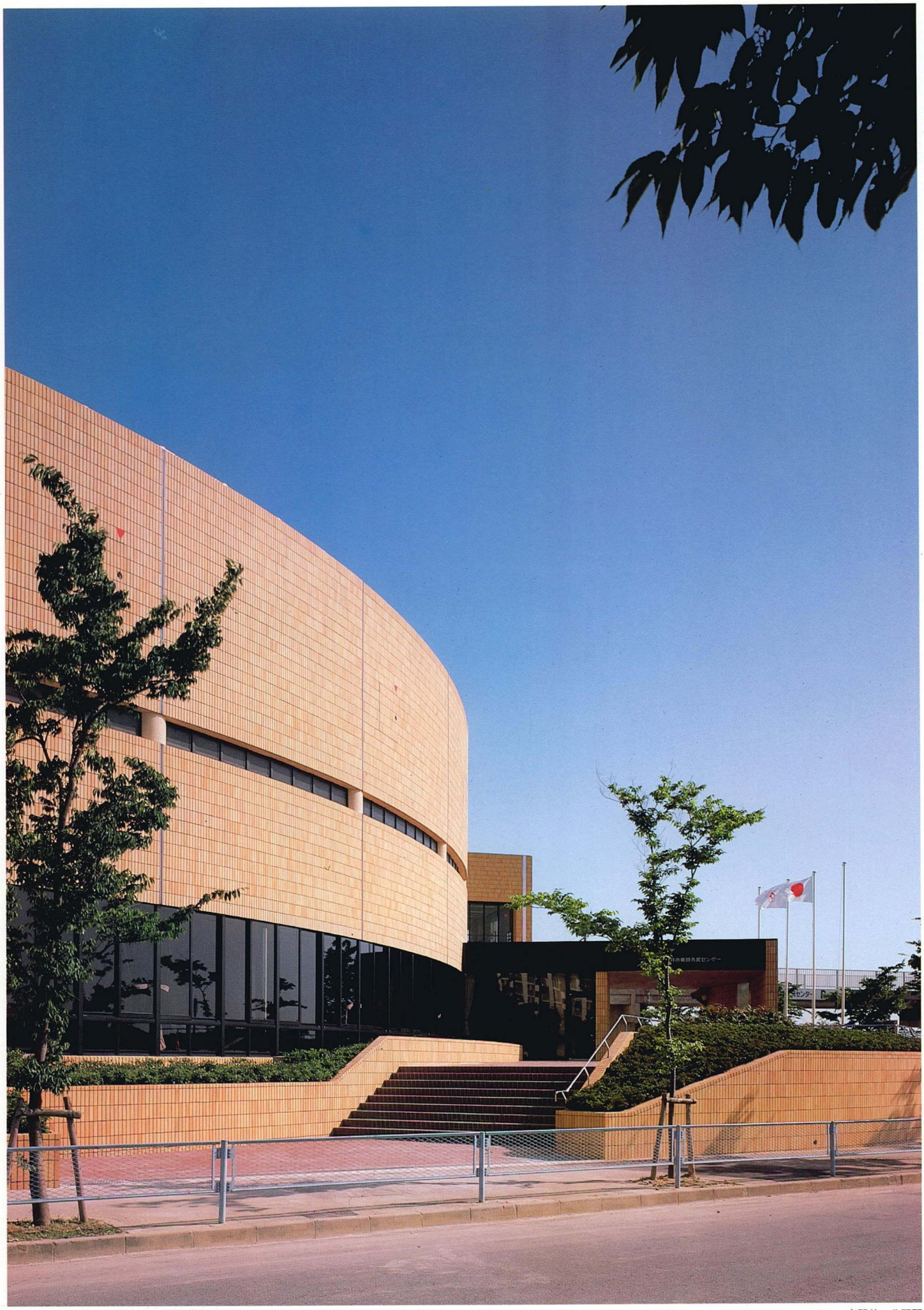
１階平面図



２階平面図



基準階平面図



ホール玄関前・北西面

春日井市東部市民センター

設計監理　黒川建築事務所

施　　工　岐建木村名古屋支店（建築）
三和電気土木工事名古屋支店（電気）
太平工業名古屋支店（給排水衛生空調）

所 在 地　春日井市中央台2丁目2番地
敷地面積　7,893.220㎡
建築面積　2,962.387㎡
延床面積　5,869.383㎡
構造規模　ＲＣ一部Ｓ、3Ｆ、最高高さ23.5ｍ
工　　期　昭和56年12月～昭和58年５月
最 寄 駅　国鉄中央西線高蔵寺駅

この施設は、わが国有数の大規模団地である高蔵寺ニュータウンのセンター地区に建てられたものである。ニュータウンを中心にして、その周辺を含めた市の東部地区の市民センターとしてつくられたもので、公民館的諸施設を初め、図書室、小ホール（500 席）等を盛り込んだ複合文化施設である。

敷地は丘陵地の造成であるため、東から西に向って傾斜しており、最大高低差は５メートル余あって、２段の法面で構成されていた。

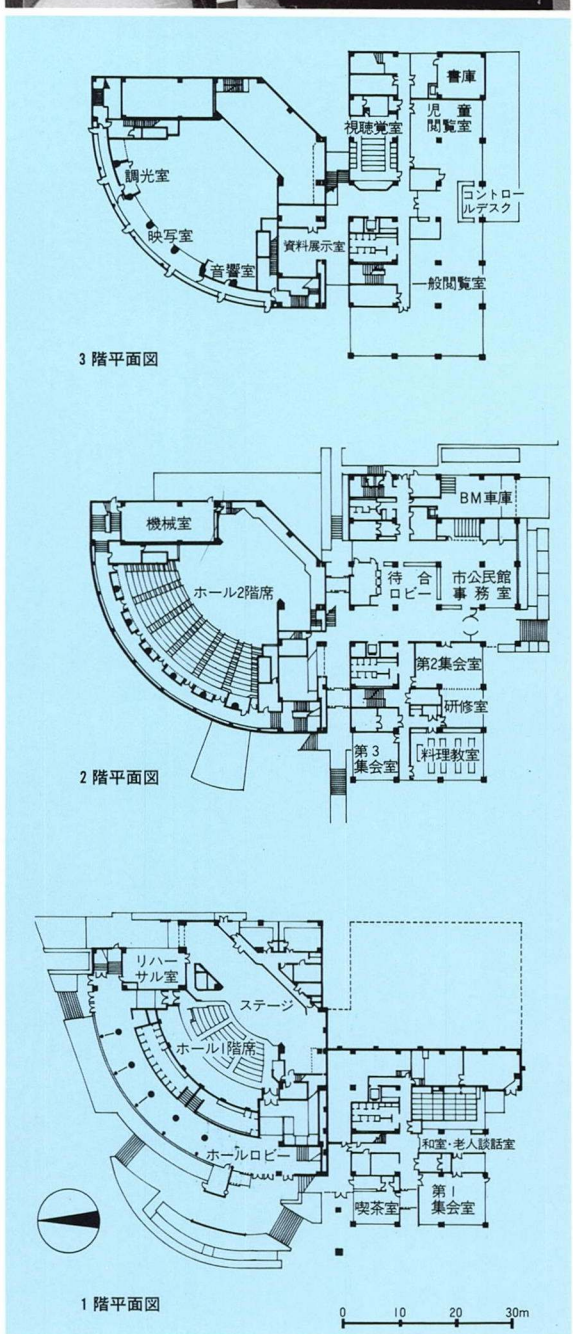
敷地に対して、西側から北側にかけて湾曲したメイン道路が取り巻くように接し、南側は巾９メートルの車道が、さらに東側は歩行者専用通路が接している。

平面構成としては、施設の中央を東西に貫く、市民プラザとでも呼ぶべき通り抜け空間を境にして、公民館的要素を集約した南棟と、ホール部分の北棟の二つのブロックから成っている。この市民プラザは建物を横断する通り抜け空間であり、メイン階段を取込んで、縦方向の通行にも当て、施設内の主要なセクションのすべてが、ここを中心にして空間的繋がりを持っている。また外部に対しても、西端は横断歩道と駐車場へ、東端は団地内のペデストリアンースペースへと繋がり、内部化された道空間となっている。

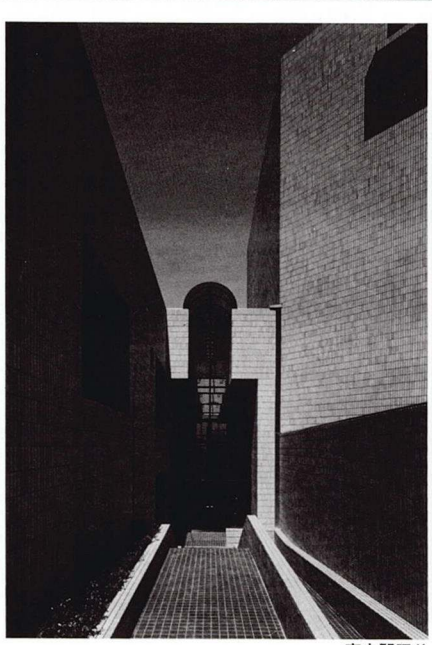
オーディトリアムに、従来多い長方形をさけて、扇形のワンスロープ方式を取り入れたのは、舞台と客席を接近させて、演技がすべての客席に生に伝わり、客の反応が演技者に直接感じられることをねらったものである。

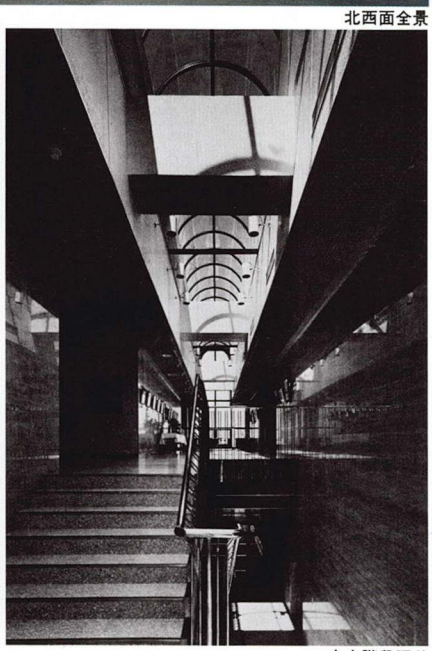
（森　鉦一／黒川建築事務所）


ホール




北西面全景


東玄関廻り


中央階段廻り

撮影：現代フォト工房

知北平和公園知北斎場

設計監理　石本建築事務所名古屋支所
施　　工　前田建設工業名古屋支店



この斎場は、東海市・大府市・東浦町の２市１町で運営されている広さ13万７千平方メートルという広大な墓地公園である知北平和公園の一角に、緑の中の墓地公園づくりの一環として計画されたものである。

暗いイメージを持つ火葬場は、なくてはならない建物でありながら、ゴミ焼却場とともに皆から敬遠される建物である。しかし、人生の終焉の場とし、また最後のお別れの場として一生の間に何度か利用する施設でもあるので、建築としても人間的高度な対応を要求されるものである。火葬場のシンボルとして空高くそびえていた煙突も、最近では火葬炉の進歩により、無煙、無臭、短煙突でできるようになり、昔の面影はすっかりなくなってしまった。

今回の計画においても、とくに周辺環境にマッチし荘厳さと優しさをそなえた建物であることをめざし、火葬→待合→収骨の動線や、合理的、衛生的屍体の処理等についても考慮した。

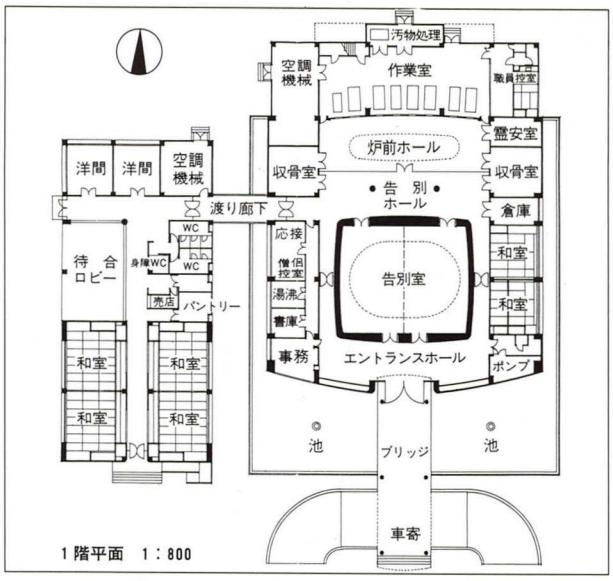
建物は、火葬棟と待合棟の２棟からなり、単純明快なプランニングとともに、外壁に石を使用したり、火葬棟の周りには池を配したりして、荘厳さと落ちついた雰囲気を持たせ、周辺の自然環境にとけ込ませるようにした。

火葬棟は中央に告別室をとり、単独に使用することもできる。また収骨室は８基ある炉の左右に２室とり２家族の動線が交差することなく同時に使用できる。

待合棟はロビーを中心に和室、洋室とあり、大きなガラス窓で外部と一体の雰囲気をとり入れ、悲しんでいる遺族の心を少しでもやわらげるように明かるい建物とした。

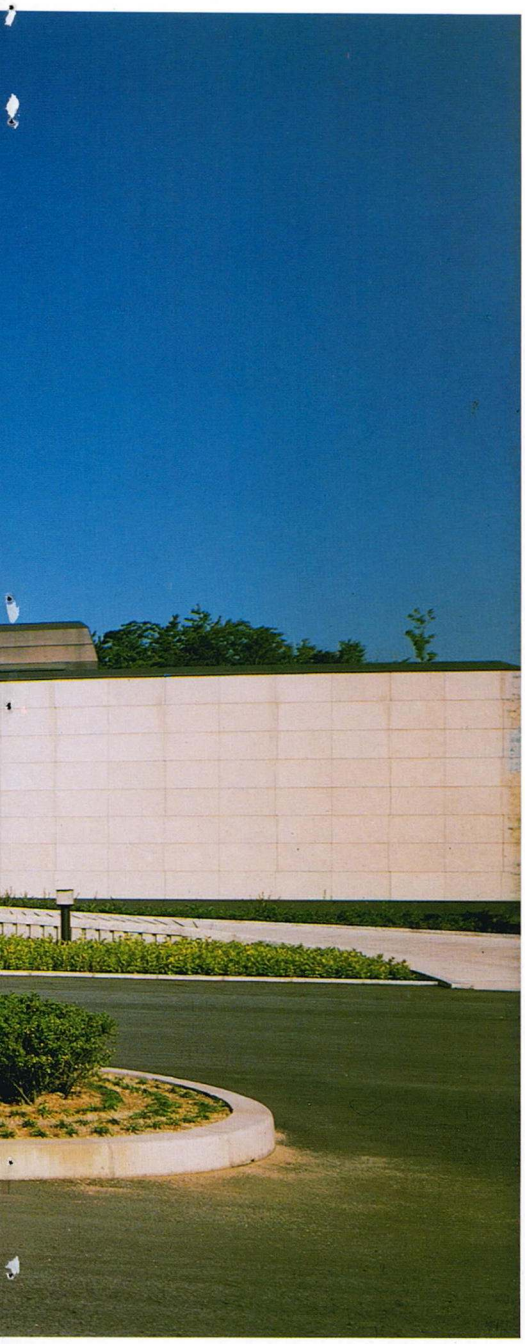
（松島孝彰／石本建築事務所名古屋支所）

朝日工業社(給排水衛生空調工事)
中央電気工業(電気工事)
矢橋大理石(石工事)
宮本工業所(築炉工事)



1階平面　1：800

所在地　愛知県大府市吉田町
　　藤治池末10番地1
敷地面積　14,996.50㎡
建築面積　1,748.60㎡
延床面積　1,852.90㎡
構造規模　RC、2F
工　期　昭和56年2月～昭和57年3月
最寄駅　国鉄東海道線大府駅

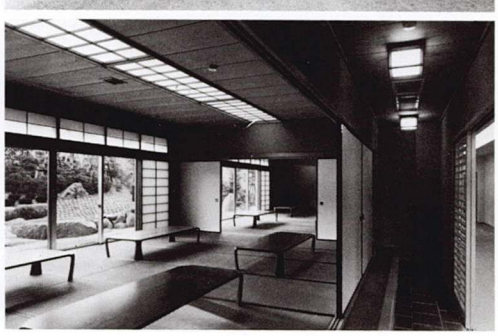

正面全景（右：火葬棟　左：待合棟）
撮影：SS名古屋（外観カラーのみ）


告別室


エントランスホール


告別ホール・炉前ホール


待合ロビー


和室

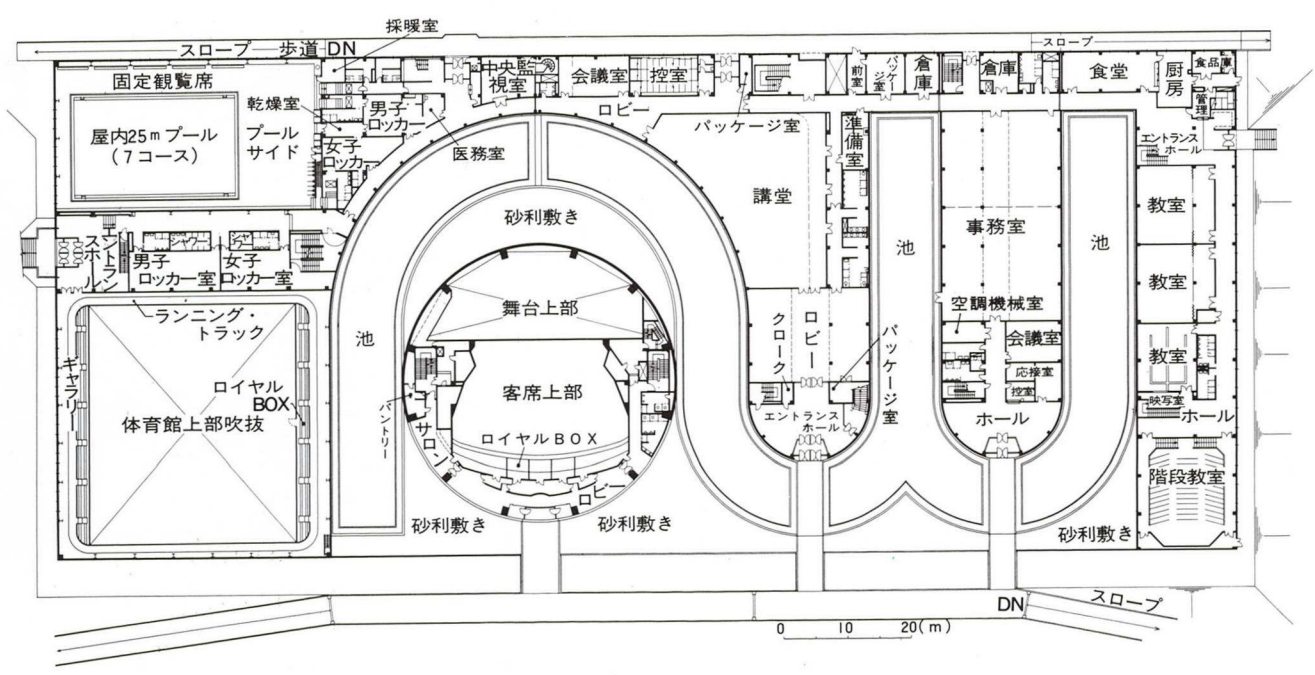
火葬棟仕上
屋根：砂利撒アスファルト防水
告別室屋根、パラペット笠木、キャノピー：
　耐候性鋼板、酸化促進処理
外壁：御影石本磨き
床　：御影石ジェット仕上
待合棟仕上
屋根：砂利撒アスファルト防水
外壁：擬石ツツキ仕上
床　：御影石ジェット仕上
告別室仕上
床　：御影石水磨き
壁　：石こうボード9㎜＋12㎜下地クロス貼り
天井：全上1部着色アルミルーバー

アイシンワーナー「希望の丘」

基本設計　清水建設名古屋設計部
設計監理　清水建設名古屋設計部・富士工務店
音響設計　日本放送協会総合技術研究所
施　　工　清水建設名古屋支店・富士工務店

所 在 地　愛知県安城市藤井町高根10
敷地面積　約40,000㎡（敷地全体面積 357,000㎡の内当建物該当分）
建築面積　12,630㎡
延床面積　18,500㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｓ、Ｂ１、３Ｆ
工　　期　昭和54年６月～昭和57年12月
最 寄 駅　名古屋鉄道西尾線 米津駅





1階平面図

アイシンワーナー社創立10周年を記念して建設された「希望の丘」は「心・技・体」のバランスのとれた人材育成の場として、また地域社会との融和をはかる接点の場として計画された。

建物は近代企業のモニュメントとして考え、盛り上げた芝生の丘の上に、外壁を白いＰＣ版と、ブルーのミラーガラスで囲い、12ｍ巾の流れる池と共に、〜の社章を形づくっている。内容は大きく５つの機能をもった棟（1.多目的ホール、2.体育館、3.ＰＲセンター、4.技術開発センター、5.研修センター）で構成され相互につながりをもった総合厚生施設となっている。

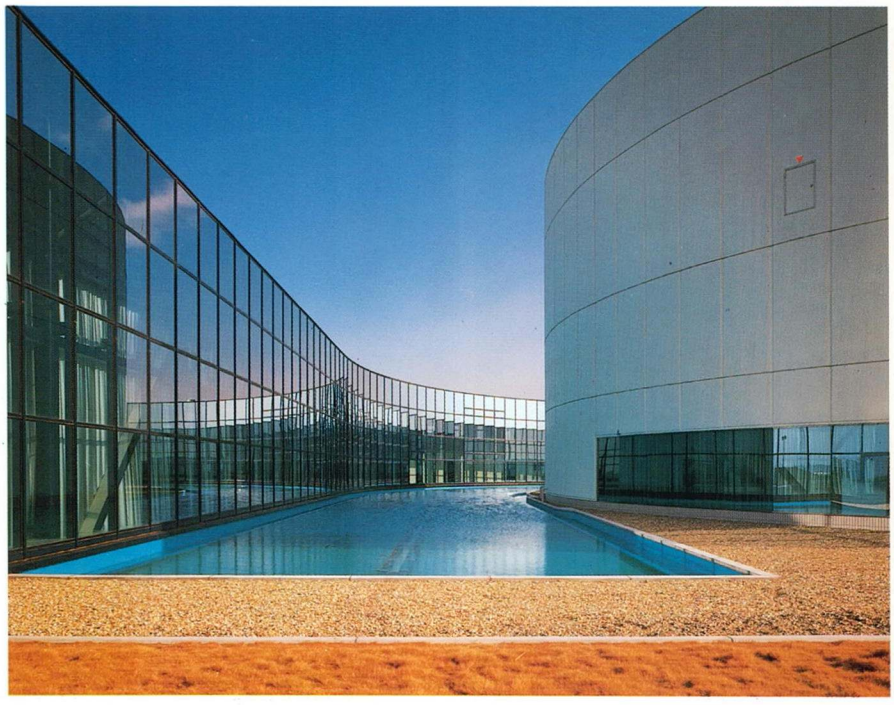
「希望の丘」施設の中心に位置する多目的ホールは、円型の外壁をもつ固定席1100名収容の中規模のホールである。音響計画上の特徴としては、コンサートホールとしての特性を第１に考えながら、社内講演会、発表会等にも充分耐えうる性能を確保していることである。客席後部壁面に回転式の可変吸音板を設けることにより満席時で、1.62秒から1.12秒までの巾をもった残響時間をつくり出している。また、騒音防止計画によりホール内騒音レベルは、ＮＣ－20以下という極めて静かな空間となっている。その他の施設として、バスケットコート２面、柔剣道場、屋内温水プール等の設備をもつ体育館他３棟がある。

（清水建設）

体育館、多目的ホール間の池をみる



希望の丘全景



多目的ホール、ホワイエ

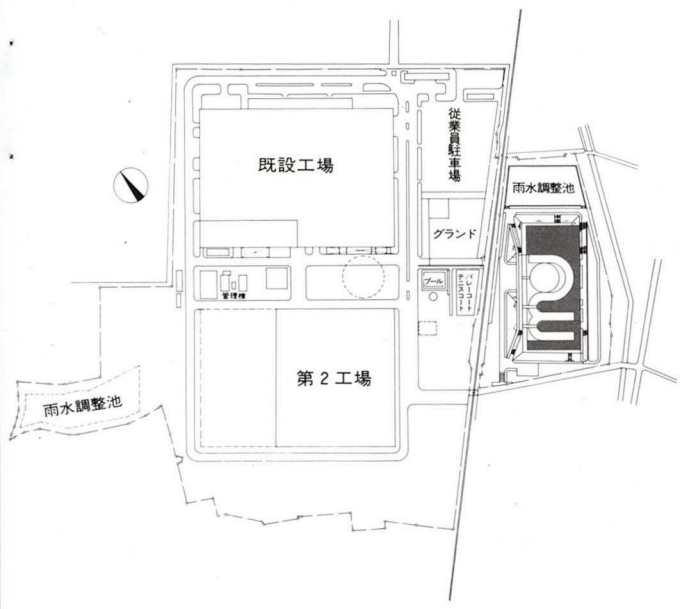


多目的ホール、舞台側（音響反射板セット時）

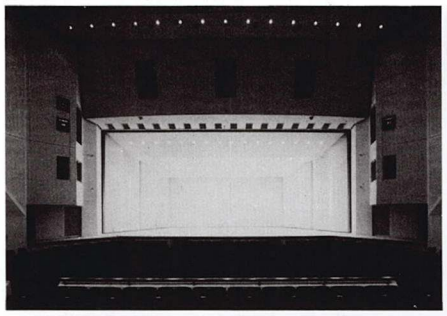


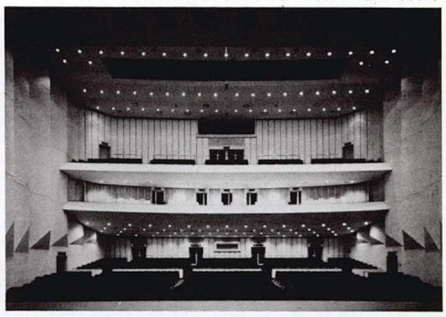
多目的ホール１階入口廻り夜景

多目的ホール、後部客席側（後部壁面は音響可変吸音板）



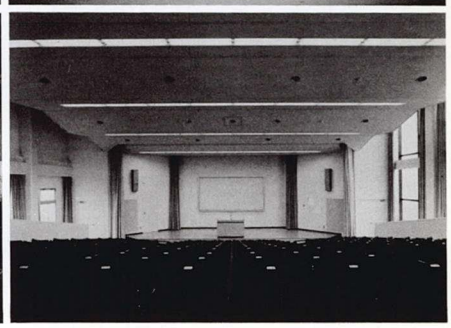
配置図







アリーナ（１階奥は武道場）



研修棟、階段教室

撮影：ＳＳ名古屋

日経名古屋電波会館（テレビ愛知）

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　戸田建設名古屋支店



外観正面

撮影：加藤敏明（ＳＳ名古屋）

所在地	名古屋市中区大須2丁目405～407
敷地面積	1,429.77㎡
建築面積	1,309.53㎡
延床面積	6,994.27㎡
構造規模	ＳＲＣ、Ｂ１、６Ｆ、Ｐ１
工　　期	昭和57年８月～昭和58年８月
最寄駅	地下鉄鶴舞線大須観音

名古屋地区第５番目の民間テレビ局「テレビ愛知」は、昨年７月に郵政省より予備免許を受け、本年９月１日の開局を目指して諸準備が着々と進められている。テレビ愛知は、チャンネルNo.25のＵＨＦ局で、県域放送局としてその放送区域は愛知県全域と岐阜三重両県の一部を対象とし、区域内世帯数は237万世帯とされている。この建物はテレビ愛知の本社屋、演奏所として建設されたもので、日本経済新聞社が建設し、テレビ愛知が全館を賃借している。

敷地は名古屋の中心大須で、当市を代表する若宮大通り（幅員100ｍ）に面し、向いの白川公園の緑と、近くの大須観音をとりまく歴史ある街並を背景に新しいテレビ局にはうってつけの立地条件である。

設計の基本となる考え方は、敷地の恵まれた環境を活かしテレビ局らしい建物とすることと、演奏所としては機能を優先させ、建設費と維持費の経済性の追求と、省エネルギーを心がけることにあった。

平面計画上の特徴は、出演者や制作、美術関係者等不特定多数の人々の出入や大道具の搬出入の利便のため１階にスタジオを設け、また放送技術関係の諸室は一つの階（３階）にまとめ放送機器を平面的に連続配置させている。そのために建物は低層部分では施工できる限度いっぱいまで敷地をいっぱいに使い敷地の不整形な部分を階段、エレベーター、化粧室等のサービスコアーにあて敷地の有効利用をはかっている。各階平面は単純明解な形とし、空間のフレキシビリティ有効性をあげ、避難のしやすい建物としている。その他公共の電波をあずかる建物として防災対策、とりわけ耐震性には十分配慮し、安定した放送ができる施設づくりを心がけている。

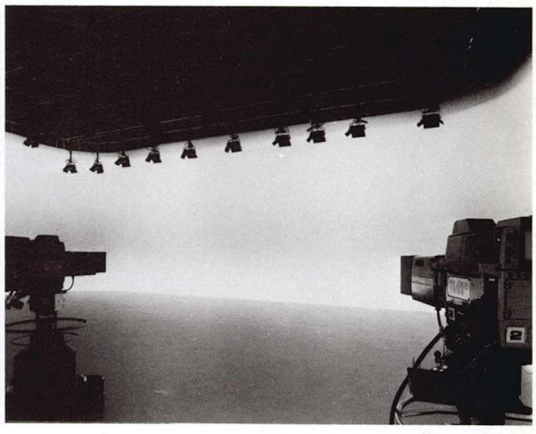
（森口雅文／伊藤建築設計事務所）



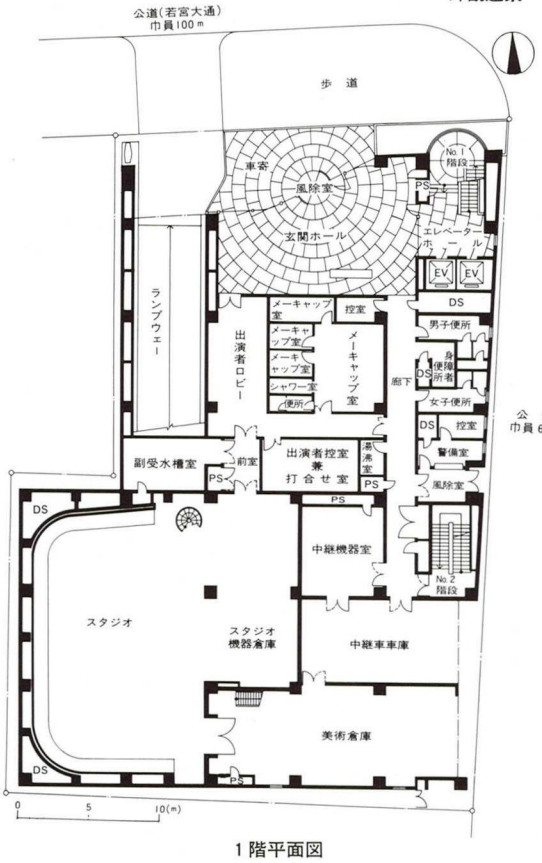
外観遠景



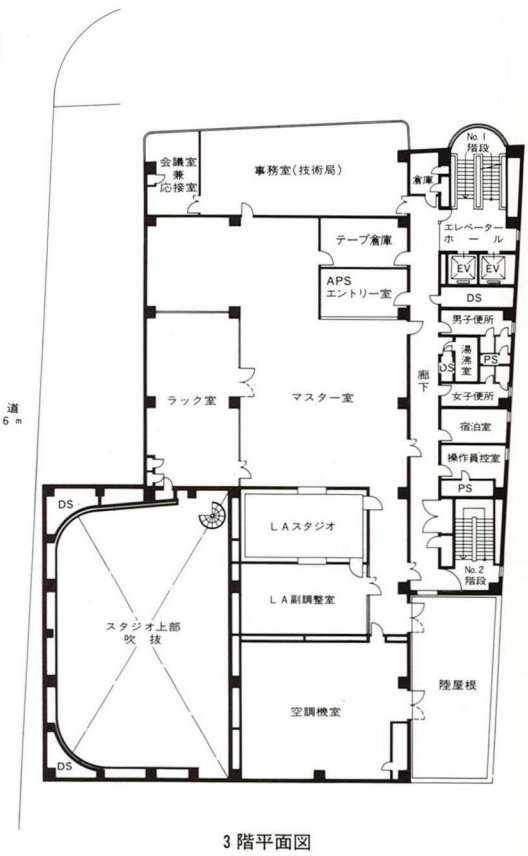
マスター室



第一スタジオ



1階平面図



3階平面図

ホテルコンコルド浜松

設計施工　竹中工務店



全景

撮影：Photo house TANAKA

所 在 地　静岡県浜松市元城町168
敷地面積　4,678.91㎡
建築面積　3,517.25㎡
延床面積　19,189.28㎡
構造規模　ＳＲＣ、ＲＣ、Ｓ、Ｂ２、18Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和54年８月～昭和56年３月
収容定数　330人；客室総数247室、Ｓ164室、Ｔ70室、ＤＴ４室、Ｗ５室、ＳＷ１室、和室３室
最 寄 駅　東海道新幹線、浜松駅

静岡県の西の玄関口浜松市は、50万の人口を持ち、軽自動車工業、楽器、織物、養魚業の諸産業の中枢機構を備えた東海地方屈指の産業都市であり、またテクノポリス構想の有力な候補地として、さらに成長発展が期待されています。

ホテルコンコルド浜松は、市のほぼ中心地にあり、浜松城公園と市役所、市体育館がある行政、オフィスビル群の一画に隣接するシティホテルとして計画された高層ホテルです。

ホテルの経営ポリシーは、和やかな調和・和合・一致を理想とし、ネーミングも〝コンコルド〟と名付けられました。

設計ポリシーは、現代のシティホテルがもつフォーマルな気まじめさと、フェスティバル的な華やかさの中に、アットホームな空間構成を提示すること、合理的かつ有機的に調和を計ることを目指しました。この地に人と人とのあたたかな触れあいと、新しい交流がこのホテルを舞台として花開くことを期待します。

建物は東西115ｍ、南北35ｍの低層棟（１階エントランスホール、ロビー、フロント、ティーラウンジ、コーヒーハウス、２階大宴会場、小宴会場、３階結婚式場諸室、中小宴会場）とほぼ中央に東西41ｍ、南北14.5ｍの高層棟（５階～17階客室247室、18階レストラン、バー）を配置しました。

遠州の青空に聳える淡いキャメルカラー調の外観はホテルの気品と風格の中に、明るく、落ち着いた雰囲気を与え、浜松城と共に街並みに新しいスカイラインを創り出しています。

（竹中工務店）

1階ロビー





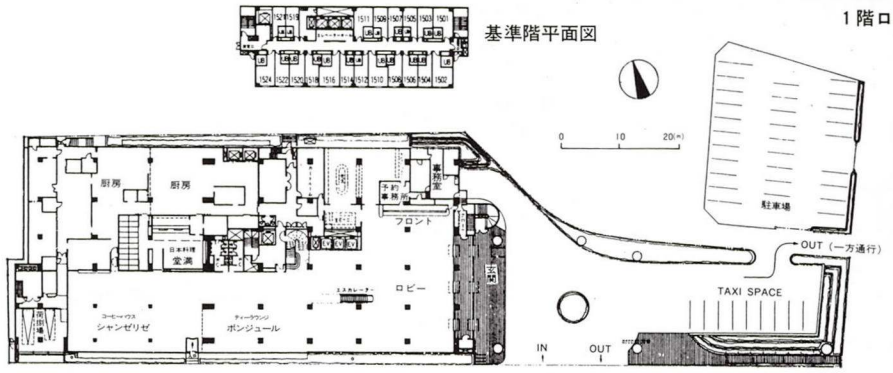
1階ロビー

大宴会場





客室



1階平面図

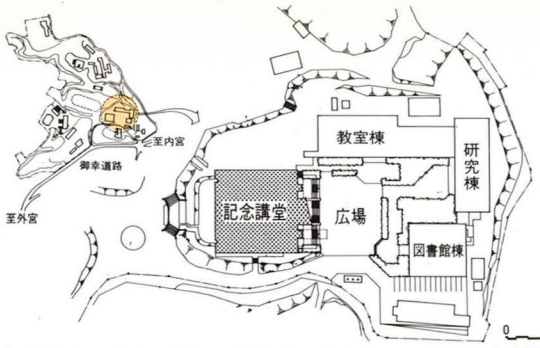
皇学館大学100周年記念講堂

設計施工　鹿島建設



正面外観

撮影：車田　保



所 在 地　三重県伊勢市神田久志本町1604-5
敷地面積　62,000.0㎡
建築面積　1,355.7㎡
延床面積　3,388.4㎡
構造規模　ＲＣ造、３Ｆ、Ｂ１
工　　期　昭和55年７月～昭和56年８月
最 寄 駅　近鉄名古屋線宇治山田駅

伊勢市の東方、神宮に隣接する緑豊かな丘陵地に皇学館大学の倉田山キャンパスがある。この恵まれた自然の中に創立100周年を記念して当講堂は計画された。

建設場所が当大学の本丸ともいえる場所であることから、１階に大学本部、２～３階を講堂とする複合構成とした。このため、ともすれば大きくなりがちなボリュームを、そのまま表現せず、できるだけ自然との競合を避けながら、調和・共存できるよう努めた。

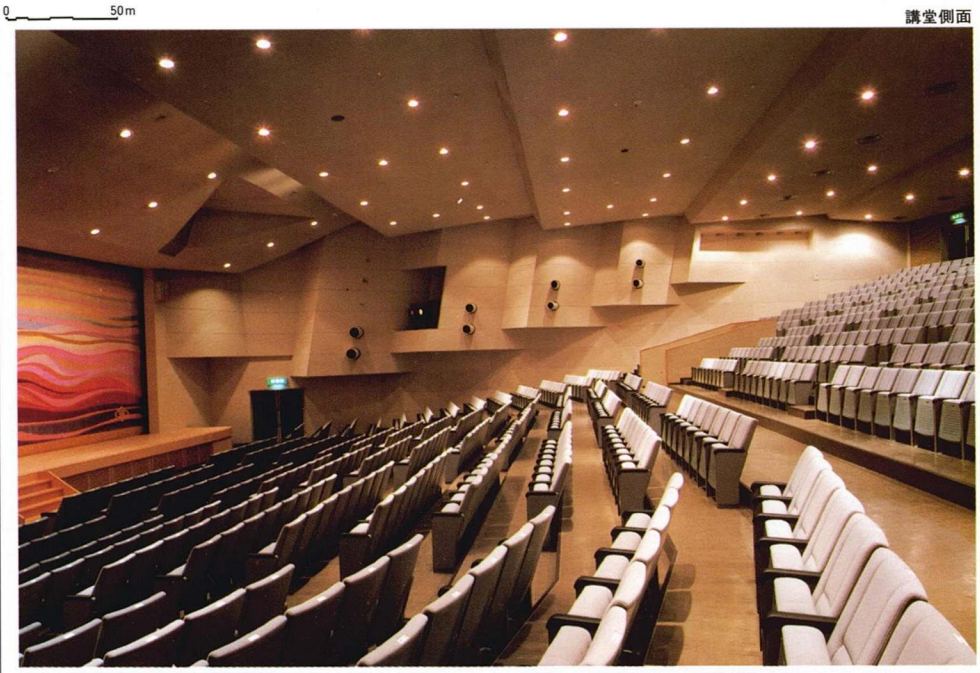
外観計画はメモリアルホールとしての象徴性から、素直なシンメトリックな形態として、15ｍの高さ制限とも相俟って、１階を前面広場から下げたスキップ形式とした。上下への大階段は段状のペーブともいえるもので、広場と建物を結ぶ中間領域として親しみとなめらかな人の流れを意図している。

講堂（固定席1000席）は講演を主体としながら、軽音楽、小演劇、日舞等の多目的機能を備え、大学関連の活動のみでなく、手頃で使い易い市民のためのホールをめざしている。多目的な音響性能に対応する折壁をデザイン要素に、流動感を持った指向性の強い壁面構成としてステージと客席との空間の一体化を図るとともに、色彩計画をモノトーンに近い押えた色調の組合わせとした上で、伊勢の海と昇る朝日をモチーフとする緞帳で、躍動感と明日への期待感が、この空間を満たし荘重な雰囲気を出すよう意図した。

今回、壁画、緞帳といったアートワークも含め設計を進める幸運に恵まれたが、学長始め諸先生方とも共同して満足できるものができたと思っている。さまざまの夢、希望のもと、それぞれの立場から情熱をそそいでの、まさに相互理解と協力のたまものとして、当講堂は誕生した。今後も学内外に広く利用され親しまれるホールとなるよう願って止まない。（木下武彦／鹿島建設建築設計部）


講堂への大階段

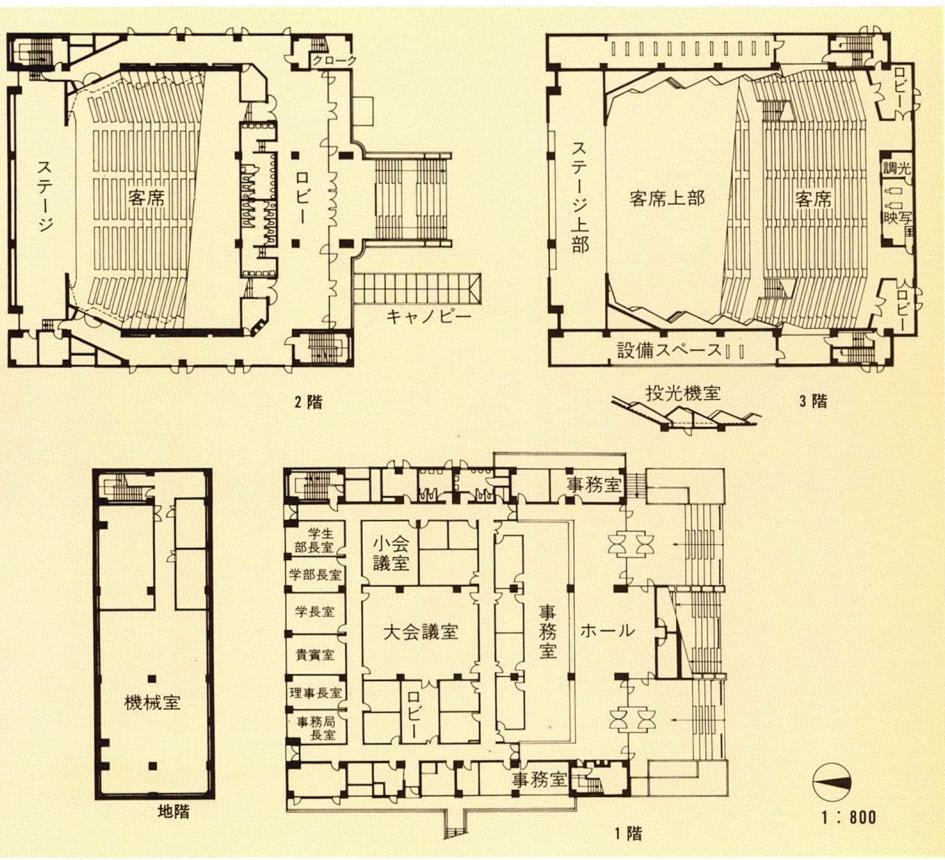
講堂側面




１階ホール


２階ロビー


講堂正面



平田町立平田中学校

設計監理　鈴木隆二設計事務所
施　　工　大橋組

所 在 地　岐阜県海津郡平田町蛇池
敷地面積　41,700㎡
建築面積　 2,508㎡
延床面積　 5,224㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ（一部２Ｆ）
工　　期　昭和57年１月～昭和58年３月
最 寄 駅　新幹線、岐阜羽島駅

濃尾平野の西端、木曽三川にはさまれた水郷の地平田町のほぼ中央に、永年町民のねがいだった中学校の統合が実現した。
〝創造性と人間性を育てあげるにふさわしい、芸術的で潤いのある教育空間としたい〟という発注者の意図が、教育環境の全域に、また施設の各部に具体化されている。



ふれあい広場

撮影：車田　保

この地方特有の季節風からグランドを守る目的と、生徒が散策するプロムナードエリアとして、〝思索の森〟3000㎡があり、中央に高さ15ｍのモニュメントがそびえ建ち、その頂部にカリヨン９ベルが付いてメロディが流れ、地域との一体感が図られている。

敷地の外周はすべて幅２ｍ～７ｍのグリーンベルトで囲われ、樹木の間を縫ってマラソンコースが造られている。さらに校庭の一画に〝卒業生の丘〟があり、記念樹や記念碑の点在する想い出の空間となっている。

管理部門、特別教室棟、普通教室棟、体育教室の４種のゾーンが、夫々の機能に応じた位置に独立性をもって配置され、その中心に水と緑のエリアが〝ふれあい広場〟がある。ベランダから屋外階段で上履のまま利用でき、休憩時のリラクゼーションの場に供されている。

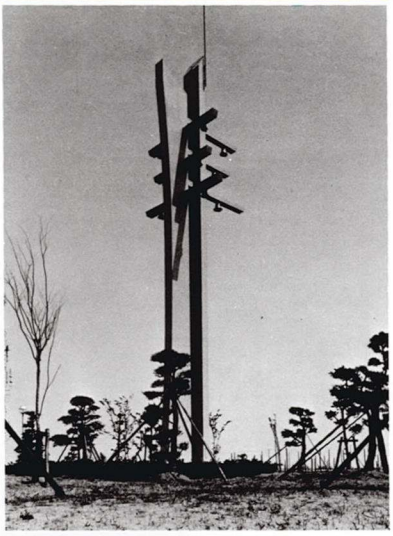
全施設の中心に広々とした生徒玄関があり、生徒ラウンジのガラス越しにふれあい広場が一望される演出は、生徒が主役であるこの施設を象徴している。

（鈴木隆二）







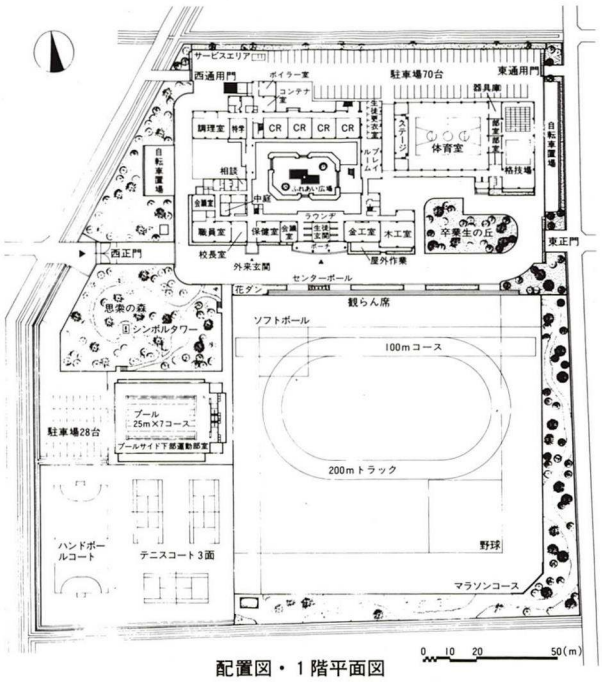




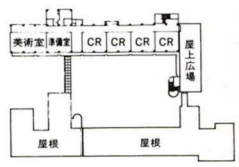
（上から）
西正門より校舎をみる
校舎全景
思索の森とモニュメント
生徒ラウンジ



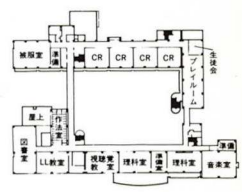
ふれあい広場



配置図・１階平面図

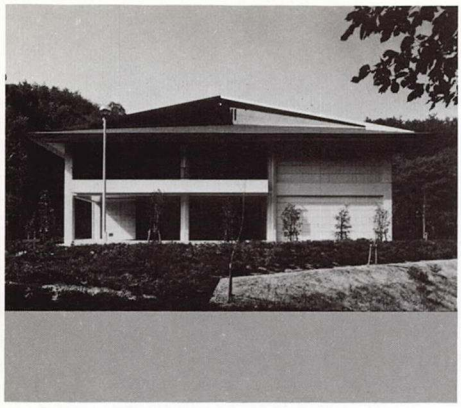


３階平面図



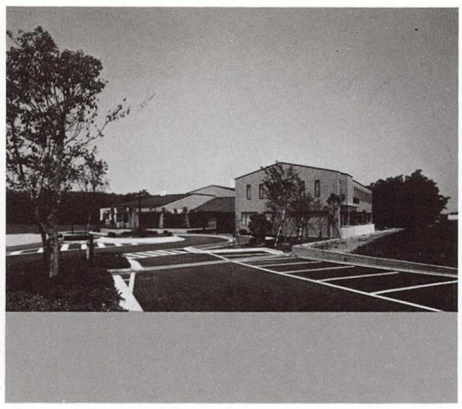
２階平面図

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



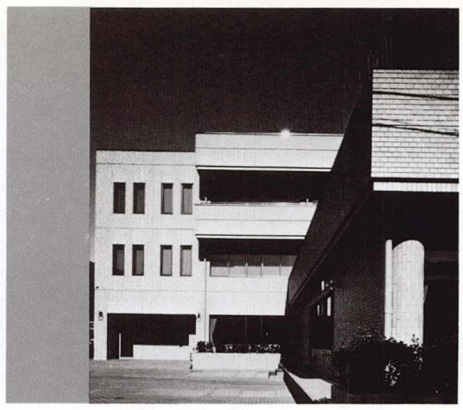
1684 愛知県和紙のふるさと展示館

設計：愛知県建築部営繕課・伊藤建築設計事務所
施工：大啓建設
a．愛知県西加茂郡小原村大字永太郎地内
b．172,000㎡
c．　888㎡
d．　1,224㎡
e．RC、2F
f．昭和56年10月～昭和57年8月



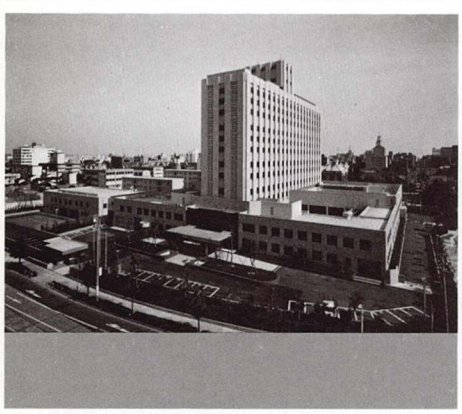
1685 三重県農協総合研修所

設計：東畑建築事務所
施工：三重農林建設
a．三重県久居市森町字下山田2039－7
b．6,174㎡
c．1,359㎡
d．2,175㎡
e．RC(一部S)、2F
f．昭和56年2月～昭和57年1月
g．近鉄名古屋本線久居駅



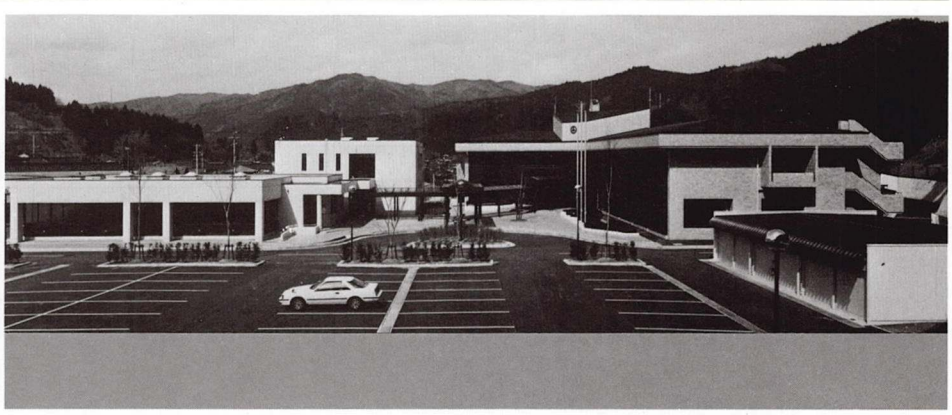
1686 下呂町民会館

設計：鈴木隆二設計事務所
施工：曙開発
a．岐阜県益田郡下呂町森960
b．1,924㎡
c．1,100㎡
d．2,233㎡
e．RC、3F、P1
f．昭和56年8月～昭和57年7月
g．国鉄高山線下呂駅



1687 名古屋拘置所

設計：法務大臣官房営繕課
施工：大林組・大日本土木共同企業体
a．愛知県名古屋市東区白壁1－1
b．15,983㎡
c．4,570㎡
d．20,271㎡
e．SRC、B3、12F、P3
f．昭和55年8月～昭和58年3月
g．名古屋地下鉄名城線市役所駅



1688 稲武町保健センター

設計：黒川建築事務所
施工：青木建設
a．愛知県北設楽郡稲武町大字稲橋字竹の下1-1
b．9,259㎡
c．400㎡
d．332㎡
e．RC、1F
f．昭和57年4月～昭和57年12月
g．名鉄豊田経由西中金下車名鉄バス稲武

1689 稲武町基幹集落センター

黒川建築事務所
熊谷建設
左同
9,259㎡
226㎡
427㎡
RC、2F
昭和56年6月～昭和57年2月
左同

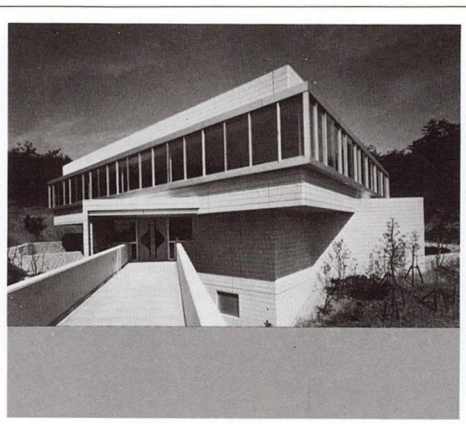
1690 稲武町役場庁舎

黒川建築事務所
大成建設名古屋支店
左同
9,259㎡
1,272㎡
2,087㎡
RC(一部SRC)、2F
昭和57年6月～昭和58年3月
左同



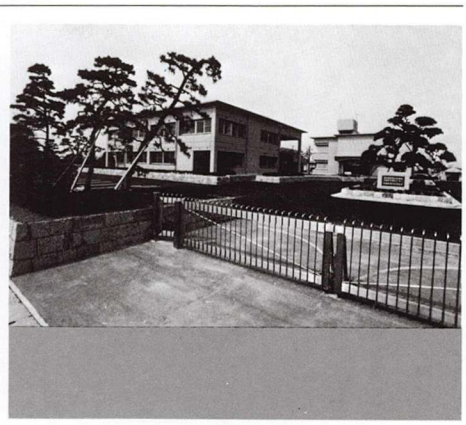
1691 日本専売公社東海工場会議所

設計：日本専売公社中部支社営繕部建築課・東畑建築事務所
施工：石川建設
a．静岡県磐田市鳥之瀬243－1
b．1,498㎡
c．425㎡
d．599㎡
e．RC、2F
f．昭和57年8月～昭和58年1月
g．国鉄東海道線磐田駅



1692 名古屋市立保育短期大学図書館

設計：名古屋市建築局営繕課・中建築設計事務所
施工：信和建設
a．愛知県尾張旭市平子町北59番地
b．76,789㎡
c．545㎡
d．1,005㎡
e．RC、B1、2F
f．昭和57年3月～昭和58年3月
g．名鉄瀬戸線あさひまえ駅



1693 愛知県安城農業センター

設計：愛知県営繕課・長谷部建築設計事務所
施工：石田組
a．愛知県安城市池浦町境目1
b．84,990㎡
c．4,120㎡
d．4,376㎡
e．RC：2F、S：1F
f．昭和56年8月～昭和57年5月
g．国鉄東海道線安城駅

座談会・1

東海の将来像を語る

出席者（敬称略、五十音順）

井澤慶一／中部日本放送株式会社常務取締役
井沢知旦／社団法人地域問題研究所研究員
外山公司／中部経済連合会企画部長

司会

中島一／愛知工業大学教授・日本建築協会東海支部長

21世紀の中部

中島　外山さんのところで「21世紀の中部ビジョン」を発表されていますので、ひとつ総括をお願いしましょうか。

外山　本日は「東海の将来像」という非常にむずかしいテーマですね。私どもでは、少しエリアが外れますが長野県を含めました中部5県を対象とするビジョンを昨年3月に発表しております。私が所属しております中経連が30周年を迎えまして、その記念事業に何をしようかということが課題になったのです。最近は変革の時代といわれますように、内外にわたる情勢が大きく変化しておりますので、過去を振り返るより将来を指向したビジョンをつくれとの指示があり、この不透明な時代にあえて挑戦したわけです。その根っこには、中部の将来を考えるとどうもおかしいのではないか、どうも大きな変革期を迎えているという危機意識があったのです。

中部は、わが国の二大先進地域である東京と大阪の真ん中にあって、これまで物をつくって成長してきたところで、中枢管理機能的なものの集積が相対的に乏しい。しかし、片や世界、日本の情勢はといいますと、国際化、情報化、技術化が急速に進展しており、中部とのギャップはいっそう拡大しつつある。しかも、中部の100年にわたる発展を支えてきた繊維・陶磁器・木材といった伝統型産業が発展途上国の追い上げを受けている。また、その後に台頭した鉄鋼とか自動車産業も成熟化の段階を迎え、かつてのような成長が望めない情勢にある。それに加えまして、エレクトロニクス系列など、いわゆる新成長産業の芽も少ないのが実態であります。

中部は、工業生産を中心に地域社会を経営しておりますので、よほど上手に対応していかないと大変なことになる。このため、新しい進路を探る〝たたき台〟としてビジョンをつくった次第です。

このビジョンは、国際化時代に対応するため、まず世界がどうなって、そして日本がどうなるであろうかという展望のもとに、さて中部はどうすべきかを検討しております。

このような問題を踏まえながら中部の将来をみますと、中部は、東京、大阪圏に比べて発展が相当遅れている。このため、反面では用地・用水・港湾等で非常に余裕があり、開発余力が大きいということがひとつ。それからもう一点は、都市の配置がすぐれているということです。これからますます価値観が多様化し、多様な住民希求に対応するには、すぐれた都市づくりが重要な施策になります。東海地方の都市は、中枢都市名古屋を基点にしまして、地域の中核都市が同心円上にぐるりと出てきますし、一方では放射状につながっております。したがって、これらの都市群を上手に連携し都市圏を形成すれば非常に住みやすい場所になるということです。このような自然の資質と都市の配置、それに加えまして日本の中央にあるという位置を考えますと、まだまだ大きな発展が可能であるといえるわけです。

中部の発展を考えるに当たっての基本的条件は、わが国の二大先進地域の中間にあるということでして、この条件のもとで、何を柱にして発展を図るかが重要な課題になります。

いろいろ考えてみましたけれど、情報化の進展につれて、いわゆる中枢管理機能はどんどん東京に集中し、大阪をもってしてもなかなか対抗できないわけですね。中部でもこれらの機能を高めていくことが望ましいのですが、大きな期待はできないのではないか。そうだとすれば、従前どおり物的生産を中心としながら発展せざるを得ないのではないか。それとともに、国際化時代ですから、大きな面積と浅い海域をもち開発余力の大きい伊勢湾を環太平洋経済圏や東南アジア経済圏の窓口にしようという考え方が、ビジョンの流れになっております（p.48の発展フロー図参照）。

井澤(慶)　大変よくできているんですが、それはむずかしいことが多いでしょうね。

たとえば、愛知県というのは土地の値段が高いでしょう。三重県より高いわけですから、その点だけでも企業誘致は三重県が有利ですね。

中島　ただ、こういうときに私、非常に気になるのですが、やはりポテンシャルエナージーというものが、果たしてこれに耐え得るかどうかということです。

たとえば、トヨタ自動車がすばらしい製品を大量につくっていますけれども、あれは突然自動車工業があそこにできたわけじゃない。

三河の方は土壌が非常に弱かったわけですね。綿しか農民はつくることができなかった。綿を紡ぎまして、今度は手でもって織っていたのですけれども、これは非能率であると。それで生産性を向上するために、自動的に何かできるだろうかというので自動織機ができた。自動織機の技術が車へと発展してきた。ある日、突然車工業が出てきたわけではないんですね。

そんなことを考えますと、こういうビジョンは確かに非常にすばらしいし、こうあるべきだと思いますし、そうしてほしいと思うのですが、潜在的にそういった基盤があるのかどうか。そんなことが最初に気になったわけです。

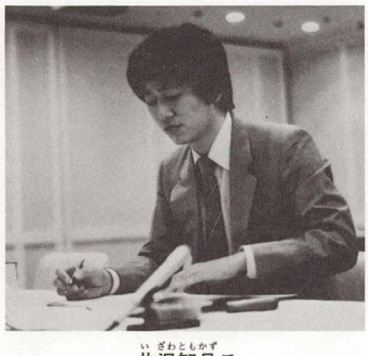
5段階評価で3 ―名古屋

井沢(知)　私の勤め先の地域問題研究所の方で、市町村レベルなり個人レベルで町づくりとか村づくり、あるいは人づくりという観点から10年ぐらい地域に密着して活動を続けてまいりました。多分外山さんと見方が違うと思うのですが、そのような観点から東海地域を考えてみたいと思います。

東海地域をどうみるかという点なんですけれども、私も建築出身なものですから、住宅の規模なんかをいろいろデータで調べておったのです。そうしますと、東海地域というのは、全国のまさに平均的な住宅規模を持っているのです。これはどういうことかといいますと、住宅というのは気候なり風土に非常に左右される。つまり、気候・風土は生産様式を規定してくる。そうしますと、そこの中から生活様式が生まれてきますので、そういうものが影響して、東海地域が、ちょうど日本の平均的なものを持っていたということになる。そうしますと、東海地域をどうみるかという話になってきて、いろいろな文献なんかを読んでみても、先ほど外山さんの方からもご指摘があったように、ひとつは自然なり風土が非常に平均的な地域であるということのほかに、北方文化と南方文化の接点でもあるという指摘もされていますし、それから社会的条件も、首都機能を持ったことのある京都なり大阪、あるいは東京の中間地点である。その結果、人口なり工業なり商業の重心がちょうどこの辺にあるということですね。

そのほか産業構造をみても、確かに自動車で特化はしているのですが、分類をもう少し大まかにとらえますと、まあまあ平均的な、いろいろな構成を持っているということになるんですね。そこで、東海地域を平均化されて非常に特色のないという見方をするのか、あるいは非常にそれが多様化しているからこれをどう生かしていったらいいかという見方と、2つに分かれてくるような気がするんです。

この間、名古屋市の方からの話で十大都市比較を、また東海銀行の方からの話でも名古屋市の魅力を、ということで特集を組んでいろいろ都市間比較をやっておったのですが、結果的に東海圏の中核都市である名古屋は、やはり平均的になっているんですね。つまり5段階評価にしますと3が多いというような地域になっている。ちなみに、5段階で5と評価が高いのは、救急病院の数と乗用車の保有台数。やはり事故が多いと救急病院も必要なのかな…と。それから失業率も高い。


井沢知旦(いざわともかず)氏

私は平均的であるということは特別よい点がない反面、特別悪い点もない、これは土台がしっかりした地域だと思うわけです。しかも各指標からみて他の都市圏に比べ、ゆとりがあるので、これからの文化とか人づくりには有利な条件、有利なスタートラインに立っているのではないかと思います。

井澤(慶)　私は、ご両人のごとく学術的、学問的ではないものですから、一介のジャーナリストとして庶民感覚でいろいろみているわけですけれども、オリンピックに失敗した前後から、東海地方または名古屋大都市圏、中部9県といった範囲でビジョンの論争が起こってきたのです。従来はあまりなかった。これが最近の大変な特徴だと思いますよ。その中には、いま申されたような学術的な調査研究もありますし、それから非常に文化的な集まりで出たものもありますね。


井澤慶一(いざわけいいち)氏

たとえば、いまお話しになった中経連のものとか、地域問題研究所、そのほかに中部開発センターもございますし、それから石田退三財団がやはり地域問題の研究をやっておられますね。民間の会社でもいろいろあって、たとえばＩＢＭが名古屋会議というものを持っていて、立派なレポートを出しておられます。官・民を問わずビジョンづくりといいますか、将来はどうなるのだという研究、検討がなされていて、それだけにこの地域の人がそれらをみて、いろいろ考えていることは事実だと思うのです。

ところが、いま井沢さんのお話の中にもありましたように、ここは一言でいえば非常に住みやすいところなんです。何にもしなくてもいいところなんですよ、ちょっと語弊がありますけれども。あまり大したことをしなくても、ちゃんと食っていける。気候は温和だし、野菜はありますし、魚もある。それから物資の交流も、中心点ですからいろいろなものが入ってきます。つまり、野心を持たなくても十分一生賄えるところなんです。これがここの強みであって、将来像に対しては大変な弱みになるんですね。つまり、ビー・アンビシャスというところがないわけです。たとえば、北海道みたいに開拓ができていない、非常に気候も厳しいところでは、一生懸命やって今日の北海道をつくったわけです。裏日本だってそうだと思いますよ。こういう平均的で、しかも気候も温和だ、物質もわりあい豊富だというところでは、ビー・アンビシャスにならないんです。

したがって、非常に立派な議論が方々で出ていますから、それらを活性化して、本当にビジョンを具体化するには、いかにしてここの人たちを、安住しているところから引きずり出して前へ押し出すか。それを、われわれはジャーナリストとしていつも感じているわけです。

外山　まさにそうですね。私のような立場になりますと押す方の話ばかりしておりまして、つぎの段階、行動へというわけですね。

中部をどう評価しているかといえば、中部も三大都市圏のひとつに数えられていますが、東京圏が上位にありまして、そのつぎに阪神圏があり、相当下がって東海圏があるということで、東海圏は日本の先進地域ではなく、実際は日本の中心地域と判断しております。

井澤(慶)　昔は経済でも、この東海3県というのは1割地区といわれましたね。いまは7％ぐらいじゃないですか。

外山　私はもっと低いと思います。物的生産では全国の13%を占めておりますが、機能の面でみましたら……。

井澤(慶)　5%ぐらい。

外山　はい。

名古屋の美徳

中島　その辺のところが東海地方の現在的な評価のひとつの基準になるのじゃないでしょうか。たとえば、首都圏と近畿圏との間にはさまれ、そうして新幹線がどんどん通っていきますが、中間的な存在になってきている。名古屋という名前からくる個性のあるイメージが沸いてこない。確かに名古屋のテレビ塔は先駆者ですよ。北海道・札幌の大通公園に同じものが立っています。しかし、あそこへ行きますと、札幌へレクリエーションに行った人がみんな集まってくるわけです。名古屋は、テレビ塔へ集まろうという声はあまりしない。むしろ地下街へ行こうかというようなものでしょう。ですから、名古屋とは一体何だといわれると、さて何だろうかと。個性のあるイメージが浮かんでこないというところが、ひとつ問題があるのじゃないでしょうか。

たとえば神戸は、さんちかタウンとか、あるいはエキゾチックな外人住宅の町並みがあるとか、あるいは長崎ですとオランダ坂だとかがあるんですね。名古屋はあるんですけれども、それをひた隠しに隠そうとする。四間道とか白壁町なんてあるんです。私も名古屋人ではありませんが、よく勉強して調べてみるといいところがあるんです。それを表へ出さない謙譲？の美徳があるのでしょうか。

井澤(慶)　こういうことをいった人があるんです。そういう性格解剖で、原点の原点になっているのは儒教だと。徳川時代、ここは明倫館がありまして、非常に儒教の学問の盛んなところで、これが三河、尾張を問わず非常に庶民の間にまで浸透しておった。あの学問は自分を誇ってはいけないんですね。自分を無にして奉公しなければいけないんです。そういう儒教の精神がいまだに残っているんじゃないかという人があるのですが。

井沢(知)　私は名古屋人の謙譲の美徳というよりも、きちっとした自己あるいは自都市評価ができていないんじゃないのかと思います。自己評価なくして、自分たちの町に自信とか誇りなんかを持てるわけがない。とくに新聞などは、オリンピック失敗が一層拍車をかけたんですが、名古屋はダメだ、東海はダメだというキャンペーンをはっていますが、どれだけ効果があるんでしょうか。むしろいまは、自分たちの住んでいる町のよさを積極的に周知するほうが活力ある町づくりには効果的なような気がします。

現在、全国で人口の6%が1年間に移動していますが、愛知県のそれは12%です。高度成長期にくらべてその比率は低下し、将来は一層低下していくと考えられます。人口の素通りから定着化が進むわけです。そうなると、定着する住民は地域に対する関心を強く払うようになってくるでしょうし、これが名古屋・東海のよさの再発見につながっていくような気がします。

東海の道路

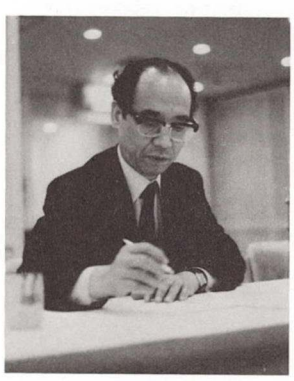
井澤(慶)　ビジョンの中核になるもの、特出させるべきものはいろいろあると思います。たとえば空港だとか伊勢湾の整備、道路。道路だって環状道路とか東海北陸道路がありますね。その辺のお話を聞かせてほしいと思いますが。

中島　独立した都市がそれぞれ鼎立しているわけですね。それを何らかの形でまとめていきながら収斂して、それのエネルギーをビジョン化していくということ……。

井澤(慶)　だから、やはり道路が完備しないことには、都市のネットワークもできないと思いますよ。

中島　この辺はもう少し説明をお願いしたいですね。

外山　東海の道路について私なりに勝手に解釈しますと、道路はもともと都市と都市を結ぶものでありますが、中部の高速道路は、要するに東京と大阪を結ぶことが主目的で、この中間地として通過している状態で、これを有効利用する東海内の道路網の整備が遅れ、放射状の道路はあるが、環状の体系がない。私どもでは、スモールリングといっておりますが、名古屋環状2号線にしても……。



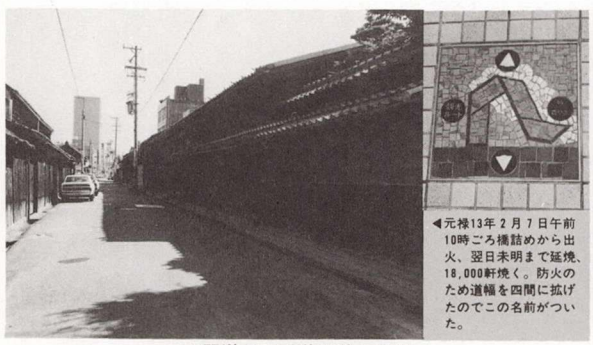
外山公司氏

井澤(慶)　全然これは進みませんね。

外山　まだ平面道路が少しできた程度です。

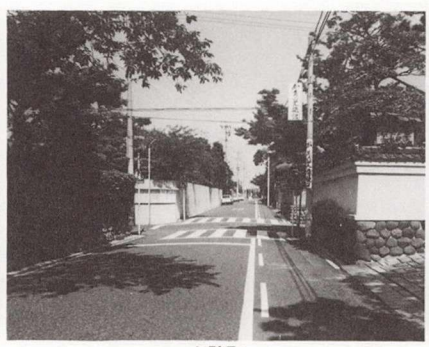
ところが、名古屋市の100m道路の事例もあって、東京では道路網の整備されたところだという認識があるわけです。この間も東京へ行きまして笑い話をしてきたのですが、名古屋は非常に道路のいいところだとおっしゃるもんですから、ところで東京では何環までいっているのでしょうか、たしか7環半ぐらいまでだと思いますが、私のところは2環がやっと少し完成した程度でして……と。道路現状に対する認識にはかなりの差があります。

道路については、域内をネットワーク化し、東海の人が使いやすくすれば、それにつれて都市機能のネットワークも形成されていく。それからもうひとつ問題は、これからの産業というのは、いわゆるグラム単位といわれますように、軽量小型化した高級品、高付加価



◀元禄13年2月7日午前10時ごろ橋詰めから出火、翌日未明まで延焼、18,000軒焼く。防火のため道幅を四間に拡げたのでこの名前がついた。

四間道と四間道の道上標識



白壁町



名古屋・桜通り


名古屋・久屋大通公園

値化したものをつくりますので、立地自由度が非常に高くなり、臨海産業時代と異なり内陸部への立地指向が強まってきます。また同時に、製品の高額化に伴って運賃負担力、時間価値がともに向上しますので、高速道路網の整備が産業の誘致や適正配置に当たって不可欠の施策になってきます。

私どもでは、ミドルリングといっていますが、いわゆる東海環状自動車道をつくり、これを軸に、交通・通信、都市機能、さらには産業のネットワークを形成し、東海の新しい発展軸にしたいと考えております。

中島　東海地方は首都圏、近畿圏のはざまにありますが、比較的海岸線は長く、良好な港湾に恵まれていますね。

外山　全国的にみました東海の位置づけというのは非常にむつかしい問題です。たとえば先ほど開発余力の大きい伊勢湾を世界に向かって開く窓口にしたいと申しあげました。ところが、外国貿易の形態をみますと、従前から東京湾・大阪湾の２港揚げが主流となっております。これから商品がだんだん軽量小型化していきますと、コンテナ化がいっそう進むことになります。こうなりますとより集中の傾向が強まってきますので、第三の港である伊勢湾は？ということになります。神戸港は、日本の西の貿易港であると同時に、東南アジアの拠点として機能しております。

このように、東海は、東京と大阪の中間という立地条件や、これまで形づくられてきたシステムに抵抗しながら事を運ばざるを得ないという宿命をもっている。ここに、多くの問題がある。

井澤(慶)　ところが、抵抗しながらとおっしゃったけれども、抵抗精神が弱いんじゃないですか。

外山　現状ではだいぶ弱いと思います。

井澤(慶)　もっともっと抵抗すれば、ということはＰＲになりますからね。

外山　それで、抵抗しなくなったのがいつごろからなのかということです。名古屋市の都市計画がジャンジャンやられた時代、昭和30年代の高度成長期まで相当活動したが、石油ショック以降何かすうっと消えていった感じですね。

経済的機能向上と産業活性化

中島　では、終結の方にお話を進めたいと思います。

この夢を実現するために、われわれ自身もそれぞれの職場で、日ごろの職業を通して考えていかなければならないと思うのですけれども、どうしたらいいのか、どうあるべきかというお話をちょうだいしまして、結びにさしていただきたいと思います。

外山　先ほど申しあげましたように、現在の問題は、曲がり角にきた産業を新しい視点から高度化し、その成果として相対的に低い所得水準を改善することが第一である。そうして、東西との格差意識を解消すれば、文化水準も向上し、よりよい東海が形成される。そのためには、当面、経済優先といわれながらも、経済的機能の向上や産業の活性化を促進しなければならない。

といっても、その実現には、いろいろな解決すべき問題がある。中部新国際空港の建設にしましても、外国の都市と比較すれば、中枢都市名古屋に空港が３つぐらいあっても不思議ではないといえるわけです。たとえば、九州には佐賀県を除き１県１空港で、空港を核とする地域開発も進められております。九州において空港が整備されますのは、地元の努力とともに、東京からも、大阪からも、また私どもも九州の空港を利用しているわけで、空港背後の需要が非常に大きいということです。ところが東海の空港は、東西両圏に近いせいもあって、空港背後圏の需要が小さいという条件を持っております。しかも空港整備は特別会計ですので、ペイしないとなかなか実現しないことになります。

こうなりますと、いま私どもは何をなすべきかといえば、空港が建設される基礎的条件、要するに実力をつける努力の積み重ねが大切であるということになります。

私は日ごろ見習うべき場所として、浜松、それから刃物産地の関、それに神戸をあげております。この地域では、行政も財界も住民も一体となって活動していると思うからです。

井澤(慶)　浜松がそうですか。

外山　はい。たとえば浜松ですが、あそこには港がありません。なぜできないかといえば沿岸に砂が漂っておりまして、港湾を建設してもすぐに埋まってしまうわけです。そういう場所なのにあれだけの産業集積があるわけですし、基盤整備も一体となって着実に進められています。

東海におきましても基盤整備、産業の高度化を、大きな開発余力を背景に着実に進めていく。そして、中部新国際空港が必然的にできる実力をつける。それに加えて、アメリカのサンベルト地帯で実施しているように、空港を核とし、新成長産業を誘致する。それに対応する研究機関や取り引き機能、フリーゾーンを設けるといった夢多き開発をしたいと思っている。

このためにも、新空港建設のための直接的な活動とともに、空港が成立するための外部条件を極力整えるという両面作戦を積極的にやっていこうと考えています。その前提には、先ほどおっしゃいましたとおり、東海の人々の意識改革が必要であり、これが基本的課題であると思っているわけです。

いまの世の中、見方としてはグローバルな見方が不可欠な時代になっています。ところが一方で、非常に背反することかもしれませんが、ローカルな視点も同時に持たないと、綿あめみたいな都市にな

ってしまうのじゃないかという気がします。われわれの立場としての話になるのですが、いわゆる自治の単位である自治体なり、あるいはそこに住んでいる人たちの地区をどうしていくのかという視点が重要であり、人づくりなり総合力としての町づくり、これらをもっときめ細かく積み上げていく姿勢を逃してはならないということです。やはり、自分たちの住む地区や地域に対し、誇りや自信を持つということは、外へ向かってのエネルギーといいますか、外へ向かって何かやっていこうという自信につながっていくわけですから、この辺のところでもう少し身の周りを含めて考えていく場というものを考えたらどうかということです。

たとえば地域の地盤沈下がいわれ、いま先端産業だといわれていますが、そのことが住んでいる人たちにとってどんな影響力があるのかということを明確にしない限り、なかなか地元がついていかない。ある意味で危機感ばかりのあおり方は非常に危険ではないかという気がします。

もうひとつ、中部圏の役割といったときに、東京との対抗意識というのは何か無理なような気がするわけです。そうしますと、中部圏については中部圏自身が責任を持ち、行動する必要があります。そのためにはまず、中部圏の中核都市といわれている名古屋市が、中部圏の情報収集をもっと徹底的にやってほしいと思うのです。岐阜なり、三重なり、静岡、あるいは日本海側へ行って新潟とか富山、福井、こういった情報というのは、どうしても東京経由でくるわけですね。結局、東京をみて中部のことを考えなければいかぬという、ひとつの屈辱みたいなものがあるのじゃないかという気がするのです。

これもある本で読んだのですけれども、九州に九州経済調査会というのがありますね。九州についての経済情報を徹底して集めている。そこへ行けば九州の情報もわかれば、かつ中央の情報もわかるという組織です。しかし、そこへ行けば中部の情報がわかるというものが、中部にないのです。これを徹底的にやってほしいということです。

さらに、中部圏あるいは東海圏というのが、いろいろ多様性を持っている。また、都市圏全体をみましても、多核都市圏構造を持っている。これを個別の多様性の寄せ集めの地域ではなくて、もっと交流して、関係づけの中から新しいものをつくっていく。そういう仕掛けをつくっていけば、ある程度展望が開けるのじゃないかと考えています。

井澤(慶)　非常に結構なお話を伺ったんですけれども、私はつぎの２つを申し上げたいと思います。

ひとつは、ついこの間も９県の知事会議があったわけですけれども、あの論議を聞いておりますと、毎年毎年知事会議をやられて、しかも関係部局の会合も数多くやられておるにもかかわらず、いまだに中部一体のビジョンがないわけです。勝手なことをいっているわけですよ。官界があいうふうでは、民間の方でいろいろなビジョンを出されても、まとまるわけがないんです。しかし、そんなこともいっておれませんので、何とかあらゆるところが出されたビジョン論争というものを、ちゃんと正規の形態にまとめ上げてオーソライズをしてもらいたいと思いますね。勝手なことをいっている間は、ビジョンが庶民の段階で沸かないのです。私はジャーナリストですから、あえていわせていただきますけれども、あっちで軽気球があがった、こっちで花火があがったというのでは、なかなかビジョン論争が前へ進まないわけです。したがって、何とか官界も、第三セクターも、民間も、おのおの打ちあげた軽気球を持ち寄って、せめて１本か２本ぐらいの大軽気球にしていただいて、ビジョンをオーソライズしてもらいたいと思いますね。この要望が、まず第一点。

それから第二点は、こういう民主主義の世の中でこういうことをいうと誤解を受けるのですけれども、国の力に頼ってもいいし、ある県の力に頼っても、民間の力に頼ってもいいのですけれども、そういうビジョンの中の特出する部分、特化する部分の形を、いち早くつくり上げてしまうことですね。たとえば、いま中部の国際空港の話が出ていますけれども、少し無理をしてでもいいからつくってしまうことですね。つくり上げると、ああ、いいものができた、そうかということで、初めてわかるのです。こういうことをいうと、ちょっとおかしいじゃないかというけれども、これをうまくやっていけば、いまビジョン論争が不毛に終わっているのが、少し形をきちんと持ってくると思います。

最終的に申し上げたいのは、私はこの中部に大いに希望を持っています。大いに持っているからこそ、何とかこれを実現していきたい。実現するための第一歩を、どこかで踏み出していただきたいという気がします。

外山　「中部あすなろ論」というのがありまして、あした、ヒノキになろうといって過ぎてきたという話があります。いま時代に乗り遅れますと、また相当の間あすなろうといわざるを得ない。

私どもは、いま努力をしなければだめだという認識は当然持っています。ビジョンづくりがいろいろ出てくるように、そういうムードは盛り上がってきています。将来、もうひとつの非常に有望なことというのは、われわれの価値観の変化ですね。そのときには都市とか住環境、これがわれわれが選択する最大のものになると思います。ですから私どものビジョンでも、まず産業発展だと書いてありますけれども、本当は世界に誇れる都市的な圏域をつくるのだと。そうすれば産業も発展しますし、かつては産業が都市をつくりましたけれども、これからは都市が産業を育てる時代に入る。人の方も住みやすい場所へ必ず集まっている。そういう地域に持っていこうと。そうすれば資質、気候、風土ということで、前途は非常に洋々である。伊勢湾という資産を、まず有効に使おうじゃないか。伊勢湾の中には新国際空港を配置するとか、世界的な流通加工基地を入れる。そうしますと、この中部というのは、東京型でない、非常に特色ある地域になり得るという自信は持っています。これから10年間ぐらい、必死になって努力すれば、これはまさに世界に誇り得る場所になるであろうというのが、私どものビジョンです。


中島（なかじま）　一（はじむ）氏

中島　確かに、おっしゃるとおり、東京型の町づくり、地域開発、大阪型のそれというものは、それぞれはっきりした個性を持っている。しかし中部は、自然環境がよろしい。また適当な都市施設もありますし、産業発展の道もつくられてきています。

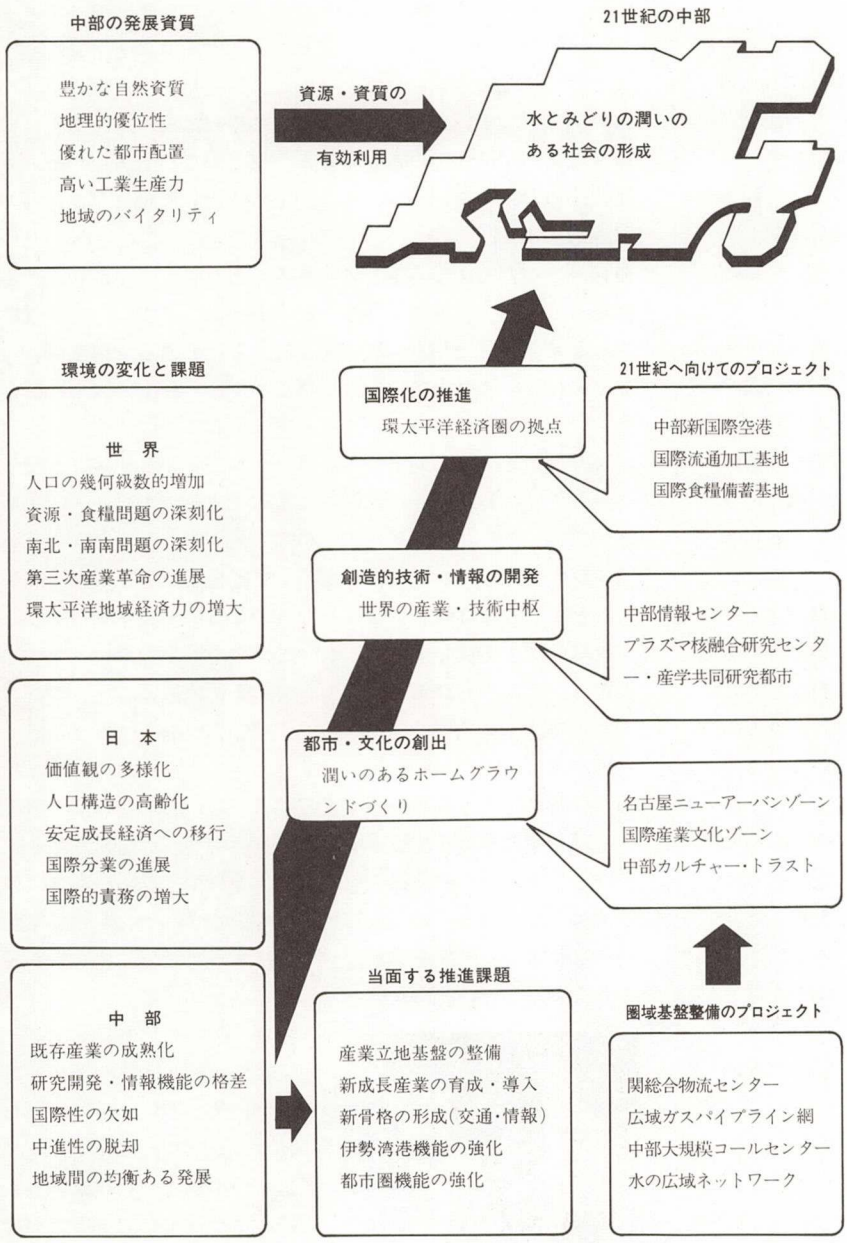
たとえば、ロボットというのは、この名古屋が日本で最高ですね。そんないままでの歴史的経過をみますと、それこそ本当に前途洋々たる、これこそこの地域で人間生活ができる場であるのではないかと思います。ただひとつ欠落しているのは、そういった意識を高めていこうというところということですね。

長時間ありがとうございました。

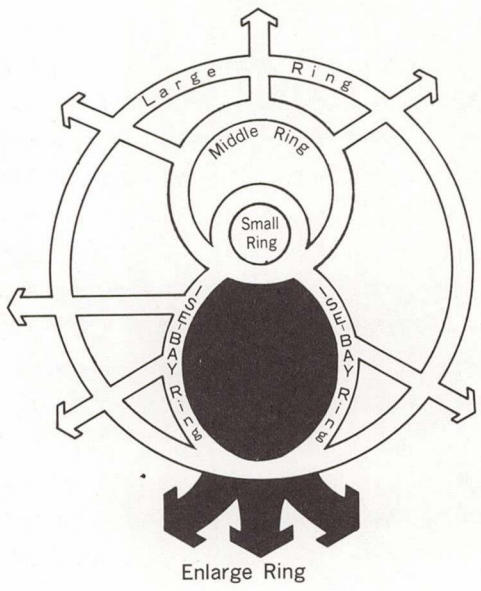
と　き　1983年６月16日
ところ　ロイヤルホテル弁天閣(名古屋)

「21世紀の中部ビジョン」にみる東海四県の将来像

21世紀への発展フロー



RR－21C構想のイメージ



RR－21C構想の骨格

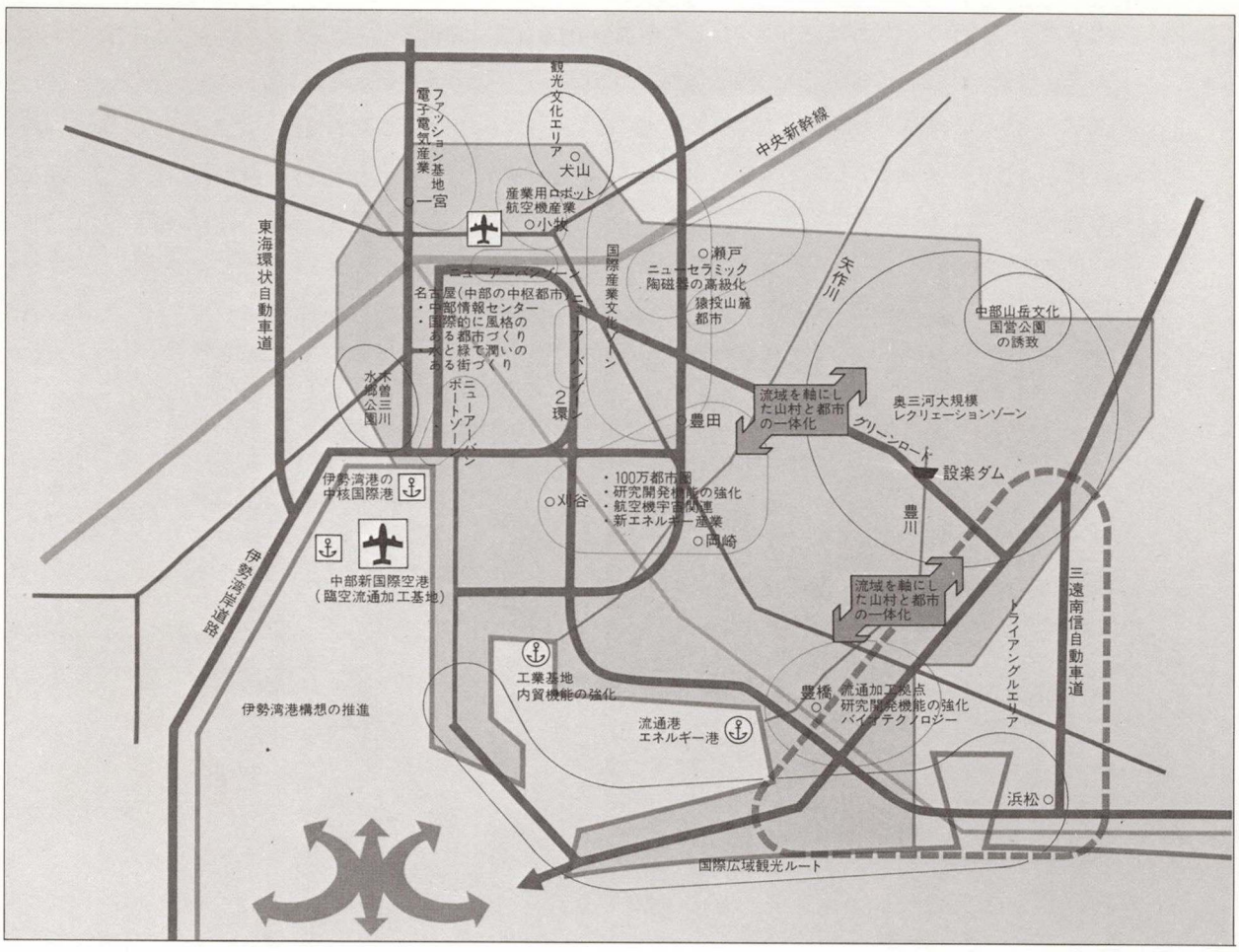
R→Ring（環状に）

- Small Ring ……名古屋市・環状2号線地域……情報・技術・学術・研究等の中枢管理機能の集積を高め、既存産業の高度化と相まって機能を純化する。
- Middle Ring ……東海環状自動車道に並ぶ都市群……開発余力が大きく、中部内陸における産業配置の新しい軸線を形成する。
- SMILE（ほほえみ）
  - ISE-BAY Ring …中部新国際空港をはじめ、新しい国際機能と施設の配置によって、世界との流通加工の拠点化を推進する。
  - Large Ring ……中部山岳・伊勢志摩等の観光・レクリエーション地域を結び、やすらぎと人間性回復の場とすると同時に、広域環状国際観光地帯を形成する。
  - Enlarge Ring……21世紀中部が空と海から東南アジア経済圏・環太平洋経済圏など世界化時代に対応した広域活動を展開するゾーン。

R－Radial（放射状に）……東三河・西遠・駿河・伊豆→東京圏、東濃・中南信・北信→日本海、中南勢・伊賀→阪神圏、中濃・飛騨→北陸、松阪・尾鷲・熊野→新宮へと放射状に産業配置・都市圏形成を推進する。

中部の経済団体「中部経済連合会」から、「21世紀の中部ビジョン」と題して、明日の中部のあるべき発展の姿を448頁の論文として、昭和57年4月5日出版された。内容は、世界および日本の経済・社会の展望を踏まえ、「産業・情報・交通・物流・エネルギー・水資源・水とみどりの調和・文化」の多角的な観点から、21世紀の中部の発展すべき方向を策定し、数多くのプロジェクトを提言している。

前の座談会の説明資料としてだけでなく、東海の将来像を考えたとき、きわめて興味深い内容であるので、その一部を紹介することにする。（日本建築協会東海支部）



愛知

名古屋　名古屋は、名古屋都市圏をはじめ中部の中核として、産業・経済・情報・文化・国際化等の都市機能の集積を高め、わが国における一大中枢都市とする。

このため「中部情報センター」の設立や、大学、試験研究機関等の強化・拡充を図る。

中部がもつ世界的レベルでの産業・技術集積を生かした国際技術協力を進め、また文化・スポーツ等の幅広い国際交流を行い、その一環として博覧会・見本市・芸術祭・スポーツ大会等の国際行事の定期開催を図るなど、国際的に風格のある都市とする。

名古屋を文化の香りが高く、美しい都市景観をもった個性ある都市に変貌させるため、庄内川、堀川等の河川浄化や、緑道・緑地・公園の整備を進める。そしてこれらオープンスペースの確保により、災害に強い都市づくりを図る。また、徳川美術館などの文化遺産の整備、発掘をはじめ、文化シンボルの創造を官民一体で進める。

都市周辺部には、都心地域の高次都市機能を計画的に分散配置させ、「ニューアーバンゾーン」を形成する。

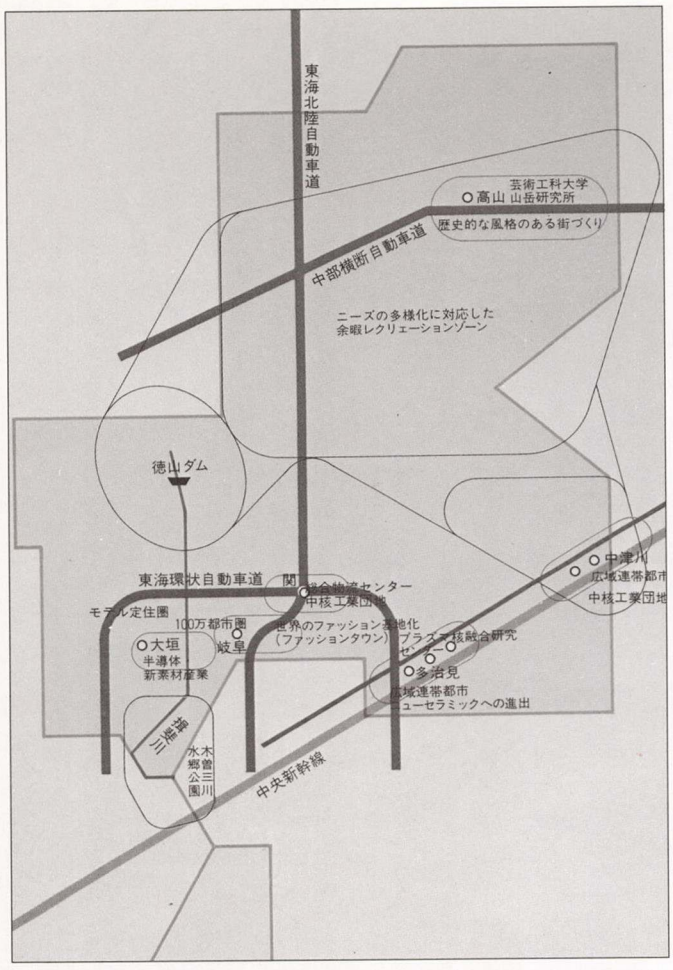
尾張地域　名古屋の外縁地域として、もっとも人口、産業の集積が高く都市化の進行が著しい当地域は、交通・住宅・防災等都市基盤の整備を進めるなかに、自然と都市とがバランスよく共存した魅力ある地域づくりを図る。

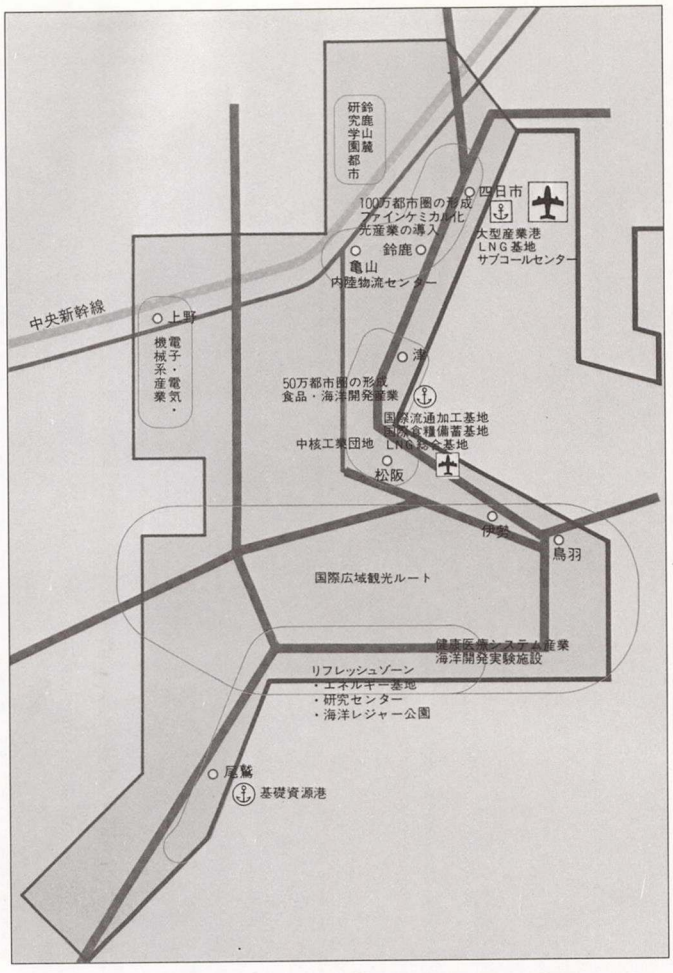
大都市近郊のレクリエーションゾーンとして、木曽三川水郷公園の整備や、犬山周辺の観光施設のネットワーク化による「観光・文化エリア」の形成を進める。

西三河地域　急速な工業化と都市化が進んでいる当地域は、矢作川を軸として都市地域と山村地域の一体化を図るとともに、豊田を中核に 100万都市圏の形成を図るため、各都市の密接な連携関係を築き、都市機能の集積を高める。猿投山麓地区には、自然と都市、学園、産業が一体的に共存する21世紀的な実験都市を形成する。

また当地域は、尾張地域とともに、産業と文化・国際化・レクリエーション機能が一体となった「国際産業文化ゾーン」の形成を図る。

東三河地域　発展ポテンシャルの高い当地域は、三河港の国際化、流通機能の強化を図り、流通加工基地、ＬＮＧ基地等を建設するとともに、輸送用機械、機械系加工組立型産業の育成や、バイオテクノロジー（食品）産業等先端産業の導入を図る。豊川流域圏の一体感に基づく、山村地域と都市地域の調和のとれた発展を目指す一方、交通基盤の整備を通じ、遠州・南信地域との広域連携を図り、「トライアングルエリア」を形成する。





岐阜

大垣地域　当地域は、南北に長い圏域の一体化を進め、徳山ダムを中心に観光地の魅力づけを行うなど山間地域の振興を図る。都市地域は岐阜との均衡ある連携のもとに都市基盤を充実し、既存産業の高付加価値化や、半導体産業など先端産業の導入を進める。

岐阜・中濃・加茂地域　岐阜は 100万都市圏の中核として、交通・生活・文化等都市機能の充実を図るとともに「ファッションタウン」、「ファッションセンター」を形成し、世界のファッション情報のメッカとする。

関・美濃加茂地区には、交通の要衝という利点を生かし「総合物流センター」を建設する。

東濃地域　多治見・土岐・瑞浪の３市と中津川・恵那の２市は、産業経済活動、都市基盤の整備において密接な連携関係を築き、「広域連帯都市」を形成する。

土岐を中心とした地域には、「プラズマ核融合研究センター」を核に、産学共同の学園都市を建設する。

飛騨・郡上・益田地域　当地域は、古い歴史と伝統文化、恵まれた自然環境を生かし、歴史的な風格のある街づくりを進め、国際広域観光ルートの拠点としての魅力づくりを行う。また研究開発機能の強化のため、「芸術工科大学」や「山岳研究所」の設立を進める。

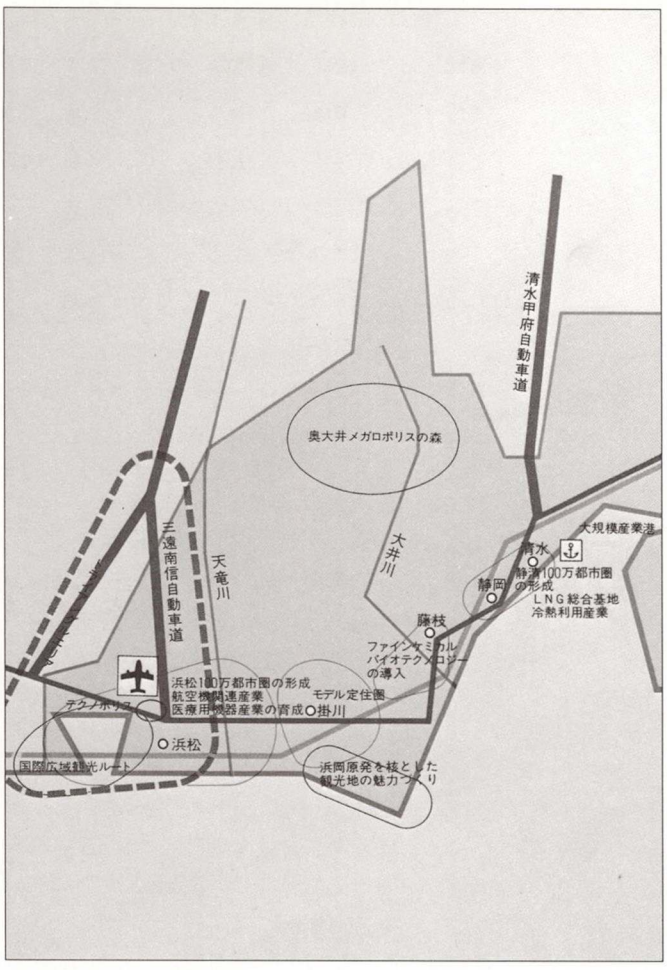
三重

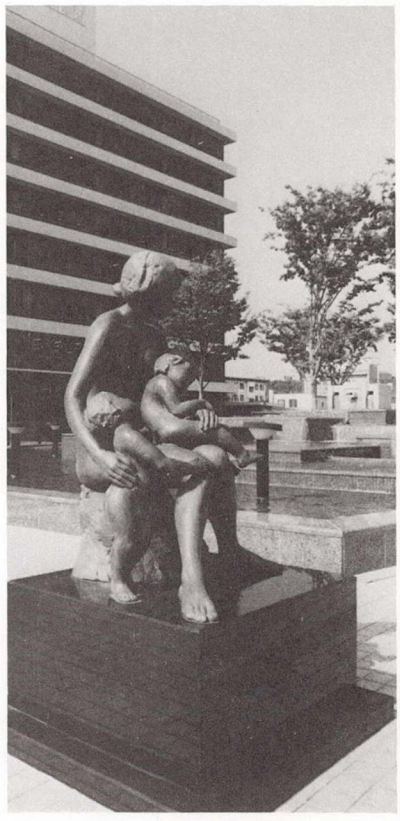
北勢地域　戦後急速に工業化が進んだ当地域は、四日市・鈴鹿・桑名・亀山の各都市の広域連携を図り、都市機能の集積を高め、100 万都市圏を目指した魅力ある地域づくりを進める。工業は、四日市港の機能強化を進めるとともに、石油化学工業の原料転換、ファインケミカル化など産業構造の転換を図る。さらに先端産業の基礎となる研究開発機能を強化するため、鈴鹿山麓地区に産学共同の学園都市を建設する。

中南勢・伊賀地域　発展ポテンシャルの高い当地域は、広域基幹交通体系の充実と相まって、中部および関西との密接な連携関係を築く。

中部の国際化時代の先端基地として、津・松阪臨海部に、「国際食糧備蓄基地」、「国際流通加工基地」を建設する。また食品関連、海洋開発、電気機器等新規産業の導入により、定住地域としての魅力づくりを行う。

伊勢志摩・東紀州地域　当地域は、広域基幹交通体系の充実により、他圏域との時間距離を縮め、三重県北部との格差是正を図る。熊野灘沿岸地域には、エネルギー基地、研究センター、海洋レジャー公園等を誘導し、「リフレッシュゾーン」の形成を図り、地域産業の振興、観光レクリエーション基地としての魅力づくりを進める。





静岡

駿河地域　静岡・清水両市は広域連携を図り、政治・経済・情報・文化・国際等の都市機能の集積を高め、100 万都市圏の形成を図る。清水港は、大型産業港としての港湾機能の強化を進めるとともに、ＬＮＧ総合基地を建設し、冷熱利用産業の育成を図る。また交通基盤の整備を通じ、山梨県との連携を強化する。

藤枝・島田地区は、ファインケミカル、バイオテクノロジー産業の導入を進める。奥大井地区は「メガロポリスの森」を形成し、山間地域としての観光地の魅力づくりを図る。

遠州地域　当地域は、浜松市が中核となり、周辺諸都市が一体となって都市機能の集積を高めることにより、100 万都市圏を形成する。さらに、交通基盤の充実と相まって、東三河・南信地域との産業・生活・文化にわたる広域連携を図ることにより、「トライアングルエリア」を形成する。

産業は、既存産業の集積を高める一方、航空機・医療用機器分野への積極的な進出を図る。さらに浜松近郊に空港を誘致し、「テクノポリス」の建設を実現させる。

掛川を中心とした地域は、積極的な産業振興と、浜岡原子力発電所・御前崎周辺の観光地づくりを進め、定住地域としての魅力づくりを図る。

したたかな愛知

浅井峒一

江戸と名古屋

徳川家康が江戸に幕府を開いたのは、慶長8（1603）年。それから6年した慶長14（1609）年に、いわゆる〝清洲越し〟の大号令を発して名古屋開府を敢行したのも、その徳川家康であった。それまでは武蔵の江戸も尾張の名古屋も、ともにまだ草深い未開の荒野に過ぎなかった。

家康のこれらの意思決定に、大きく影響を与えた人物を，おらが太閤豊臣秀吉とする一説がある。してみるとこんにちの世界的大都市TokyoとNagoyaを誕生させたのは、詮ずるところ、愛知県の生んだ秀吉・家康の両雄ということになる。

小田原の役も終わった天正18（1590）年、豊臣秀吉は、家康を徳川の旧地、駿・遠・参・甲・信の5か国から、滅亡した北条氏の旧領を含む関八州へ移封し、江戸に居城を構えることを勧告している。これは東海における家康の根強い勢力を駆逐して関東の地に封じ込め、かつは東北の番犬たらしめようとする秀吉の遠謀と読めるだけに、家康の心中はおだやかならぬものがあった。しかし何事も長い物には巻かれる主義の家康は、じっと我慢して敢えて苦情を持ち出さなかったという。

かくて関八州を得た家康は、北条氏の故地小田原か、あるいは武家政治発祥の地鎌倉を居城とするであろうとの大方の予想に反して、当時まだ荒蕪の辺地に過ぎぬ江戸を本拠に選んだ。自らも現地におもむき、十分に諸条件を熟慮した上、江戸を領国経営の拠点とする決断をしたとあるが、関八州への移封そのものが家康の本旨に添わなかったばかりか、秀吉の勧告もあったことなど考えあわせると、江戸を選んだのは100％家康の自由意思とは言い切れぬものがある。

それにくらべれば、第9子義直のために名古屋開府を断行したのは、はるかに家康自らの発意に基づくところが多かった。わずかに、まだ大阪城に拠る豊臣家を意識して、木曽川を境に関西へのにらみをきかす意図があり、その限りで秀吉の影響があったとはいうものの、おのが居城を江戸に卜したときほど、土地の選定に制約を受けていないはずである。

慎重にして長期の先見性に豊んだといわれる徳川家康が、すでにことの決した江戸に次いで、最も重要な地点として選び出したのが尾張の名古屋である。名古屋を中心とする愛知のこの地域は、400年まえすでに、東京に次いで——いや、東京と並んで将来に枢要な地点であったということができる。

大いなる田舎

名古屋を評して〝大いなる田舎〟とは、これまでしばしばいわれてきたところである。また最近名古屋に住みついたある外国の婦人は、〝文化・現代社会・自然がうまく調和した都市〟と、別なコトバで表現していた。いずれも名古屋の一面をとらえた批評であるが、これはそのまま愛知の郷土全体についてもいえることかも知れない。総じて田舎の人は都会にあこがれ、都会人は田舎に強い郷愁を感じている。その〝田舎〟と〝都会〟とが共存する地域がありとすれば、こんな素晴らしいところはないはずである。〝都会〟に偏せず〝田舎〟にとどまらぬところを〝大いなる田舎〟と呼んだとすると、これは歯の浮くようなお世辞ではないまでも、少なくとも貶称とはいわれまい。将来に対する大きな発展の可能性を秘め、しかも人工的に作られすぎた、病的な都市化に毒されていない近代都市が名古屋だと褒めているようなものだからである。

「江戸は自然に発達したる都府と言わんよりは、むしろ徳川氏の威力をもって製造した都府だ。商業上の都府と言わんよりは、政治上の都府だ。即ち江戸は、徳川幕府中央集権の産物であり結果であり、またその雛形である」と、昭和の初期すでに、徳富蘇峰はその著〝近世日本国民史〟の中で、江戸が完全に人工の都市であることを喝破していた。こんにちの東京が、その江戸をそのまま増長させたものであることはいうまでもない。幸いそのむかし徳川家康が造営したもう一つの都市名古屋は、東京とは全く異なった発展過程を経て、こんにちの姿に育ってきた。

愛知の時代

県土面積5,132平方粁余、人口632万余人を擁する愛知県は、いま、工業出荷額日本一の記録を保持する全国有数の工業県であり、しかも都市近郊型の代表的な農業県であることも誇りとしている。工業県でありながら、わが国四大工業地帯の一に数えられる中京工業地帯は、戦前から他の三大工業地帯とはひとあじ違った発展の過程をたどってきた。すなわち製鉄や石油精製中心の重化学コンビナートとはいささか趣を異にし、繊維・食品・陶磁器等地場産業の軽工業部門、さらには付加価値の高い機械・輸送機器・電機等、早くから産業構造の高度化をねらってきている。そして時代はいまや、わが国工業の第一期高度成長期から、第二期新産業構造への転換に向かって動きつつある。その中核となるのは、恐らくエレクトロニクス・メガトロニクス・バイオテクノロジー・ニューセラミックなど高度の知識集約化による先端技術の開発ということになろう。幸いこの地域には、工業先進県として、その面での資本や技術の、底辺の広い蓄積と素地とがあった。

加えて愛知県は、他の都市圏にくらべて県域全体に自然の姿を残すゆとりある空間（県土の45％がまだ森林）が存在している。また堅実で勤勉な県民性は、何物にも代え難い郷土の宝であった。自然条件と県民性とが、工業県にしてなおかつ全国第5位の農業生産額を確保させている。〝大いなる田舎〟でないと発揮できない産業体質の素晴らしさではないか。いよいよ〝大いなる田舎〟がものいう時代になってきた。

（あさい　しゅんいち　名古屋市博物館長）

愛知県のいまとむかし——名古屋を中心として——

久住典夫

むかし

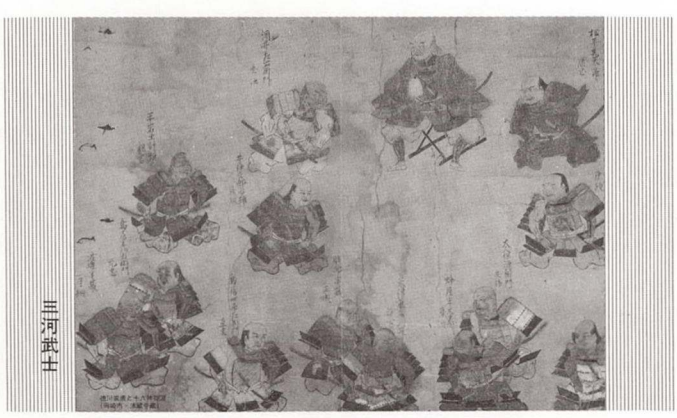
テレビの大河ドラマのせいか「家康ブーム」が続いている。その前には「秀吉とその妻ねね」を主人公にしたドラマが人気を呼んだ。これに信長を加えるとまさに戦国乱世を生き抜き国内統一を果たした三英傑が、くしくも愛知県から出ていることに気づかれよう。

愛知県は明治維新後、尾張と三河の二国が一つとなって成立したものである。しかし、この二国は維新に至る300年間、全く異なった推移をたどっている。三河は家康旗上げ前後から、東の今川、西の織田の両勢力圏に組み込まれ、江戸幕府成立後は、徳川家の親藩・譜代・旗本領とたくみに分割され、その上あいつぐ国替をへてきている。藩主とその家臣団、それを取りまく商人・職人集団を含め、国替はいまでいえば小さな民族の移動である。残された領民は苛酷な収奪に耐えねばならず、それだけにかたくなな性格を強いられてきた。大久保彦左衛門の『三河物語』にあるように、三河武士の一徹さ、頑固さに象徴されるような県民性を三河人はもっている。

一方、尾州藩とその居城名古屋城は、徳川家康がつくったものである。家康は関ヶ原戦後、大阪方に対する前線基地としてのねらいから、九男義直を清洲からこの那古野の地に移し、西国大名に命じて名古屋城築城に着手している。尾州藩は尾張一国支配に加え、のち木曽谷を含めて表高62万石余、実質は100万石の大々名であった。しかも一回の国替もなく明治維新をむかえている。

そのためか、徳川300年の治世で驚くことに尾州藩では百姓一揆は一度も起きていない。隣の三河では先述の国替もあり、徳川中期以降しばしば一揆の発生をみているのに比べ不思議な現象である。一般に五公五民といわれた年貢が、尾州藩ではときには三公七民という税率であったし、藩財政の苦しい折には将軍家からの貸付金の形で援助をあおいでいる。これらはみな民力をたくわえ、西国大名に対する配慮かとも考えられる。

もともと尾張の地は、濃尾平野の豊かな生産力と、伊勢湾をかかえた水運、加えて木曽谷の材木（木曽五木といわれた銘木）を持ち、他国に比べて恵まれた土地といえる。それだけに日本列島の中央に位置しながら、大地の豊かさなど自然条件に依存するだけで、幕末・維新の動乱期に京大阪と江戸にはさまれ、近代化への切りかえに乗りおくれたきらいがある。堅実にやっていけば生活できる土地柄が、新しい社会・新しい時代をむかえるに当たって、東西の勢力や大資本にむかって積極的に働きかける気迫が、尾張・名古屋の人々には欠けるものがあったといえる。


三河武士

いま

名古屋には、名古屋駅前から桜通り・錦通り・広小路通りと三本の大通りが東に伸びている。誰でも少し気をつけて歩いてみると、それぞれの通りの両側にある大きなビルは、ほとんどといってよいほど東京・大阪に本社をもつ大企業の支店の建物であることに気づかれる。なかでも銀行とか証券会社・生命保険といった金融機関の看板が目につく。わずかに地元に本社を持つ一、二の銀行を除いて。名古屋の一等地ともいうべきこれらビジネス街・繁華街は、このため夜になるとシャッターを降ろして暗い街になってしまう。

これは一体どういうことなのだろうか。明治維新を境にして、尾州藩の御用商人ともいうべき豪商には、古いのれんを守って商業資本としての発展の努力はみとめられるものの、新しい時代の産業資本としての脱皮に積極性が欠けていたためだろうか。

反面、名古屋は全国でも珍しく「武家の商法」が成功した土地といわれてきた。藩政時代下級士族の内職であった「三味線」なおしから、ヴァイオリン製造、さらにギター等弦楽器の製造。飾り職・巧(からく)り機械から柱時計さらに計器類の製造。瀬戸・多治見の陶磁器の素材にほどこす上絵付から発達した洋食器など輸出陶磁器の製造。これらは明治・大正・昭和と受けつがれ、高度経済発達以前、名古屋の工業生産の上位を占めるものであった。名古屋港の輸出品は陶磁器など上記の工業製品がトップであったし、木曽の木材資源から発した製材業は、輸入材とあいまって「ベニヤ板」など合板製造を生み、この地方の特産品ともなっていた。やがて昭和30年代後半から40年代を境に、製鉄業を基幹としてこの地方は自動車産業のメッカとなり、機械製造の面でもロボット機械の先端をリードしている。

このような産業界の変貌は、一体何によっておこってきたのだろうか。それは、この地方がむかしもいまも変わらない豊かな自然条件、とりわけ濃尾平野という恵まれた大地を持ち、名古屋を中心として周辺地域は工業用地として発展する可能性を持っていることによる。さらに木曽三川の豊かな水量は水力発電・飲料水としての利用に加えて、工業用水としての活用の余地を残している。とりわけ列島の中央に位置する地理的好条件は、他地域と比べものにならないものがある。

以上のようにみてくると、名古屋を中心とするこの地域は、陶磁器産業から発達したニューセラミック、おくれている電子産業の開発と、未来に可能性を持ったところといえる。一人当たり貯蓄率日本一という保守的でお堅い土地柄の上に、ぜひ先端産業の華を咲かせたいものである。

（くずみ　のりお　名古屋市博物館副館長）

座談会・2

東海の文化を語る

出席者（敬称略・五十音順）

寺光彦／名古屋造形芸術短期大学学長

三水弘／彫刻家

水野宏／名古屋大学名誉教授

司会

中島一／愛知工業大学教授・日本建築協会東海支部長

名古屋は芸どころ

中島　東海というのは、たとえば弥生時代をみますと、静岡の弥生時代の登呂遺跡にみられる竪穴式住居があります。ああいうものをみますと、東海地方というのは、弥生時代からすばらしい環境の中で生活してきたと思うのです。とにかく人間が住むこの中部地方は、北部背後の山から水が流れてきて、肥沃な平野をつくってきましたし、大きな河川は海へと注ぎ、そこには海産物がたくさん得られてきた。この地方は、よその地方より人間が住むのに適した地域であったと思います。

最近、ＮＨＫの大河ドラマの徳川家康ブームが出ていまして、また再び戦国時代を思い出させまして、あの当時の姿をわれわれはテレビを通して知ることができるのですが、ある人は、、東海に文化はあるのかといわれます。実は身近にそういうものはあるのだけれども、なかなかそれを見出すことができにくいような何かがあるような気がしてならないのです。衣生活、食生活、住生活をみても、すべて文化の中に脈々と発展してきたと思うのです。

まず水野先生から、東海に文化というのはあるのかどうかということから……。

水野　どの地域にも、それぞれ生活に密着した文化はあるんでしょうけれども……。今日の時点で文化という場合に、日本古来の生活の中で育ってきた文化と、最近の西欧諸国から入ってきた文化と一緒になって文化の質が問われるということなので、そういう観点から、東京、大阪、京都などに比べて文化の程度がどうであろうかが、問われていると思うのです。

名古屋は昔から芸どころといわれています。地味ではあるが、広く浸透した生活文化はあると思います。目が肥えていたということもあるでしょう。しかし、単なる伝承ではなくて、文化を生み出す力ということになると、問題ではないでしょうか。

中島　確かに名古屋は昔から芸どころといわれますが、あの芸どころというのはどういう意味なんでしょうか。

寺　どうなんでしょう。いろいろ使われ方があるようですけれども、ここで芸どころという言葉を聞いたとき、何か手習いをするたぐいの、そういう分野の中での芸というものが非常に浸透している。芸を育てるとか、そこから創造的なものへのつながりというよりは、とにかく形式をまず先に考えていくというような、そういうところからあまり発展してなかったのじゃないかというふうに受けとめていたのです。しかし、育てていく土壌は十分にあったのだと思うのです。

私事になりますけれども、私は金沢で育ったのですが、北陸という風土の中で育った人間が東海へ来ますと、豊かさというものが、まず気候の上からもわかるわけです。そうしますと、その豊かさというのは、こういう芸どころをはぐくむ土壌であると考える。要するに、感性的にみると、豊かさというのは、逆に創造的な展開がしにくい面を持っているかもしれないという気がするんですね。

たとえば、豊かさというのは、時にはプリズムのようにひとつの芸ごとが増幅しない。要するに、先ほどの創造性がないということと一緒で、そこから反響して、反響することによってふたたび増幅していくというような、そういうつながりがどうも生まれにくいのじゃないか。むしろ、そこであったものはその場で済まされていく。そこから何か新しくもうひとつずつ積み上げていくというところの必要性を感じる必要がないというか、そういう安定感を感じます。

中島　確かに自然的な環境には、東海は非常に恵まれています。そういう豊かさがあればこそ、それを乗り越えていく必要性が実はなかったのじゃないかという気がしてならないわけです。

もうひとつは、江戸期以降、京都、大阪の上方と江戸とのはざまに囲まれたこの地方の地域的な位置づけもあったんでしょうね。その点、三水さん、彫刻などは何か顕著なものがあるような気がするんですけれども。

三水　最近では、少しずつそういう面も育ち出したという感じはするのですが、いままでの状況をみてみますと、結局東京と関西、この２つの谷間に入っていますね。いろいろな大きな展覧会というのもそういうところで行われていて、名古屋地方で行われない。同時に大きな企画はなかなか持たれないですね。それを考えてみると、先ほど来から話題にされている芸どころというところが非常に大き

な枠になっていて、その芸どころというのは、どちらかといえば家襲制度と相通ずるような部分があると思うのです。家を守るとか、そういう固さがあるためにそれをそれ以上に育てようとしないような感じが多分にするのです。だから、非常に冒険的な企画というものがどうしてもそこに生まれてこない。けれども、やはり作家は作家なりの試みをどこかでどんどんしていくことによって、刺激しあうということが大事じゃないかと思うんですね。

中島　文化が育つ土壌があるというようなお話もありましたけれども、試みに名古屋の人口の変遷を調べてみますと、何かの国家的な事件がありますと人口が増えるのです。たとえば上海事変だとか、あるいは太平洋戦争、その前の日露戦争なんかの時代は、急激に人口が増えているんです。その人口が増えた原因というのは、工場労働者というものが人口を増やしてきたわけですね。そうなりますと、名古屋というのは何か生産、しかもメカニズムを生み出すための場であるような気がしてならないのです。

もうひとつ、三河地方の土壌をみますと、とくに山手ですけれども、畑をつくりましても生産物のいいのが出てこないし、生産高が少ない。何をやったかといいますと、綿を植えまして、綿を育て、やがてそれから綿を紡いで木綿の糸にする。そういうことをやってきました。その中から衣類の文化というものが発達しただろうと思いますけれども、それがそこでとどまってしまって、どうすれば能率よく糸が紡げるかという方に発展していきました。そうして自動織機ができた。自動織機ができてくると、そのノウハウをつぎは自動車生産へと発展させてきた。何かひとつひとつの文化というのは、単発的に出現したというのがこの地方の特色かも知れません。この辺の地方性、もちろん土壌を含めてですが、何か特質性がこの辺に充満しているのではないでしょうか。

水野　日本の歴史的現実の中でどんな条件が文化を刺激し、育成してきたかを考えてみないといけないと思います。

重要なものが7つはあると思うんですが、そのひとつに、首都であったかどうか。幕府の所在地も含めた方がいいでしょう。中央政府の所在地は、政治の中心であるだけでなくて、文化人、文化財、ものをつくり出す人材も集めてしまいます。文化の中心になるわけですよ。国内からだけでなく、異国人も異国の文化を持ちこんで文化ショックをひき起こす。

したがって、ある時期に中央政府があったところは文化が集中し、異質の文化がせめぎあって新しい文化を生み、蓄積される。それがいまに至るまで残っている。ところが、東海地方では中央政府があったことがないわけですよ。これは文化の落差に大きく影響していると思うんですね。

東海の文化の流れ

中島　東海地方というのは、東海道五十三次という東海道があり、これは京都とか江戸とつないでおりました。中仙道というのもありました。ですから、多分に文化を享受する場ではあったわけですね。たとえば、イタリアのフィレンツェ。確かにいろいをな時代の変遷がありましたけれども、ローマというのは一応中心であったわけです。それから離れたところにフィレンツェがあって、ここにすばらしい文化の花が咲いた。ちょうど東海地方に対する京都、江戸。中間にある東海とフィレンツェというのは、よく似た場であるような気がするのです。

しかし、フィレンツェの場合は、メジッチ家という非常な金持ちがおったということです。東海地方にはメジッチ家に該当する者がいなかった。きわめて裕福な地勢を持っているこの場所だから、そこまであくせくする必要はなかったという判断をしているのですけれども。それが何か災いをしているのでしょうか。


水野宏氏（みずのひろし）

水野　金沢と名古屋という話が先ほど出ましたけれども、金沢の藩主は名古屋の藩主に比べて、文化的な面でも大きな指導力を発揮したということがありはしませんか。首都というのはひとつの条件で、首都以外のところにもそういう強力な芸術の理解者というか保護者があるところでは、文化は育っている。この地方では、有力者が他から入った文化を独占的に享受するだけで、これを普及させようとか、独自のものを育てようとする指導性のある人に欠けていたということもありますね。

中島　前田公の場合は、多分にひた隠しに、力を外に向けないで、自分のところのテリトリーの中で静かに潜在的なエネルギーを養おうという精神がありましたね。

寺　そうですね。そういう意図的な面というのは、一般的に通用している考え方であると思いますが、ただ私はもうひとつ、それに加えて申し上げれば、それは、この地域の土壌といいますか、風土的なものの中で育つ職人かたぎのことですが、この地方でも恐らく文化の川としては、かなりの大河であった、しかも、東海道、中仙道と、どちらから来てもかなりの流れを持っていた。そういう量的な面の刺激は十分にあったように思うのですけれども、そういう刺激を増幅するというところで別の形をとってきた。

先ほどもおもしろい話が出ましたけれども、ものの生産という形については、歴史的にみて、かなり生産的能力が旺盛であったということがはっきりしてきたわけですね。そうすると、水野先生のお話のような、環境がよすぎても適度な刺激さえあればということなんですが、文化的な刺激はかなりあったと思いますけれども、風土に根づいて受け継がれたのは、ものを、繰り返したくさんつくるという能力があったということで、これは焼き物でも同じようなことがいえるのではないかと思います。かなりの量を生産しているわけですね。それから京や奈良あたりへ瓦をつくって船で運んだ量も、かなりなものだったようですが、生産性という面では伝統的なものがあるような気がします。

水野　焼き物が大量に生産されたのは良質の陶土に恵まれたためでしょう。

文化を刺激する条件の中で、外国に開かれた港、そして異国の文化が持ちこまれる、異国の技術者が住みつくということも、ある時代においては重要なのですが、東海地方では須恵器の大量生産の基盤があった。そこへ宋帰りの藤四郎が住みついて陶器を始めたという言い伝えがある。これは意味深いと思います。

須恵器だって祭器・仏器のほか、大部分は宮廷貴族用のものだったといいますが、陶器も、信長や古田織部正などが、政治の中心地にあって、瀬戸とか美濃に指示してつくらせる。すぐれた製品はすべて中央に集めてしまう。この地方は労働力を提供して中央の文化の成熟に貢献してはいるんですが、文化は常に中央にならうに止まっていると思われてならないんです。藩政時代の陶磁器生産だって江戸や京都や大阪好みを絶えずうかがうという状態だったようですよ。

三水　愛知県の東北にある小原村の話ですが、藤井達吉さんがあそこの中に入って、そういうものを育てましたね。問題はこれからだと思うのです。藤井達吉さんの代が終わりまして、それが一応下地をつくったわけですよ。ところが、この下地がどういう形でこれから発展していくか。これがちょうどいまの問題のところで、徐々にきっと同じような現象をたどるこわさみたいなものを感じるのです。これをどうやって増幅していくのか。

東海地方の持っている文化というのは、後ろには浸透していくんです。ところが、前に出て行きにくい。そこが大きなかぎになっていることですね。たとえば茶どころだなんていわれるような、ああいう家の中に浸透していくことはできるのです。ところが外に向かわせるエネルギーに変換できにくい部分があります。



寺光彦（てらみつひこ）氏

寺　私ども、少し感じることがこのごろあるのですが、中島先生ご専門の建築素材の問題といくらか関係があるのです。

小原の方々が、藤井さんのかなり個性的な刺激を受け、育て上げられた。それが現在の方々に受け継がれ、いま二世の時代に入りつつあります。

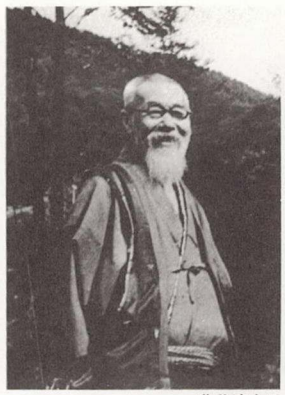
紙というものは、人間が新しくつくり出した素材の中ではこれほどすぐれた素材はないわけですが、中でも日本の紙というのは非常に特徴的といいますか、紙の本質を非常に大事に育てた素材じゃないかと思うのです。いま、少し新しいものに目を向けておられるようにみえますが、多少独断的な見方になるかもしれませんけれども、古いと思われているものの中にこそむしろ新しさがあるというような、…この辺は先ほど来お話の中で展開していることと少し矛盾するのではないかという気はしますが、そんなことを感じます。

どうもひとつの型ができると、そこから爆発させるような、殻を破ってつぎの段階へ進めていく活力に繋がっていかない。ひとつの形式が生まれると、その範囲の中での安住を感じますね。紙にももっと生活的なあるいは人間と触れ合う使われ方が、角度を変えてみてくれば、それこそ建築的なところでの結合といいますか、そういう世界が十分この中に存在している。それを掘り出すものを小原自身にもほしいんだけれど。

名古屋にみられるのは支店文化か

中島　私、よく旅行するのですが、鉄道の駅をおりまして、駅舎を背にして前に広がっている町並みをみますと、その町の顔をそっくりみたような感じがするのです。また、そこにその町の潜在的な文化を感じるわけです。

ある人が、名古屋は支店文化だといいました。町並みをみても、何かそんな建物がズラッと並んでいるという悪口をいう人もありますし、あるいはそれはある程度うがったことだなと思うときもありますね。いま水野先生がおっしゃったように、そういったものときわめて連動しているような気がするんですね。ですから、支店文化ならその支店の文化というものを、さらに支店独自のいいものを発揮させようとしないのかと、いささか疑問に思うのです。



藤井達吉氏



屏風扇面流し（部分）藤井達吉作



和紙のふるさと和紙展示館



和紙のふるさと和紙工芸館

小原村の美術和紙と「和紙のふるさと」

小原村は、愛知県豊田市の北東に位置した山村であるが、昔から和紙原料の楮（こうぞ）の成育に適し、古く室町時代から紙の村として知られた。

第二次大戦中、今は亡き藤井達吉氏が、小原和紙を再興すべく、地元の青年たちに手すき和紙の製法を指導し、さらに、現在の手すき和紙による美術工芸和紙へと発展させた。山内一生氏は、藤井達吉氏の直弟子として、現在、日展審査員として活躍中。

「和紙のふるさと」は、この優れた小原工芸和紙の良さを広く知ってもらうため、愛知県が昭和54～57年に建設したもので、和紙展示館、和紙工芸館、休憩所、見本園、遊歩道からなる、全国でも珍しい和紙の総合施設となっている。

この町というのは、生産が第一主義であって、その中に介在されなければならない文化というものを、ちょっと置き去りに、あるいはなおざりにしているのではないか。それはしかし、だれの責任なのかということについて疑問を常に持つのですが。

水野　文化の刺激条件のひとつとして、大学の役割は大きいものがあります。それとあわせてパトロンとして財界人がどういう役割を果たしているかということも無視できないと思います。戦前から東京にしても、大阪にしても、たとえば社会事業などは、大阪はとて



明治44年発足当時のメンバー



昭和８年、日比谷公会堂で演奏（写真は松坂屋提供）

松坂屋管弦楽団の歴史

松坂屋栄町開店の１年後、明治44年（1911年）３月７日の新聞広告にて12名の隊員を募集し、３月18日にはいとう呉服店少年音楽隊が誕生した。楽長は、海軍軍楽隊の沼泰三氏。隊員は５年契約であった。

少年達は、緑の地に黄色のえり、金ボタン、金モールをあしらった上着に、エビ茶色の半ズボン、上下ともビロードのナポレオン型といわれる斬新な服装で、子ども会、運動会、開店の社内行事に出演し、市民行事にも参加し、一般市民に親しまれた。ちなみに、このころ（大正４年）のわが国の音楽隊は、陸海軍、三越と松坂屋の４隊であった。

後に、指揮者は早川弥左衛門氏となり、松坂屋社長伊藤祐民氏の理解によって松坂屋交響楽団となり、メンバーも飛躍的に強化された。昭和10年３月、松坂屋シンフォニーと改称し、同年６月には声楽の原信子、矢追婦美子を加えて一行37名は約１ヵ月にわたり、満洲駐留日本軍の慰問に赴いている。そのほか、放送に演奏会に歌劇にその実力を示し、日本音楽文化に貴重な足跡を印した。

昭和13年、楽団を東京へ移し名称も中央交響楽団となったが、日華事変のころから各地の軍病院を慰問演奏した。昭和15年２月、日本ビクターに移譲。昭和16年、東京交響楽団に改称。間もなく東京都フィルハーモニー管弦楽団として再発足した。昭和22年改組して、東京フィルハーモニー交響楽団となって演奏活動が続けられている。

も積極的で、財界人がお金を出して育てているのです。文化事業もそうですね。名古屋は堅実だというのですけれども、一生懸命に働いてお金をしっかりとためるということで、それを社会へ還元するという意識は非常に乏しいのです。

その例外と考えていいのは、戦前の松坂屋管弦楽団です。最初は、松坂屋少年音楽隊。これを育てて、松坂屋管弦楽団というものにしたのですね。非常にいい働きをして市民に親しまれていたのですが、長く続かないで結局東京へ大部分行ってしまった。多分新響の中心メンバーになったと思いますけれども。

これは例外であって、一般的に名古屋の財界というのは、文化的な感覚も、それから社会に奉仕するという考え方も、まるっきりなかったといっていい。名古屋の指導者、名古屋を牛耳ってきたのが、高商、高工の卒業生です。戦前には、そのほかには医大、八高を別にしてそういう実利的な学校しかなかった。総合大学がなかった。文科系、芸術系の大学がなかったことの影響は大きいですよ。もちろん学生時代から文化活動を熱心にやってきた仲間もいますよ。でも数からいえばきわめて少なくてね。層がうすい。高工でも建築科のような文化にかかわり深いところを出た人はずっと実利主義の壁に悩まされてきたと思うんですよ。

中島　しかし、新聞なんかの催しの欄をみていますと、市民の小さいグループがいろいろなことをやっておられますね。

水野　このごろはだんだんとね。

中島　ああいう力といいますかエネルギーというのは、私は相当あるのじゃないかと思うのですが。

水野　ただ、それは戦後になってはじめて文科系の学部や大学ができ、また芸術系の大学もでき、リーダーもしだいに多くなってきた。そこで育った若者も出てきている。そういう中で文化的な雰囲気がだんだんと出てきている。これからということじゃないんですか。

東西の流れの中の文化



三水弘氏（みつみずひろし）

三水　その問題も、いまひとつは、東西の流れの刺激を少しは受けたと思うのです。問題はそこだと思うんです。刺激を受けたから、名古屋にようやくそういう芽ができますね。ところが、実際にそういう場が育っていないのです。たとえば試みる演芸場というものが、産声を上げたと思うと消えてしまう。結局、出てきた芽が十分育つだけの力が、周りにない。結局、流行性みたいな形で小さくは出るのです。それがつぎのものに向けての母体にはならなくて、単発的に出て、それが長い目で縦につながってつぎのものを育てていくという形になり切っていない部分が多分にある。

たとえば、江戸時代なら江戸時代、流行的な何かがあると必ず前を通過していきますから、当然それに影響を受ける人々が出ると思いますが、そこの中に独自なものを生み出していかない。これが長い間、蓄積の文化としていままで重なってきた状態だと思います。

寺　名古屋でいかにしてメジッチ家をつくり出すかとか、交響楽団を育てる百貨店を育てるかというような、そこら辺が待ち遠しいわけですね。

文化のかなめのところのひだといいますか、そういうところがまだできていなくて、いま小さなひだが、ようやく少しずつついてきている。名古屋はこれから、単に東西との接触というレベルではなくて、このごろ国際化の問題がよくいわれるわけですが、やはり国際的な触手といいますか、触れ合うような場面を数多く、いろいろな分野の中でつくり出していく必要性があると思います。

しかし、一般論でいうと、その辺の意欲がどうも必ずしも熱してい

ないわけですね。むしろ名古屋の特徴である地下街とかパチンコというイメージが、そのままのようなところがあって、内にこもる、地下にもぐるというか、実際面で外に向かってなんていったって、どうも話が浮いてしまうわけです。いままで育てられてきたもの、あるいはいくらか目を向けられた日本舞踊、いわゆる名古屋でいう芸どころ的なところから、芝居でいえば新しい分野の芝居も、バックアップが十分でない中でとにかく細々とやっておられる。あるいは画廊でいろいろな展覧会もありますけれども、名古屋に新しいうねりのようなものをもたらす試みも企画性もまだ足りないのです。百貨店レベルで、文化事業としてもたらされるような外国の、しかも歴史的な評価を受けてきた人たちの収集作品はみせてくれたりもする。ところが、いまのヨーロッパで、いまのパリで、あるいはいまのイタリーでというような、何か息づいたものをみる機会というのは、まだ十分ではないわけです。

それは特定の分野というのではなくて、美術の分野以外のほかのいろいろな分野にも共通していえるのではないかなと。

中島　いつでしたか、東京へモナリザが来ましたね。あれをみに行きましたが、長蛇の列で順番を待たなきゃいけない。写真を撮ってはいけない。相当な拘束の中でチラッとみたわけです。ルーブルですと、ノーフラッシュですけれども、写真は撮ってもいい。それも手は触れられませんけれども、とにかくすぐそこに無造作にぶら下がっているわけです。これはヨーロッパと日本の違いだろうと思いますが、日本はコレクターが後生大切に、自分の財産として独占するという財産形成の一環ですね。そういうものは公的なものであって、それから文化が発展するというものに持っていかなければならないと思いますが、これは東海地方独特の意識じゃなくて、日本人独特かもしれませんがね。

最後に一言ずつ、先生方の目からごらんになった名古屋の町並みについてお聞きしたいのですが、建築というのは、その時代の文化を具体的に象徴し、表現したものだといわれていますし、私もそうだと理解しているのです。ですから、われわれはそういったものをつくろうと一生懸命になっているわけですが、名古屋の建築文化というのをどのようにお感じでしょうか。

名古屋の建築文化

寺　悪口という意味ではないのですが、率直に感じたままを申し上げると、名古屋の建物というのは、先ほどの支店文化といくらか関係があるだろうというふうに思います。私はやはり表情がない、と。表情がないというのはおかしいかもしれませんが、建物の表情というのは、私なりに考えると設計以前のグレード。たとえば素材にも関係するのじゃないかと思うのですが、同じ素材を選ぶ。とにかくあらゆる部分に利用されるべき選択が、かなり厳しい中でものがつくられているのではないか。これはどうも本店文化ではなく、支店文化のしわ寄せであるといってしまえばそれまでなんですが。

町並みの形成といいますか、ハードな面での見方をすれば、建物というのは、あるスケールのものはセットバックする余裕が、都市の中の建物として必要なのではないかと思うのですが、そういう余裕がない。いわゆるぎりぎり、効率いっぱい。とにかくでこぼこは困る。あるいはピロティーのような遊ばせた空間はもったいないというような息苦しさ。そういうものを新しい建物の中でどんどん取り払っていけば、変わるのじゃないかという気はするのですが。そういう面では、まだそういうところに配慮したものが少ないという気がしますね。ちょっと言い過ぎかもしれませんが。

三水　私も確かにそういう点では、東京の町並みをみて、名古屋の場合には感じにくい部分が多いのです。名古屋をみていますと、景観というものはどういうものなのだろうかという疑問に陥るのです。そろっていることが景観なのか、そろわない方がむしろつぎの新しい都市空間をつくる要素になるのではないか。そうなると、思い切って飛び離れたようなものを、環境とかけ離れたものをここにひとつつくってみると、それによって周りの建物は必然的に刺激を受け伸びていくのではないかと思います。だから、突拍子もないものを名古屋の町に、だれかがひとつつくってくれないかなと、こんな感じがするのです。

しかし、よくよく考えてみると、果たしてそういうものが、中島先生のいわれた支店文化という実態の中で望めるかどうか、ちょっと疑問なんですけれども、全然関係のない、全く想像を絶するようなものをひとつだけでいいからつくってみたいなと。そういう勇気を持った建築家なり、オーナーなりがあらわれたら、きっと名古屋の町も大きく動いてくるのではないか。それは決して美術ばかりではなくて、あらゆる面でどこかに刺激材が必要だということの象徴にもなるような気がするのです。

水野　少し同情的な考え方をしてみますと、名古屋は第二次世界大戦ですっかり焼けてしまって、何もなくなってしまった。まずとにかく容れ物をそろえなくてはしようがないということもあったといえますね。そういう気風がずっと続いて、まだまだ魅力のある建物、すぐれた都市空間をつくるというところまで来ていない。

支店文化という話が出たのですけれども、名古屋の都市空間を本当に魅力あるものにするには、名古屋に拠点を持った人たちがイニシアチブをとって、建物をつくらなければならないし、すぐれた都市景観も育てていかなければならないと思います。けれども、名古屋の財界人、お金持ちは非常に実利的である、そしてまた、文化性に乏しい。そういうことが、やはりここにもあらわれてきているのではないかという気がしますね。

中島　先ほどからお話を拝聴していますと、この地方は文化創出をすることができる可能性のある地域であることは、過去の歴史をみても考えられるわけです。そうなりますと、これからの建築も、文化性豊かなものが大いに期待できるわけです。それを阻害するものがあるとすれば、いろいろな意味でそれの理解を求める努力をさらに積み重ねなければいけないと思います。これはひとり建築家だけではなくて、それを理解し、また応援してくれる人たちの最大の協力が必要ですし、一般市民の温かい支援が必要だと思います。


中島一氏（なかじまはじめ）

近々、名古屋は市制100周年を迎えるわけです。その辺のところから、さらに国際性豊かな名古屋をつくっていくような努力を、われわれ自身も考えないといけないと思います。ひとつ先生方も、ぜひご支援をいただきたいと思います。

きょうは、大変先生方にご無理を申しまして、お話を拝聴したわけですが、長時間どうもありがとうございました。

とき　1983年6月20日
ところ　ロイヤルホテル弁天閣（名古屋）

中部における地域の国際化

青山公三

1．いま、なぜ地域の国際化なのか

日本の社会はすでに外国との協調なしには維持できないという状況に置かれている。そうした意味では日本の各地域はすみずみまで国際化しているといっても過言ではない。

しかし、これまでの「国際化」は、国や企業による経済を中心とした交流が大部分で、そのことが各国との間にいわゆる「経済摩擦」というような問題を引き起こしてきたといえる。こうした問題は先進諸国ばかりではなく、むしろ発展途上国でも深刻な問題となっている。したがって日本は現在、国際的な孤立を避けるために多くの対応策をとらざるを得ない状況となっている。その対応策もこれまでのような経済一辺倒の考え方ではなく、人の交流を中心にして、生活、文化、考え方等まで含めたさまざまな分野での交流をすすめる必要性が認識されるようになってきた。

ところが、このような交流は、国ベースでの交流よりもむしろ、地域レベル、あるいはコミュニティレベル、個人レベルでの交流の方がより効果的であるし、国ではできないキメ細かさを持っている。このような意味で、「地域レベルでの国際化」の重要性が高まってきたといえよう。**表1**は、こうした動向を概念的に整理したものである。この表は、これまで経済一辺倒ですすめられてきたわが国の国際交流が、経済を起点にしながら徐々に文化面や生活面に展開しつつあることや、地域レベルでの国際交流が、文化交流などを中心に人的交流、あるいは生活交流へと広がりつつあることを示している。

表1　国際交流の種類と地域への展開

交流の種類＼地域レベル	国	地域ブロック 県、市町村	コミュニティ 家庭 個人	企業 組織
経済交流	◦援助 ◦技術協力 ◦資金協力 ◦貿易	◦海外貿易事務所		◦海外投資 ◦外資系企業の進出 ◦輸出入
人的交流	◦技術者派遣 ◦技術研修 ◦留学(出入)	◦技術研修 ◦青年派遣、婦人派遣 ◦技術者派遣 ◦留学(入)	◦留学(出) ◦海外旅行 ◦移住 ◦技術協力	◦技術者派遣 ◦技術研修
文化交流	◦イベント開催 ◦スポーツ交流 ◦学術交流	◦姉妹都市提携 ◦イベント開催 ◦スポーツ交流 ◦音楽会、展覧会	◦海外旅行 ◦イベント参加 ◦スポーツ見学 ◦音楽会、展覧会	◦イベント開催 ◦スポーツ交流 ◦音楽会、展覧会
生活交流		◦ホームステイ	◦文通 ◦ホームステイ ◦移住 ◦国際結婚	

※この表には国が中心となる政治的交流（外交）は含んでいない。

●……○……■－－□－→　黒いところは、その系統の中では最も活発に行われていると考えられる部分
白抜きのところは　〃　次に　〃　〃
矢印は今後の国際交流が展開されるべき方向

資料：「中部圏における地域社会の国際化」　S57．NIRA

わが国が真の国際化をはたすということは、表1の各マトリックスがさまざまな交流で埋まっていくことであろう。もちろん、それぞれのレベルによって役割分担があり、その内容、頻度、方法等は異なってくると考えられるが、このマトリックスを埋めることが今後の「国際化」を考えていくことではないだろうか。

結局、いま「地域社会の国際化」を考えるのは、この表でみるようにさまざまな交流が、とりわけ地域やコミュニティ、家庭、個人のレベルに広がることによって地域に有形、無形の交流の成果が積み重ねられていくことであるといえ、ひいてはそれが、日本の国際化に大きな役割をはたしていくことであろう。

2．中部では、地域レベルにおける国際交流が多面的な広がりをみせはじめている

中部における国際交流、および国際化の現状をまとめると、地域レベルにおける国際交流が多面的な広がりをみせはじめ、地域社会の国際化がすすめられつつある。その具体的な内容をデータ等によってみていくと、つぎの通りである。

①　中部各県において行われている国際交流の内容や経緯をみると（**表2、図1、2**）、自治体や民間において、かつては首長や議員などによる親善訪問等の形式的な文化交流が中心であったが、近年では技術研修や物産展、婦人や青年の海外派遣、交換学生（ホームスティなど）等、人的交流や生活交流、経済交流にまで交流が広がりをみせている。また、交流の主体も自治体から民間機関、首長や議員から青年、婦人などへ移行しつつある。これらの傾向は図や表でみるように、各県それぞれ歴史的背景、地理的条件等により個性を持っており、県ごとに多様な交流がすすめられているといえよう。

特色としては、北陸側の各県で大陸（韓国、ソ連）との交流が活発であるほか、静岡、愛知、岐阜の各県で若い人を中心にした人的交流、長野、静岡、滋賀の各県で姉妹都市提携を軸にした交流、富山、長野、岐阜、三重、滋賀などの移住者を中心とした交流があげられる。

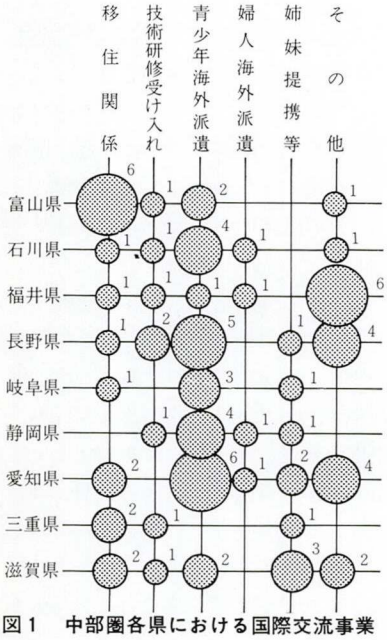
②　中部には、いくつかの研修機関があり、そこでは、中部圏のすぐれた蓄積（人材、農業、工業、水産業、地域開発等）を利用しながら研修が行われている。それらは多くの発展途上国から重要な研修対象として評価されている。このように、中部の各県は、発

表 2　中部圏における国際交流の経緯総括表

※表中年号は主な交流がはじめられた年　　資料：「中部圏における地域社会の国際化」S57．NIRA

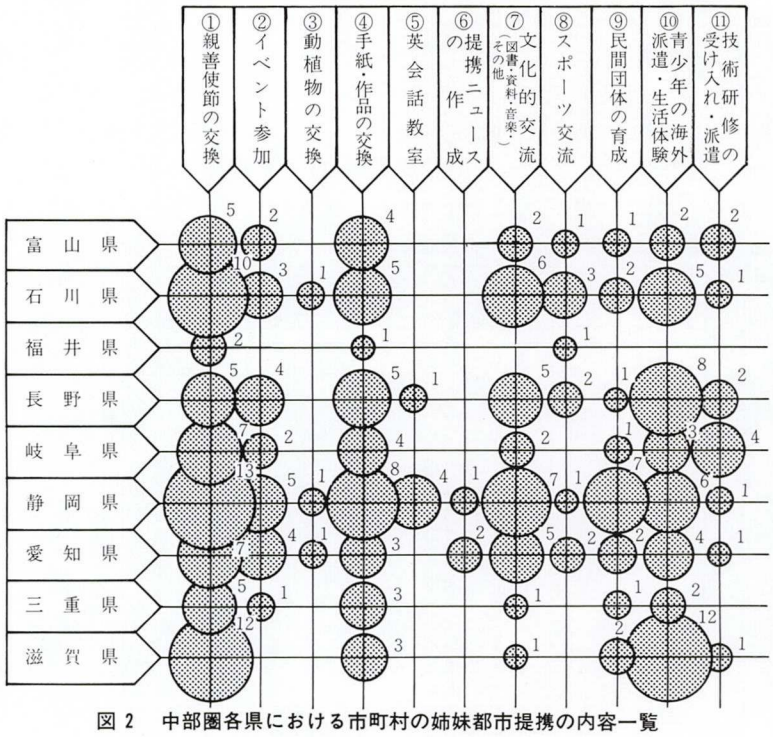
交流の種類 / 県名	①移住関係による国際交流（南米諸国との交流）	②姉妹都市提携による国際交流	③貿易および企業進出による国際交流	④青少年の国際交流	⑤民間団体等の国際交流	⑥ソ連との交流	⑦東アジア（中国、韓国）との交流	⑧その他の交流（国際機関による国際交流）	主要な交流がすすめられた年代
富山県	◎ 1971以降	△ 1970以降 5組	○ 1966以降（ソ連および企業進出）	△ 1971以降	△ 1981以降	○ 1966以降	△ 1981以降	－	1970年以降
石川県	△ 1972以降	◎ 1962以降 13組	○ 1967以降	△ 1972以降	◎ 1975以降	◎ 1967以降	○ 1975以降（中国、韓国）	－	1967年以降
福井県	△ 1976以降	△ 1977以降 2組	◎ 1957以降（ソ連、韓国）	○ 1971以降	◎ 1974以降	◎ 1957以降	○ 1969以降（韓国）	－	1968年以降
長野県	◎ 1964以降	◎ 1958以降 県1組を含め17組	◎ 1962以降（4ヵ所の海外事務所）	○ 1970以降	△ 1959以降	－	○ 1980以降（中国）	－	1958年以降
岐阜県	◎ 1959以降	○ 1960以降 10組	△ 1966以降	◎ 1967以降	△ 1972以降	－	○ 1979以降（中国）	－	1966年以降
静岡県	△	◎ 1957以降 15組	○ 1969以降（港湾貿易）	◎ 1965以降	○ 1967以降	－	○ 1980以降（中国）	－	1957年以降
愛知県	○ 1963以降	◎ 1959以降 県2組を含め14組	◎ 1960以降	◎ 1960以降	○ 1961以降	－	◎ 1974以降（中国）	◎ 1961以降	1959年以降
三重県	◎ 1968以降	△ 1963以降 県1組を含め7組	◎ 1968以降	△ 1971以降	△	△ 1972以降（ナホトカ航路）	○ 1972以降（韓国、中国）	－	1966年以降
滋賀県	◎ 1961以降	◎ 1959以降 県2組を含め16組	△ 1959以降	○ 1968以降	○ 1968以降	－	◎ 1978以降	－	1959年以降

交流の程度：◎かなり活発に行われている。　○まあまあ活発に行われている。　△多少は行われている。　－ほとんど行われていない。



◀図中数字は把握した範囲内での交流事業数
資料：「中部圏における地域社会の国際化」S．57.NIRA

図 1　中部圏各県における国際交流事業



▶数字は把握した範囲内での内容数
資料：「中部圏における地域社会の国際化」S．57.NIRA

図 2　中部圏各県における市町村の姉妹都市提携の内容一覧

展途上国の人材を受け入れ、研修するという重要な役割を担っており、とりわけ、アジア地域からの研修生の受け入れが多い。

③　中部から海外へ渡航した人は、昭和55年度で55万人であり、年々増加の一途をたどっている。過去10年間の増加動向は国全体で6.1%の伸びに対し、中部では7.3%の伸びを示し、より多くの人々が海外に出ていく機会を得ている。

一方、海外から中部を訪れた人は、年間で12万人であり、日本を訪れた人の 9.0%にしかすぎない。ただ近年、内容的には地域の蓄積を活かした産業観光などが注目されている。

④　中部全体で有識者3000人、一般県民1000人を対象にアンケート調査を実施した。調査結果によれば、有識者の52.2%、一般県民の25.7%の人々が海外渡航経験ありと答えており、個人個人の海外渡航の機会は③でもみたようにかなり多いといえる。

また、今後展開されるべき国際交流は、これまでの経済交流から、**図 3** でみるように、文化、スポーツ、学術交流、外国文化の教育、技術の輸出入など、多様な交流の展開が望まれている。

一方、「ホームスティの受け入れ」や「子どもの国際結婚に対する考え方」など、個人の本音に近い部分の意識（国際化意識と呼ぶ

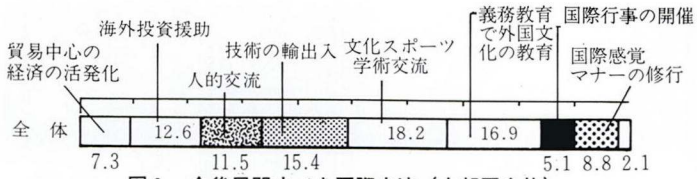


図3　今後展開すべき国際交流（中部圏全体）
資料：「中部圏における地域社会の国際化」S.57.NIRA

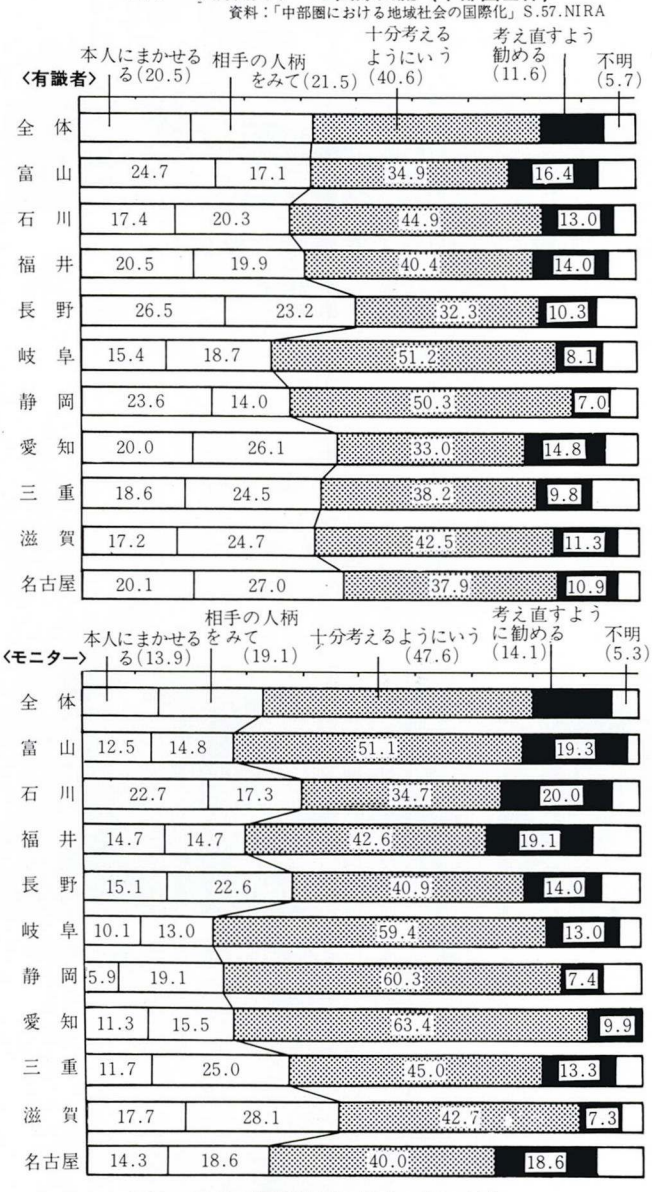


図4　子供の国際結婚に対する親の対応
資料：「中部圏における地域社会の国際化」S．57．NIRA



図5　県別植物帰化率　資料：「中部圏における地域社会の国際化」S.57.NIRA

ものとする）をみると（**図4**）、県によるちがいはあるが全般に国際化意識は低い。

⑤　国際交流の中には抑制、コントロールすべき交流もあるという観点から環境面での交流についてみると、これまでの経済交流の結果、中部においては帰化動植物が各県に広がり（**図5**）、また生産活動の展開に伴い、環境汚濁負荷が増大してきているなど、経済交流が環境面に強く影響を及ぼすようになってきている。したがって今後はとくに海外との経済交流の中にはこうした観点を取り入れた環境管理システムが必要となろう。

3．中部における地域社会の国際化
――なぜ中部か――

中部は工業をはじめ農業、水産業など、国内における生産の場としてかなり大きな役割を担っている。しかし、そうした役割のそれぞれが国際経済の動きと非常に密接なかかわりを持っているにもかかわらず、その認識が案外低い。

また、そうした認識の低さともあいまって、空港や港湾、国際会議場などの基盤整備が遅れているのが現状である。たとえば港湾などにおいては国際的な貨物輸送が急速にコンテナ化をとげているにもかかわらず、名古屋港をはじめとする中部の各港湾ではわずかのコンテナバースしか備えていない。そのため、愛知県や岐阜県の業者が輸入あるいは輸出するものでも、神戸港を利用するといったケースがかなりある。空港にいたっては中部といってもとくに東海地域が研修等でアジア諸国をはじめとする発展途上国の受け入れ先となっているにもかかわらず、国際線はほとんどなく、大部分が大阪や東京を利用しているのが現状である。

しかし一方で中部においては、これまでみてきたように、地域レベルでの活発な国際交流の動きがでている。たとえば、①姉妹都市提携をはじめとし、地域ごとの特性を活かしたキメの細かい国際交流が活発な展開をみせはじめている。②アジアをはじめとする発展途上国の人材育成の受け入れ窓口となっている。③中部にこれまで蓄積されてきた技術や人材が、工業をはじめ農業、林業、水産業などの産業分野や、用水事業、区画整理事業等の地域開発分野での国際交流において重要な役割をはたしているなど、前に述べた国際化という認識の低さや、基盤の未整備な状況とは別に地域レベルでの国際化が中部で進行している。

また、中部には、日本を代表し、かつ世界に誇れるようなものが多くあり（たとえば恵まれた自然、富士山、伊勢神宮、地場産業、自動車産業、琵琶湖の水質保全等々）、日本の国土、産業の活力、ウサギ小屋でない日本の生活などを理解してもらうには絶好の材料がそろっている。しかし、まだまだそれらを十分に活用しきっているとはいえず、その活用が今後の課題である。

いま、中部における国際化を考えるのは、まさにこうした中部の良さをどう伸ばし、また足りない点をどう克服するかを考えることであり、それによってひとりでも多くの人々が国際社会に対する正しい認識を持っていくとともに、海外の人が日本をより正しく理解し、今後日本が国際社会の中ではたす役割についての正しい認識を持ってもらうことが必要である。

そうした意味からも地域社会における国際交流の必要性は高く、とくに、多面的な交流の広がりをみせようとしている中部において今後さらに具体的な交流を、あらゆる人々によってすすめていくことが重要である。

（あおやま　こうぞう　社団法人地域問題研究所主任研究員）



1694 三馬カトリック教会聖堂

設計：竹中工務店名古屋支店
施工：竹中工務店名古屋支店
a．石川県金沢市三馬三丁目324番地
b．3,945㎡
c．　690㎡
d．　960㎡
e．RC、2F、P2
f．昭和56年5月～昭和56年12月
g．国鉄北陸本線西金沢駅



1695 ミノルタカメラ㈱大宝山寮

設計：安井建築設計事務所
施工：熊谷組
a．愛知県豊川市八幡町大宝山
b．13,075㎡
c．　1,066㎡
d．　2,835㎡
e．RC、4F
f．昭和57年10月～昭和58年6月
g．名鉄本線国府駅



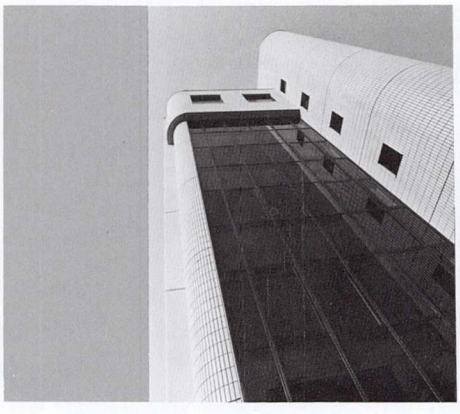
1696 十六銀行北穂積支店

設計：東海設計
施工：大林組
a．岐阜県本巣郡穂積町大字馬場字真子254－3他
b．1,039㎡
c．　327㎡
d．　405㎡
e．RC、2F
f．昭和57年7月～昭和57年11月
g．国鉄東海道線穂積駅



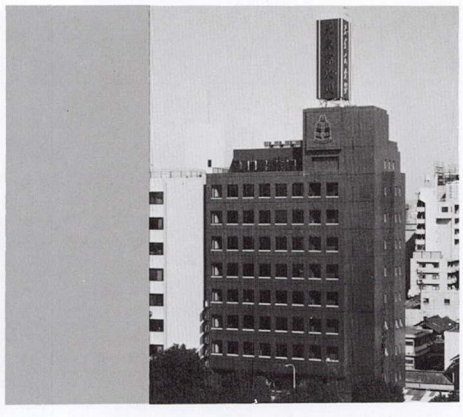
1697 広小路第一生命ビル

設計：竹中工務店名古屋支店
施工：竹中工務店名古屋支店
a．愛知県名古屋市中区栄3丁目1番1号
b．1,920㎡
c．1,377㎡
d．16,045㎡
e．SRC、B2、12F、P2
f．昭和56年5月～昭和58年3月
g．名古屋地下鉄東山線栄駅



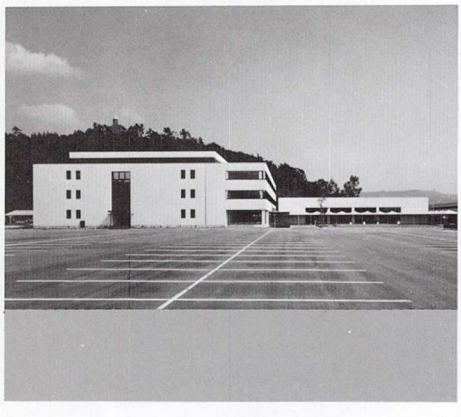
1698 愛知電気会館

設計：鈴木隆二設計事務所
施工：栄興建設
a．愛知県名古屋市東桜1丁目2－14
b．　287㎡
c．　211㎡
d．1,266㎡
e．RC、6F、P1
f．昭和57年6月～昭和58年2月
g．名古屋地下鉄栄駅



1699 大東京火災海上保険㈱名古屋支店

設計：安井建築設計事務所
施工：佐藤工業
a．愛知県名古屋市中区栄5丁目15番17号
b．　716㎡
c．　634㎡
d．6,437㎡
e．SRC、B1、10F、P1
f．昭和56年10月～昭和58年2月
g．名古屋地下鉄名城線矢場町駅



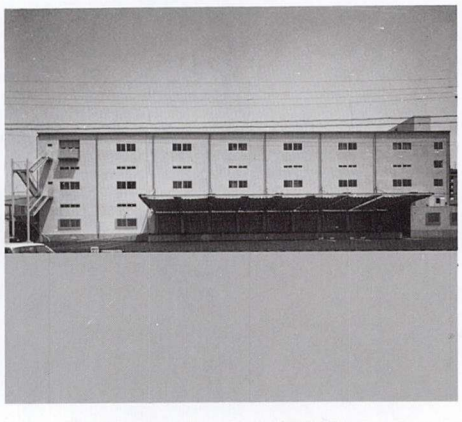
1700 ソニー幸田㈱厚生棟

設計：鹿島建設名古屋支店
施工：鹿島建設名古屋支店
a．愛知県額田郡幸田町大字雀ヶ入1番地
b．104,387㎡
c．　1,971㎡
d．　3,466㎡
e．S(柱のみSRC)、3F
f．昭和57年1月～昭和57年7月
g．名鉄本線東岡崎駅または東海道本線幸田駅



1701 大隈鉄工所・大隈会館

設計：東海設計
施工：不動建設
a．愛知県丹羽郡大口町下小口5丁目26－1
b．4,084㎡
c．2,480㎡
d．4,026㎡
e．SRC、3F
f．昭和57年11月～昭和58年3月
g．名鉄犬山線江南駅



1702 株式会社パロマ大江配送センター

設計：長谷部建築設計事務所
施工：石田組
a．愛知県名古屋市南区西又兵衛町4－52、53
b．5,537㎡
c．3,211㎡
d．8,903㎡
e．S(一部RC)、3F(一部5F)、昇降機2基
f．昭和56年10月～昭和57年5月
g．名鉄常滑線大江駅

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1703 学校法人 中西学園愛知女子短期大学

設計：清水建設名古屋設計部
施工：清水建設名古屋支店
a．愛知県愛知郡日進町大字岩崎字竹ノ山
b．20,769㎡
c．　4,482㎡
d．11,207㎡
e．RC、B1、4F
f．一期　昭和55年7月～昭和56年8月
　二期　昭和57年3月～昭和57年11月
g．名古屋地下鉄東山線藤ヶ丘駅



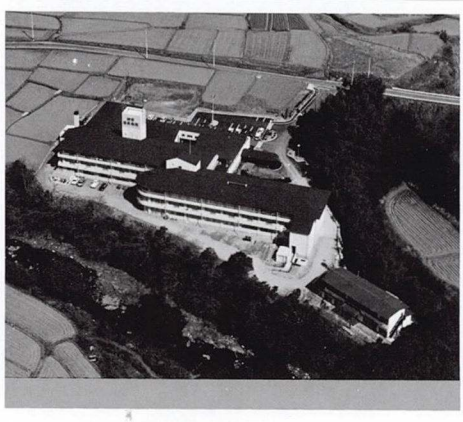
1704 皇学館大学研究棟・教室棟

設計：鹿島建設
施工：鹿島建設
a．三重県伊勢市神田久志本町1604－5
b．62,000㎡
c．　909㎡
d．　3,140㎡
e．RC、4F(研究棟)、3F(教室棟)
f．昭和56年4月～昭和57年3月
g．近鉄宇治山田駅



1705 稲武町立稲武小学校

設計：黒川建築事務所
施工：西松建設中部支店
a．愛知県北設楽郡稲武町大字稲橋字シモ田20-1
b．13,500㎡
c．　4,240㎡
d．　6,452㎡
e．RC、2F
f．昭和56年4月～昭和57年2月
g．名鉄豊田経由西中金下車名鉄バス稲武



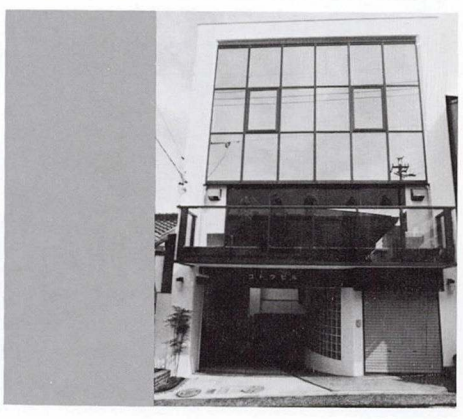
1706 榊原温泉病院

設計：清水建設名古屋支店
施工：清水建設名古屋支店
a．三重県久居市榊原町字石ノ戸
b．10,599㎡
c．　2,424㎡
d．　5,842㎡
e．RC、S、3F、P1
f．昭和56年3月～昭和57年2月
g．近鉄本線津駅からタクシー20分



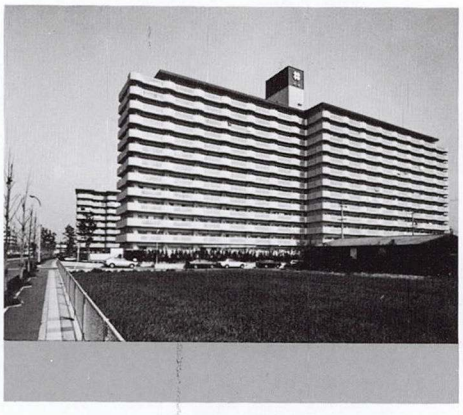
1707 静岡県立総合病院

設計：内藤建築事務所
施工：大林組・木内建設特別共同企業体
a．静岡県静岡市北安東4丁目27番地
b．49,251㎡
c．　8,777㎡
d．39,365㎡
e．SRC(HPC工法)、B1、6F、P2
f．昭和55年11月～昭和57年10月
g．国鉄東海道本線静岡駅



1708 ゴトウビル

設計：加古建築設計室
施工：岡部建設
a．愛知県名古屋市瑞穂区大喜新町3－11－33
b．152㎡
c．　91㎡
d．292㎡
e．RC、4F
f．昭和56年3月～昭和57年1月
g．市バス鶴舞より堀田線にて雁道



1709 岐阜市営住宅ハイツ宇佐3号

設計：伊藤建築設計事務所
施工：錢高組
a．岐阜県岐阜市宇佐4丁目3番3号
b．　9,739㎡
c．　1,300㎡
d．14,078㎡
e．SRC、13F、179戸
f．昭和55年10月～昭和57年6月
g．名鉄新岐阜駅下車市営バス宇佐



1710 ロイヤルシャトー虹ヶ丘

設計：中島建築計画研究所
施工：三菱建設名古屋支店
a．愛知県名古屋市名東区名東本町166
b．　741㎡
c．　454㎡
d．2,090㎡
e．RC、6F
f．昭和57年5月～昭和58年3月
g．名古屋地下鉄東山線星ヶ丘駅



1711 一宮U邸

設計：加古建築設計室
施工：柘植工務店
a．愛知県一宮市花池2丁目8－8
b．132㎡
c．　69㎡
d．118㎡
e．W、2F
f．昭和57年4月～昭和57年10月
g．名鉄本線みょうこうじ駅

身近なくらしに〈化学〉を生かす

AICA



たとえば、厨房室の床。

耐油性、清掃性にすぐれたジョリエース〈JEシリーズ〉フレーク工法

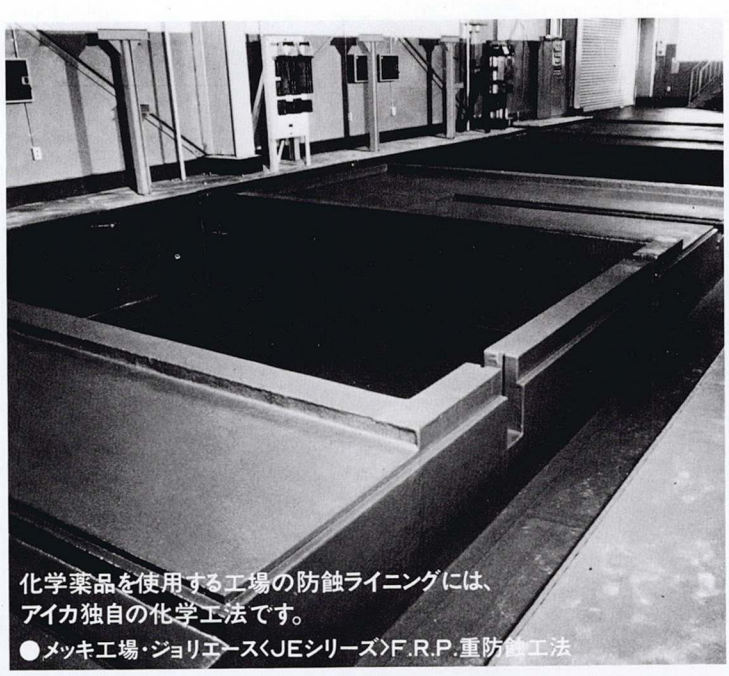
“塗り床材”ジョリエースは3シリーズ13工法――幅広い用途にお応えします。

床には用途、使用状況により様々な性能が要求されますが、アイカは現場の要請に応えて幅広く、用途別に選べる工法をラインアップいたしました。優れた性能を示す塗り床材「ジョリエース」を是非ご検討下さい。

● **JAシリーズ**（アクリル樹脂系・1工法）
誰れでも簡単に施工ができ、防塵性、清掃性に優れ、工場や倉庫など、床面からの環境改善に、カラー仕上げに、幅広い用途を持っています。

● **JEシリーズ**（エポキシ樹脂系・7工法）
耐薬品性、耐摩耗性、耐衝撃性、耐侯性に富み耐久性抜群。腐蝕に強く、化学工場、食品工場、屋外施設などの用途にあった堅牢な床を作ります。

● **JUシリーズ**（ウレタン樹脂系・5工法）
ゴム弾性があり、ノンスリップ効果が高く、吸音性にも優れています。ソフトな歩行感から病院、学校の通路、ホール、スポーツ施設に最適です。



化学薬品を使用する工場の防蝕ライニングには、
アイカ独自の化学工法です。
●メッキ工場・ジョリエース〈JEシリーズ〉F.R.P.重防蝕工法

JOLYACE
ジョリエース 塗り床材

アイカ工業株式会社
本社/名古屋市中区丸の内二丁目20番19号 名古屋東海上ビル20F
☎〈052〉202-6911（代表）
営業本部☎〈052〉202-6972（直通）

●事業所：東京支店☎〈03〉343-2361／新宿ショールーム☎〈03〉343-2351／北関東☎〈0273〉62-1729／新潟☎〈0252〉59-3101／大阪支店☎〈06〉245-5551／金沢☎〈0762〉49-3681／名古屋支店☎〈052〉331-4133／静岡☎〈0542〉82-1271／福岡支店☎〈092〉591-3714／佐賀☎〈095247〉3111／札幌支店☎〈011〉811-9201／広島支店☎〈082〉254-1311／岡山☎〈0862〉43-1327／仙台支店☎〈0222〉92-3251／高松☎〈0878〉51-9588

調和から始まるクリエイション

オリジナリティのある空間には、環境づくりをトータルに
見つめる設計思想が息づいています。

春日井市東部市民センター

人々が集うパブリック・スペース。そこには心のゆとりを生む雰囲気、コミュニケーションを支える機能が欠かせません。そして、それぞれの用途・目的などの条件を調和させるアイデアが、個性あふれる空間を創造します。家具に自由な発想を求め、より快適で合理的な環境づくりを提案するアイチ。フィックスファニチュアのパイオニアならではの経験と技術をフルに生かし、専門スタッフが建物の設計段階からプロジェクトに参加し、トータルなコーディネーション・プランのお手伝いをいたします。



春日井市東部市民センター

パブリックスペースの専門家具

アイチのイス

愛知株式会社

本社・名古屋市東区筒井三丁目27番25号 〒461 ☎〈052〉937-5931㈹

東京本部☎〈03〉585-0016㈹・東京ショールーム☎〈03〉585-0017㈹・名古屋店・ショールーム☎〈052〉935-6226㈹・大阪支店・ショールーム☎〈06〉380-0601㈹・札幌営業所☎〈011〉222-4531
京都営業所☎〈075〉802-3639・神戸営業所☎〈078〉576-5187・広島営業所☎〈082〉263-3220・㈱東北アイチ☎〈0222〉27-4595・㈱北関東アイチ☎〈0486〉86-3121・㈱神奈川アイチ☎〈045〉861-1221・㈱四国アイチ☎〈0878〉22-2202・㈱福岡アイチ☎〈092〉441-1246・㈱福岡アイチ鹿児島営業所☎〈0992〉54-3178

焼きものの心を現代に繋ぐ

伊奈製陶は、建築と焼きものの接点を求め、一流ホテルをはじめとする建築におけるタイルの分野で、高度な製造技術を駆使し、業界の先駆者としての地位を築いてまいりました。さらに、焼きものとして伊奈製陶が追求してきたタイルのデザイン……格調、美しさ、素朴さなどを人間性の根源的欲求としてとらえ、住空間における関連部材・設備機器開発の糧としてまいりました。今後も、伊奈製陶は自然と調和した生活環境、快適な生活空間を創造する企業として、よりよい製品の開発に努力してまいります。

ina
伊奈製陶

本　　社　〒479 愛知県常滑市鯉江本町3丁目6番地　電話05693-5-2700
札幌支店　〒060 札幌市中央区北2条西2丁目7番地 第2カミヤマビル2階　電話011-271-1701
仙台支店　〒980 仙台市上杉1丁目6番11号 日生勾当台ビル2階　電話0222-63-1710
東京支店　〒104 東京都中央区京橋3丁目6番18号　電話03-561-1710
名古屋支店　〒461 名古屋市東区東桜一丁目4番16号　電話052-962-1271
金沢支店　〒920 金沢市彦三町2丁目5番27号 名鉄北陸開発ビル6階　電話0762-23-1171
大阪支店　〒550 大阪市西区新町1丁目7番1号　電話06-532-6081
高松支店　〒760 高松市天神前10番5号 高松セントラルスカイビル6階　電話0878-34-1313
広島支店　〒730 広島市中区八丁堀5番17号 住友生命広島八丁堀ビル2F　電話082-223-1710
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号 日本生命第2ビル　電話092-471-1710

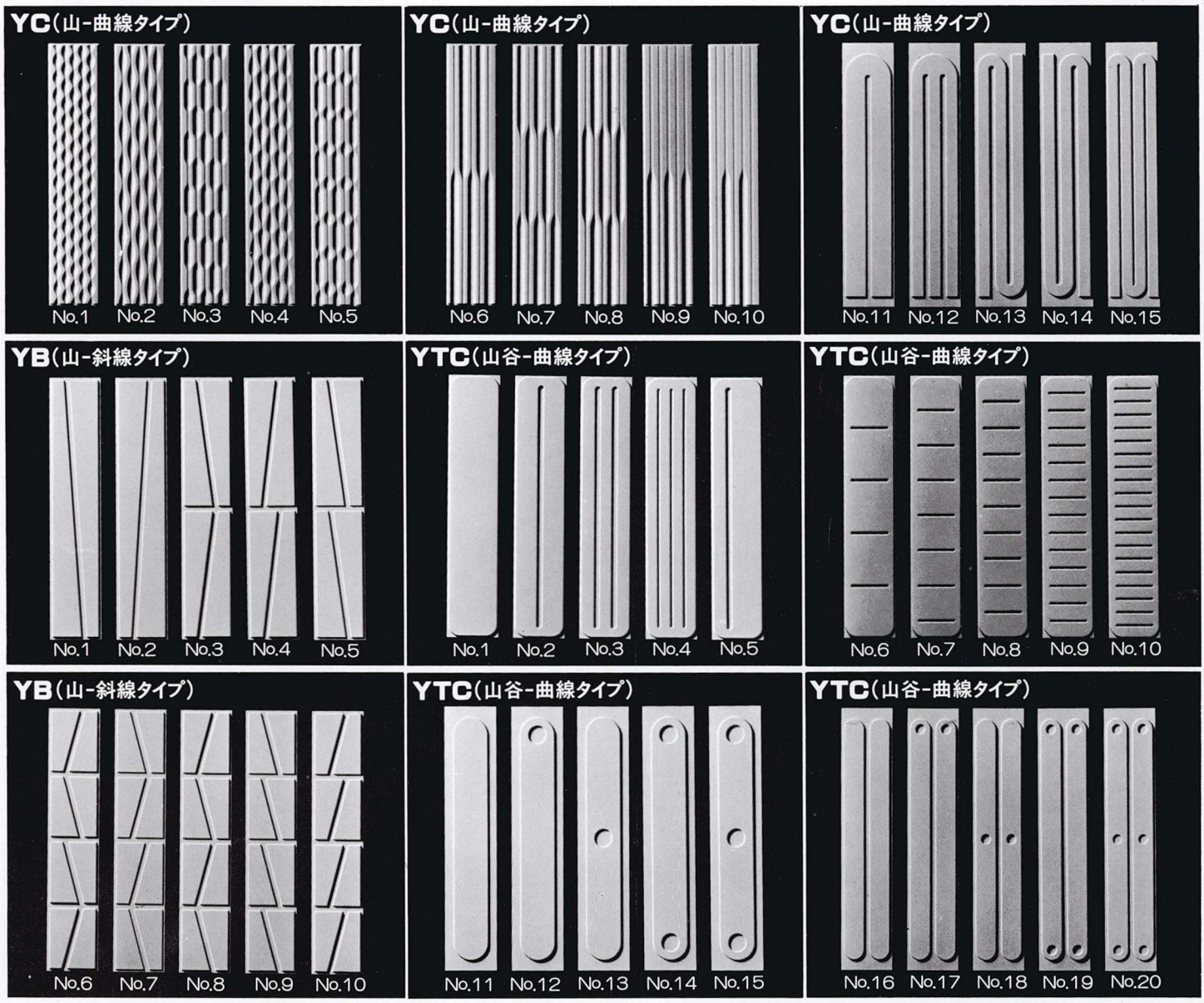
営業品目＝タイル・住宅設備機器・衛生設備機器

DUROX

FASHION PANEL ADVANCE

第二世代ALC建築専用
デュロックス ファッションパネル“アドバンス”
先進の45種類

〈意匠登録申請中〉



アドバンスシリーズは全てコンピュータ設計。

デュロックスファッションパネル〝アドバンス〟はALC建築の先端意匠をめざし、デザインされた画期的なシリーズです。デザイン設計は全てコンピュータを駆使し、製造加工は数値制御(NC)をフルに活用しています。今まで不可能とされていた斜線・曲線パターンを可能にした第二世代ALC建築のリファレンといえるパネルです。

(アドバンスシリーズは現在、関東・甲信越・東北地区において販売しています。)

小野田ALC デュロックス

小野田エー・エル・シー株式会社

本社●〒450 名古屋市中村区名駅4-4-12(中経ビル)
TEL(052)581-4391

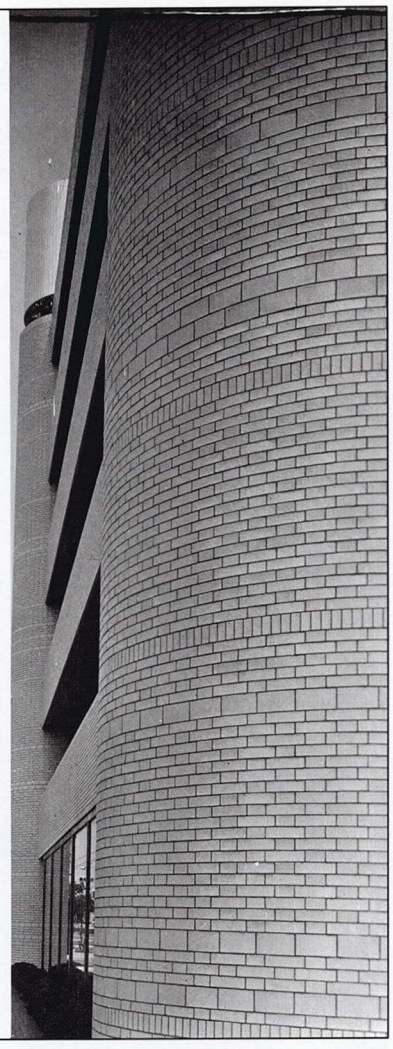
小野田デュロックス株式会社

東京本店 (03) 862-0181　松本営業所 (0263)36-0452
北関東営業所 (0276)46-6196　仙台支店 (0222)67-2761

株式会社 小野田デュロックス

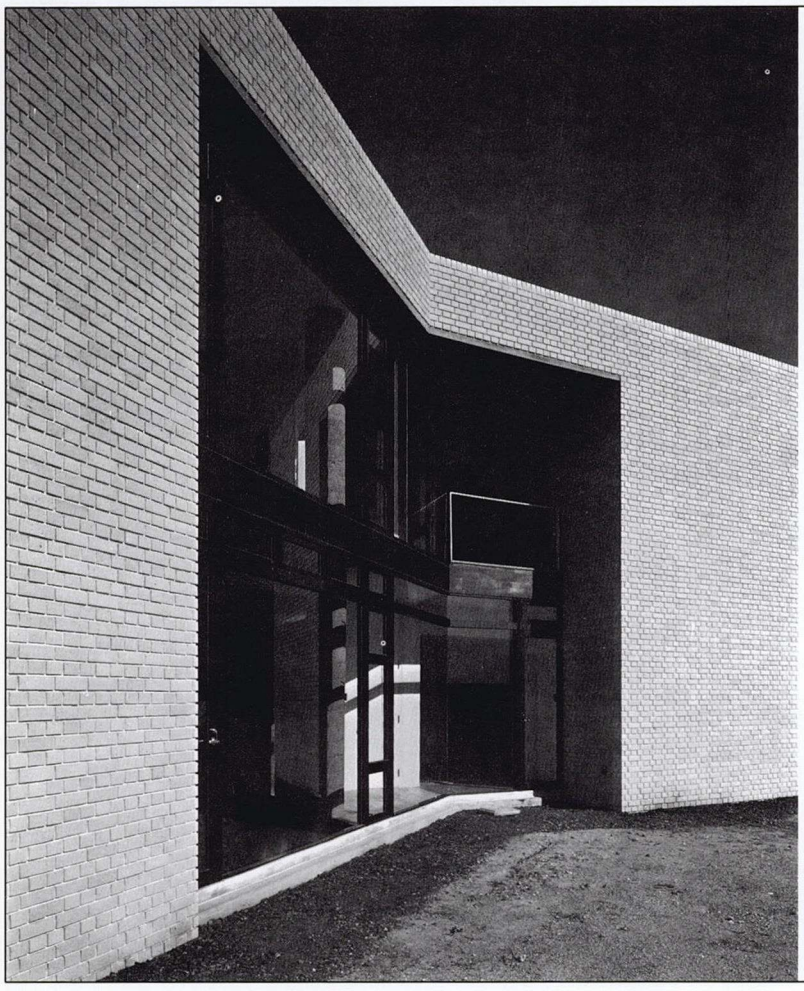
名古屋本店 (052)581-6251　静岡営業所 (0542)52-6174　広島支店 (082)223-8191　福岡営業所 (092)281-0359
大阪本店 (06) 345-0051　富山営業所 (0764)32-0013　高松営業所 (0878)22-6777

創意と情熱と、先進の技術をもって
タイル・住宅設備機器をトータルに
施工・販売するユニークな企業として
建築文化に貢献していきます。



協和建材グループ
協和建材株式会社
協和販売株式会社
協和住設株式会社

本　社　名古屋市中村区本陣通3-33
TEL(052)461－5171(代表)
本　社　名古屋市中村区本陣通3-33
TEL(052)481－6131(代表)
本　社　名古屋市中村区上ノ宮町1-5
TEL(052)482－3188
営業所　一宮・岐阜・津・静岡・沼津



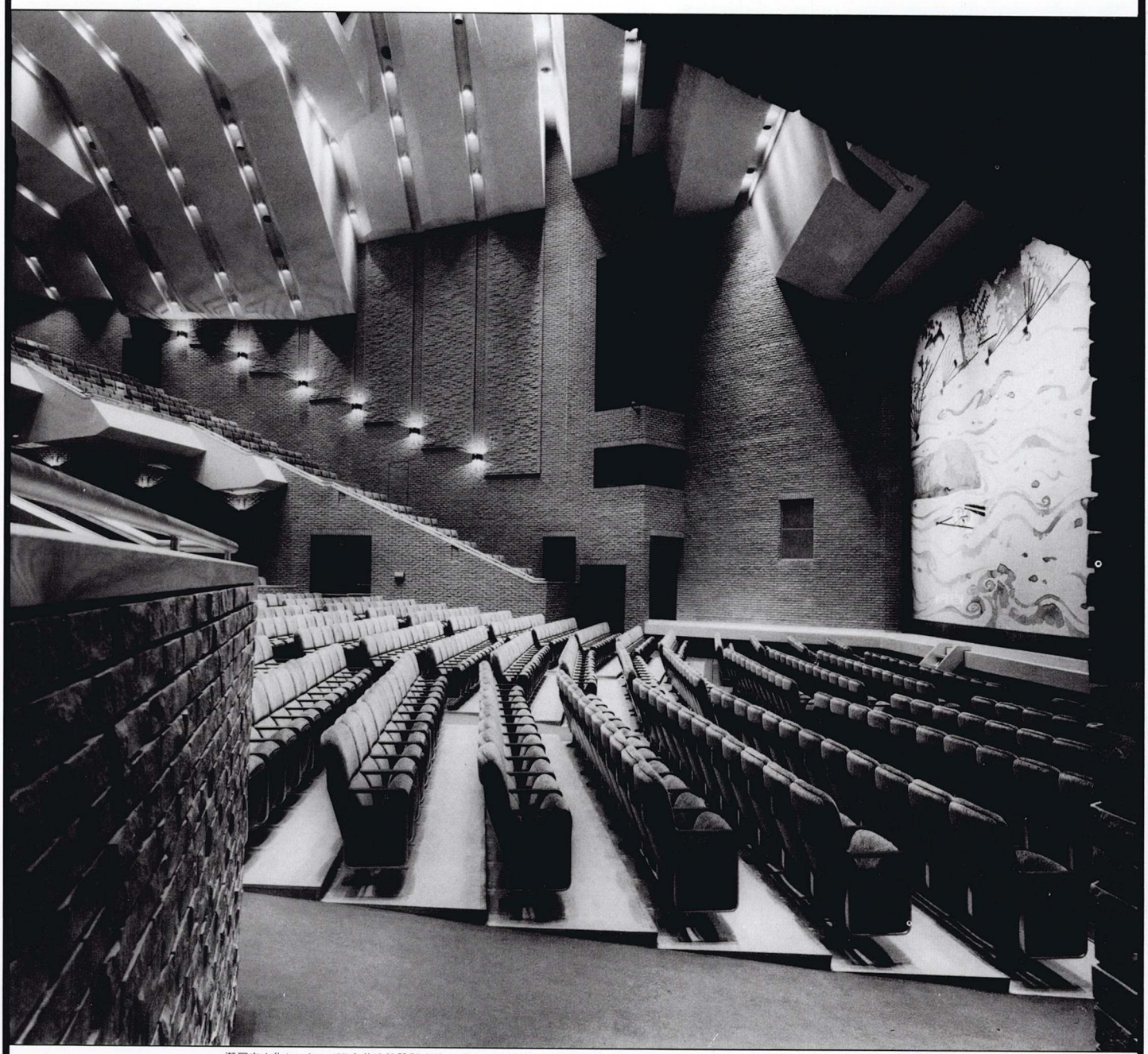
都市環境
自然環境　との美しい調和

創作タイル
と
陶壁

DAIWA
大和窯業株式会社

本社・瀬戸工場　愛知県瀬戸市東古瀬戸町4　電0561(82)5158(代)
三郷工場　尾張旭市北原山町大久保見2022　電05615(3)2821(代)
名古屋事務所　名古屋市中区流川町2-37東海タイル内　電052(241)1551
東京ショールーム　東京都渋谷区神宮前3-7-5佐藤ビル3F　電03(479)0243

れんが——心ゆたかな風景を願って。



瀬戸市文化センター／㈱安井建築設計事務所・瀬戸市文化センター建設室／大成建設㈱・信和建設㈱JV

五千年にもおよぶながい歳月
れんがは、時と空間を超えて
人びとの愛情を享けつづけた。
慈しむこころが建物に映えて
馴染みぶかい表情をうかべる。
ほんものの名に価する素材の
ゆたかさを感じる色と肌合い。
良い素材を生かして隅々まで
つくる人、つかう人の思いが
心底ふかく込められた建物は、
そこに暮し、訪れる人びとに
たのしい心象風景を刻みこむ。
世代から世代へ愛されてゆく
街の大きな資産となるだろう。

kunishiro PS

国代耐火工業所

本社●〒489 瀬戸市上本町496 TEL.[0561]48-1122大代表
東京●TEL.[03]437-2233 企画 ●TEL.[03]437-2244
大阪●TEL.[06]245-5184 名古屋●TEL.[052]704-2525
福岡●TEL.[092]471-1201 仙台 ●TEL.[0222]23-8263

建築用レンガ・セラミックスエンジニアリング／PS特殊レンガ・PSシャモットタイル・オーディオブリック・PSレンガボード・PSレンガパネル・PSクラフト・PSアルセラ・サイディング 輸入レンガ／レッドランドブリックス 耐震設計用部材／セラスリット 自動タイル割りつけシステム／グラフィック・モデュレーション

信頼のトータルインテリア

サンゲツ ショールーム

ショールームで実際の効果をお確めください。



名古屋本社、東京青山、福岡店のショールームでは、商品を大型パネルに展示して、実際の効果と迫力をごらんいただいています。ぜひ、みなさまのプランニングルームとしてお気軽にご利用ください。

名古屋本社ショールーム

名古屋市西区幅下1-4-1
TEL(052)564-3111



営業時間 9:00AM～5:30PM

東京南青山ショールーム

東京都港区南青山5-6-10
TEL(03)407-8123



営業時間 9:00AM～5:00PM

福岡ショールーム

福岡市博多区板付1-10-3
TEL(092)441-5181



営業時間 9:00AM～5:30PM

●名古屋本社・東京南青山は年中無休

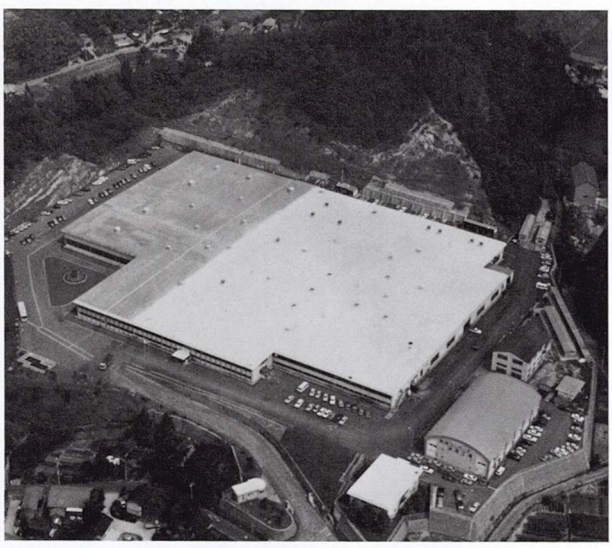
株式会社 サンゲツ

名古屋本社／名古屋市西区幅下一丁目4-1	電(052)564-3111	仙台店／仙台市六丁目字鶴代19-1	電(0222)87-3765
東京店／東京都品川区東品川3-20-17	電 (03)474-1181	広島営業所／広島市中区舟入町2-20	電(082)292-6222
青山ショールーム／東京都港区南青山5-6-10	電 (03)407-8123	北陸営業所／金沢市間明町2-337	電(0762)91-3302
大阪店／東大阪市加納413	電 (06)789-5201	新潟営業所／新潟市神道寺2-1-9	電(0252)41-3233
福岡店／福岡市博多区板一丁目10-3	電(092)441-5181		

何時でも何処でも頼りになるゴムアス
新設にも補修にも，何んでもこなすゴムアス。
ゴムアスファルト

タフネス防水





ゴムアスファルト防水工事業協同組合
東京都品川区南大井1－7－4
TEL03(761)4378

昭和石油アスファルト株式會社
東京都品川区南大井1－7－4
TEL03(761)4291

東京第一営業所　03(761)4271　　新潟営業所　0252(25)2331
第二営業所　03(761)4255　　福岡営業所　092(291)0008
大阪営業所　06(341)6395　　仙台出張所　0222(67)5319
名古屋営業所　052(231)6568　　札幌出張所　011(251)7912

kikusui

科学技術庁長官奨励賞受賞

結露防止塗材

ケツロナイン(PAT.A)

ケツロナインは、熱を逃さない・湿気を吸いとる・湿気を放つ——という室内の調温・調湿機能を充分に発揮し、しかも防かび性に優れ、その効果を持続させる塗材です。

特　長

① 湿気吸収力が高い
② 防かび性が高い
③ 断熱性がある
④ 調湿性がある
⑤ 塗膜物性が優れている

菊水化学工業株式会社

本　社／名古屋市中村区名駅四丁目4-12(中経ビル) 電話(052)581-6311㈹ 〒450
支　店／東京(03) 949-2155㈹・名古屋(052)581-6311㈹・福岡(092)451-6505㈹
営業所／盛岡(0196)54-1301㈹・仙台(0222)65-2971㈹・北関東(0285)25-3522㈹・
甲信(0263)36-4311㈹・金沢(0762)22-1152㈹・大阪(06) 303-5301㈹・
広島(082)291-4422㈹・高松(0878)34-6515㈹・南九州(0992)52-4141㈹
出張所／札幌(011)758-7371㈹・岡山(0862)43-4601㈹
研究所／中央研究所(0568)67-1414㈹・分析・試験センター(0568)67-3389㈹
工　場／茨城(0280)98-0351㈹・名古屋(0568)67-1411㈹・福岡(092)935-3885㈹

ヨーロッパ伝統の窓を日本の新しい窓に

住友の技術が創りあけたトレーキップ窓

カイゼルL70



ひとつの窓に、ふたつの機能

ひとつのハンドル操作で、内開き・内倒しが自由自在

この伝統的なヨーロッパの窓を日本の気候・風土・建築事情に合わせて独自の窓に創りあげました。

枠見込70㎜から生まれる高い強度、すぐれた気密性・遮音性・断熱性、そして等圧システムの採用による確実な雨仕舞は、用途を一般ビルから高層ビルまで大きく広げています。

サッシ、カーテンウォール・メーカー

住友ウォールシステム株式会社

本社　東京都千代田区神田美土代町1（住友商事美土代ビル）TEL 03（294）8511（大代表）



レイアウトとキャビネットの組み合わせを〝パッケージ〟にしました。

TOTOシステムキッチン
ファミリーシリーズ

●**5タイプ・10プランの基本パッケージ。** TOTOシステムキッチンの基本パッケージとは、システムキッチンのレイアウト及びカウンターとシンクの組み合わせ、キャビネットの構成が、あらかじめ標準プランとして用意されているものです。基本パッケージプランは、カウンターの間口寸法が5タイプ、それぞれにキャビネットの構成が2種類ずつ、全部で5タイプ、10プランあります。

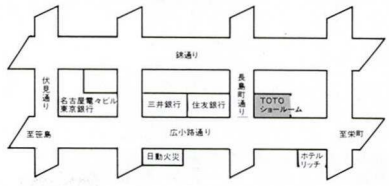
●**日本の台所にぴったりフィット。** レイアウトはI型2タイプ、L型3タイプ。カウンターの間口寸法は、いずれも日本の建築モジュールにあわせて用意しました。ですから4.5畳、6畳、8畳といった日本の標準的スペースにぴったり納まります。

●**選択できる水栓金具、調理機器、換気機器。** システムキッチンの機能部である水栓金具や調理機器、換気機器は、使い勝手にすぐれたものを数種類ずつ用意しました。これらは、ご希望にあわせて自由に選択できます。

●**納期を短縮、施工も大幅に簡略。**●**トールキャビネット、ワーキングカウンター、食器棚、ダイネットカウンターも用意しました。**

SYSTEM KITCHEN
TOTO
ファミリーシリーズ

触れて、見て、実感してお確かめください。TOTOのショールーム



名古屋ショールーム
名古屋市中区錦2丁目19番25号
日本生命広小路ビル〒460
☎(052)232-1010

詳しくはカタログでどうぞ。〒802 北九州市小倉北区中島2丁目1-1 東陶機器㈱宣伝部☎093(951)2293

結晶化ガラス

ネオパリエ



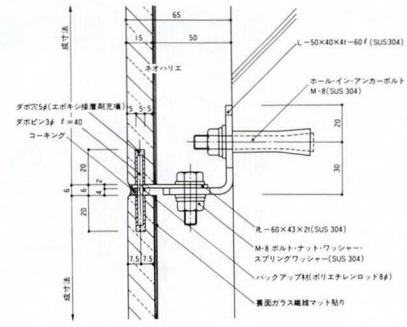


ネオパリエ標準価格表(色調：ホワイト)

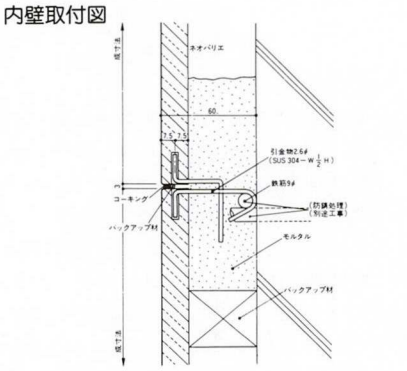
区分		規格 寸法(mm)	価格(円) 本州	価格(円) 北海道・四国・九州	備考
内壁	規格品	900× 900×15 900×1200×15	50,500/m²	52,000/m²	●ネオパリエの色調は、ホワイト、ベージュ(2色)、ブラウン、グレー、ピンクの6色。 ●色物の価格は、材料のみホワイトの15%増。 ●小面みがき等の特殊加工は別途加算。
	非規格品	上記以外の寸法	53,500/m²	55,000/m²	
外壁	規格品	900× 900×15 900×1200×15	51,000/m²	52,500/m²	
	非規格品	上記以外の寸法	54,000/m²	55,500/m²	
曲面壁・丸柱	規格品	350R	129,000/m²	131,000/m²	
		400R～600R	120,000/m²	122,000/m²	
		650R以上	117,000/m²	119,000/m²	
	細物	幅100以下	115,000/m²	117,000/m²	

＊価格は、施工規模100m²の場合の1m²あたりの価格。

外壁取付図



内壁取付図



ネオパリエは、大理石のようなソフトな感触をもち、花崗岩よりも強度、耐風化性などの点で優れた新しい建材です。建築物の外壁、内壁、床などのほか、カウンターやテーブルトップなどに用いられます。ネオパリエは、また、曲面加工が容易にできるため、曲面コーナーや円柱をつくることができます。

日本電気硝子株式会社

大阪営業部　〒530 大阪市北区角田町1-1　06(312)2971
東京営業部　〒108 東京都港区三田1-4-28　03(456)3511

出張所　仙台　0222(63)6717
東京　03(631)1462
名古屋　052(937)5113
大阪　06(723)5061
福岡　092(531)5075

構造の頁

108 JASS 6の改定の要点（その1）

羽倉　弘人

1．JASS 6の改定経緯

日本建築学会では、建築工事に係わる各種工事の施工標準を定めて、わが国の建築の質的向上と合理化を図るために建築工事標準仕様書（略称JASS：JAPAN ARCHITECTURAL STANDARD SPECIFICATION）を定めている。

現在刊行されている標準仕様書は、建築工事関係23編、設備工事関係3編であり、鉄骨工事関係はその第6編として制定、刊行されているので、JASS 6と呼ばれている。これらの標準仕様書は、最新の技術を折り込まれた施工技術標準として広く建築界全体に普及しており、契約上の設計図書として活用されている。

日本建築学会が、学術、技術の調査研究活動の一環として、標準仕様書の制定に取り組んだのは非常に古く、大正12年に遡ることができる。以来、昭和16年までの間に16編の仕様書が制定された。その後、第二次世界大戦など社会情勢の激動を経験したが、戦後の混乱がようやく落ち着いた昭和26年に、建築学会では、改めて「材料施工基準委員会」を設けて、標準仕様書の全面的改定と材料規格の調査を開始し、昭和28年に現在の仕様書体系ができ上がった。

標準仕様書制定の目的は、当時の下元連委員長のつぎの言葉に要約されている。

「標準仕様書を作成することは、施工標準を決めようとすることであります。すなわち合理的で経済的な施工の一定標準を定め、これが普遍化を期待し、それによって一般建築物の質の向上を図ろうとするのが、その目的であります。」

この文章から理解されるように、建築学会の標準仕様書は、わが国の建築工事の普遍的な施工指導書であり、技術上の研究成果、材料、工法の開発、進歩を速やかに全国的に活用できるようにすることが最大の目的である。

この意味から、建築学会の標準仕様書は時宜に即した形で常に改定、追補されなければならないが、一方では建築工事契約上の重要な設計図書の一部をなすものであるから、相当水準の高い施工業者でなければ施工できないような技術を盛り込むことは許されず、普遍化するまでの時間を待って改正することになる。

鉄骨工事技術は昭和30年代から工事量の増大に伴って急速に進歩、変革しつつある。たとえば、接合法はリベットから溶接、高力ボルトに、鋼材は山形鋼中心であったものが、H形鋼、鋼管、さらに鋼材組立材と多様化しており、鋼種も普通鋼だけでなく各種の高張力鋼が開発されており、極厚鋼材なども使用されている。

したがって、日本建築学会では、このような技術革新に対応するのに、標準仕様書を改定する前に、指針、規準の形で最新の研究、技術開発の成果を取り纏めて、刊行、普及して、わが国の鉄骨技術水準を向上させるように努めていた。すなわち、薄板鋼構造設計施工規準、高力ボルト接合設計施工指針、溶接工作規準等々があげられる。

このような事情からJASS 6は、昭和28年に制定され、昭和42年に第1回の改定が行われた後、昭和57年の今回の改定まで据え置かれていた。

この15年間に材料施工委員会・第5分科会（鉄骨工事担当）では、最近の鉄骨工事に関連する標準的施工技術を調査研究し、設計規準との関連でそれぞれの材料・工法ごとに刊行されていた上記各種規準、指針類を整理統合する作業を行い、昭和52年に「鉄骨工事技術指針」を刊行している。また、鉄骨工事の品質を定量的に定めることを目的として、その第一歩として鉄骨製品および工事場での建方精度を調査研究し、昭和47年に「鉄骨工事精度標準」を発表した。

この二つの指針、標準の研究成果を基礎として、昭和52年から、JASS 6の改定作業を開始し、昭和57年10月に改定版を刊行する運びとなった。

2．改定の要点

今回の改定にあたっての基本方針は、従来の仕様書が先に述べたように施工標準を普遍化する目的で作られていたので施工教科書的色彩が強かったのに対し、鉄骨工事の発注者、施工者の双方の立場を明確にし、双務的契約図書としての性格を強く打ち出そうとしたことである。すなわち、発注者側の要求性能、受入検査水準を明確にした性能発注形式に標準仕様書を近づけるようにし、施工者側は、この要求品質を製品に作り込むための自主的品質管理を義務づけたことである。

これは、近年のわが国の鉄骨製作工場の技術水準の向上と、新しい品質管理手法の浸透による管理能力の増強を評価し、標準仕様書に反映させようとしたためである。

2・1　自主管理　発注者にとって鉄骨工事は、最終製品が要求品質を満足しているものであればよいのであるから、受注した鉄骨製作工場は、自社の技術と設備をフルに動員して、いかに合理的に経済的に所定の品質の製品を生産するか、自ら管理することが望ましい。このため、新しいJASS 6では、総則でつぎのように定めている。

「特記のない場合は、施工者等は当該鉄骨工事に必要な仮設・工法などの一切の手段をみずからの責任において定める。以下略」〔6.1.3(3)〕

「鉄骨工事が適正に施工されているかまたはいたかの確認は、原則として施工者等の自主管理記録による。以下略」〔6.1.3(5)〕

「鉄骨加工業者は、設計図書に定められた製品の品質を確保するための一切の手段を自主管理する。そのため、当該工事の責任者として担当技術者を置く。」〔6.1.4(1)〕

2・2　鉄骨製作工場の選定　以上のように鉄骨製作工場の自主性を尊重して、発注者側の工作上の指示、検査は必要最小限に留めることにしたので、製作工場の選定は鉄骨の品質に重大な影響を及ぼすことになる。

鉄骨加工業者の生産能力、品質その他の管理能力などを総合した技術レベルの評価方法については、現在、(社)全国鉄構工業連合会が鋼構造物製作工場認定制度によりH.M.RおよびJグレードに級別し、傘下の工場を、約2500社程度の認定を行っている。また(社)鉄骨建設業協会でも認定委員会を発足させ、大手業者を含む約130社を対象に級別を実施しようとしている。

この制度は、受注競争が激しく、混乱している鉄骨業界の秩序を作り、正しい技術と協調の精神を浸透させ、発注者の信頼を回復する一つの手段として業界が自主的に行っているものであり、社会的にも高く評価されているが、各団体が別々に行っているのでは、発注者が建物の規模、用途、構造およびそれを製作するのに必要とされる技術などに応じて、最もふさわしい生産工場を適正に選択できるようにするという制度本来の目的が薄れてしまうことになる。そこで鉄骨関連団体の総意で昭和54年に発足した鉄骨問題協議会では鉄骨生産工場認定制部会を設置し、工場認定にあたっての統一された基準を日本建築学会の協力のもとに作成中であり、「鉄骨生産工場類別基準」として近々公表されることになっている。

この類別基準では、生産工場の規模、設備機器、技術および管理能力により、適正に製作できる鉄骨の規模、技術難易度とリンクさせ、S、A、B、Cの四つに類別することにしている。まだ、この基準で統一された制度として運用されるかどうか不明であるが、関係諸団体が協議して作り上げたものであるから、今後、発注者の選択基準として重用されるものと考えている。（以下次号）

（はぐら　ひろと
日本建築学会材料施工委員会 第5分科会主査、千葉工業大学教授）

設備の頁

107

最近の電話設備（その2）

電話設備の導入

西宮　三郎

5．ディジタルEPBXの導入

ディジタルEPBXは、コンピュータと同様にプログラムによる制御とICをはじめとする半導体により構成されており、サービスの高機能化と小型化が行われている。この点からディジタルＥＰＢＸは従来の電話交換機のイメージから大きく脱皮し、電話のみならずワープロ、パソコン、オフコン、ファクシミリ等のオフィス機器が接続できること、ビル内、事務所内フロアスペースの有効利用の点から導入が進められている。ここではとくに一般事務所内にも設置が可能な小規模用ディジタルEPBXの導入について紹介する。

内線数（電話機数）はビル・事務所規模、従業員数および使用する企業の業種（一般事務所、会社、官公庁、デパート等）により決定される。一例として１台の電話機当たりの従業員数を下**表**に示す。

本体機器は電子部品で構成されたプリント板パッケージを主体としたユニットで構成されている。構造は壁面設置が可能な自立形キャビネットであり、万一、壁面側の保守点検が必要となった場合には、キャビネット本体を回転できる構造となっている。キャビネット内には、従来、別置きとなっていた整流器が内蔵されており、設置スペースが節減されている。本体機器とともに蓄電池・MDF（主配線盤）が必要である。MDFはキャビネットと併設または壁掛け形のいずれも採用可能である。蓄電池は本体キャビネットと同一デザインの蓄電池箱へ収容が可能である。各種ケーブルのキャビネット内への引き込みはキャビネット裏面下部から行う。キャビネットは防塵構造となっており、一般事務所への設置を配慮したデザインが施されている。機器の外観とフロアスペースを示す。

6．グラフィック電話会議システムの導入

前号において会議システムの簡単な紹介を行ったが、本号では音声とともに手書き情報のやりとりを可能とするグラフィック電話会議システムについて紹介する。

電話だけのやりとりに加えて図形、文字情報のやりとりのためにOAボード（電子黒板）やペンボードを使用した会議システムの導入が図られている。使用回線は通常の電話回線であり、音声に１回線、OAボードに1回線の計２回線を使用する。OAボードは通常の黒板を電子化したもので、黒板に書かれた内容を回線を通して相手側に送り、お互いに同時に見ながら討議するのに使用する。OAボードに書かれた内容は双方の会議卓のモニタに表示される。さらにOAボードに書いた内容を記憶部に記録することができるため、打ち合わせの後戻りや前回の議事の参照や修正を行うことができ、必要に応じてモニタの表示画面のコピーを必要な枚数とることができる。

電話による打ち合わせを効率的に行うために、ハンドフリー機能を備えた電話端末を使用することができる。一例として、一般電話機に付加して使用するミーティングホンを紹介する。本電話端末はミーティングホンと拡声ユニットに分かれている。ミーティングホンのみを付加すると２～３人までハンドフリーで会話ができる。代表的な機能として送話優先（一方的に話す場合）、マイクオフ（話を相手に聞かせない）、音量調整（スピーカの音量調整）、イヤホン接続、通話録音（テープレコーダとの接続ジャック）等がある。さらに会議卓のようにテーブルをとりかこんで数人程度まで参加できるものとして、ミーティングホン拡声ユニットを使用することができる。ミーティングホン拡声ユニットはスピーカと内蔵マイク（無指向性）で構成されている。また外部マイクを接続することができ、多人数でハンドフリー通話ができる。

＊

以上７月号、８月号の２回にわたって最近の電話設備の概要を述べたが、オフィス内の事務効率化が進む中で、電話設備はコミュニケーション設備へと複合化を進めていくことが考えられる。今回は概要の紹介にとどまったが設備の計画にあたり何らかのご参考になれば幸いである。

（にしみや　さぶろう
富士通株式会社第二システム技術部第五システム技術課）

表2

業　種	1電話機当りの従業員数
官公庁	1.9
会　社	1.7～3.5
事務所	1.7～3.5
デパート	20
新聞社	4.6

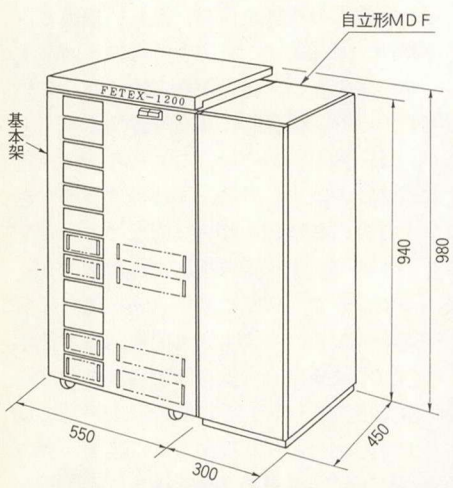
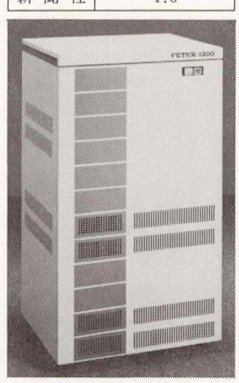


図3　FETEX－1200B外観図（自立形MDF併設時）



小容量ディジタルEPBX外観

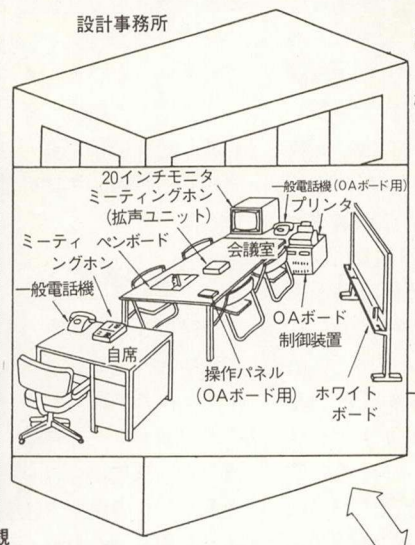


図5　自席会議卓形電子会議システム
—設計事務所への適用

加入電話回線によって会議室を接続し、1ヵ所に集まることなく、会議が行える。

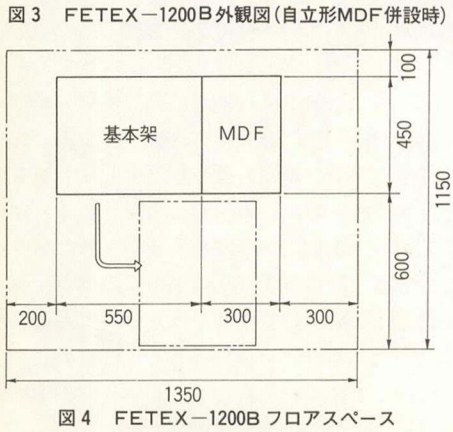


図4　FETEX－1200B フロアスペース
（自立形MDF併設時）

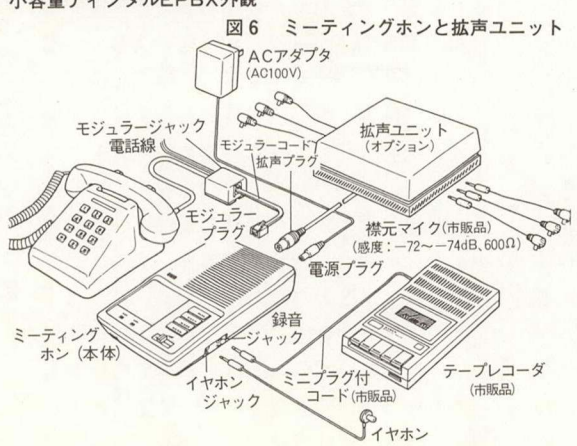


図6　ミーティングホンと拡声ユニット

施工材料の頁

106 高層RC壁式プレハブ工法—PASH工法—

小島　雄

はじめに

室内に柱型や梁型の突出がなく、使いやすい集合住宅を経済的に造る工法として、鉄筋コンクリート造の壁式工法がある。そのプレハブ工法として「SPH工法」または「公団壁式工法」と呼ばれる標準工法が全国的に普及しており、この20年来多くの建設実績がある。

しかし、この工法の適用範囲は5階建以下となっているので、より高層のものに適用できる工法の開発が望まれていた。



写真－1　PASH工法による住宅

鹿島建設では、数年前に6～11階程度に適用できる高層壁式プレハブ工法、つまり「PASH工法」の開発を完了し、昭和53年に自社の地域開発プロジェクトである志木ニュータウン8階建住棟（16棟、合計1,168戸）に適用した（**写真-1**）。5階建を越える高層の壁式プレハブ工法を事業ベースとして大規模に適用したのはわが国で初めてのケースであろう。

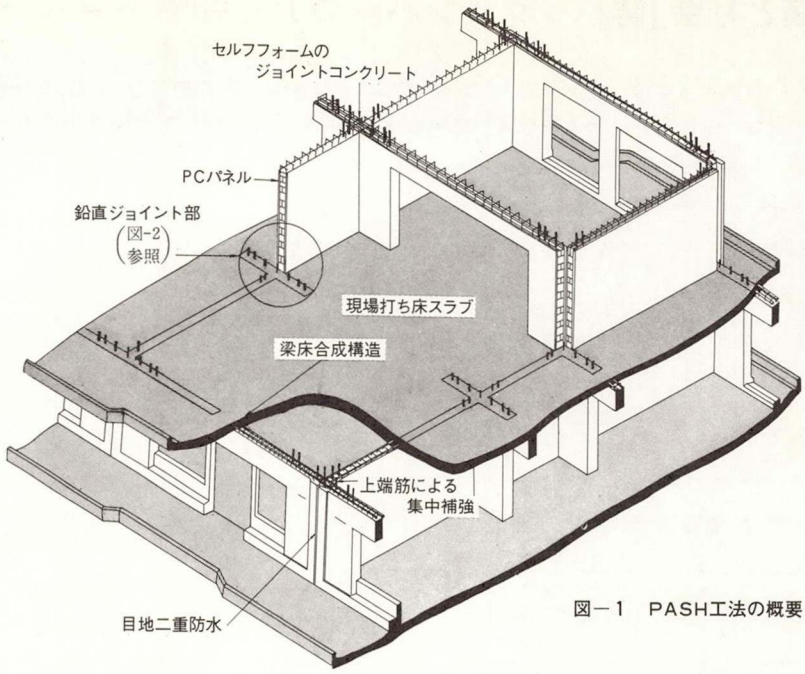
PASH工法の概要

通常の住棟を想定した場合、長辺方向（けたゆき方向）は壁式ラーメン構造、短辺方向（はりま方向）は戸境壁による壁体構造である。壁の均等化配置とPC板相互のジョイント部の構造性能の向上により高層化を達成している（**図-1**）。

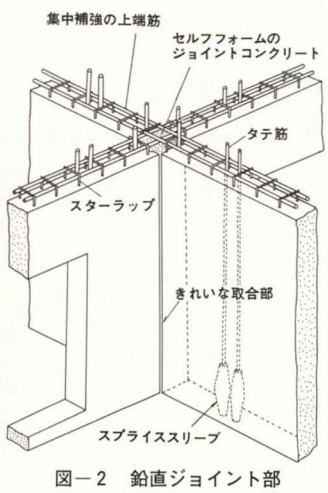
■PC板ジョイント部の特徴

壁式プレハブ工法はPC板相互のジョイント工法によって特徴づけられる。構造的性能が満足されるのはもちろんのこと、部材製作から現場施工に至る作業が省力化され、品質管理が確実にできて仕上がりがきれいにゆく工法であることが大切である（**図-2**）。

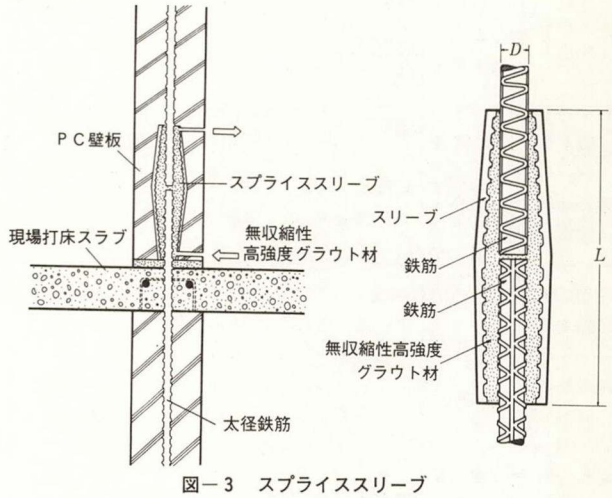
PC板のジョイントには大別して水平ジョイント、鉛直ジョイントおよび床ジョイントの3種があるが、PASH工法でのそれぞれのジョイントの構成と特徴を述べると、**表-1**のようになる。



図－1　PASH工法の概要



図－2　鉛直ジョイント部



図－3　スプライススリーブ

表－1　3種のジョイントの特徴

ジョイントの種類	構　成	特　徴
水平ジョイント（上下のPC板の接合）	・タテ主筋をスプライススリーブで接合 ・接合面はフラット	・剛接合の性能→高層化へ ・欠き込み部なし→平滑な壁面
鉛直ジョイント（左右のPC板の接合）	・上端筋による集中補強 ・シャーキィあり	・補強接合（溶接）なし、コーナー部型枠不要→接合部工事の省力化、平滑なコーナー部
床ジョイント（床とPC板の接合）	・現場打ち ・PC板上縁に突設したスターラップにより一体化	・合成ばり→階高、軒高の減少

■スプライススリーブ

この中で特徴のあるのは、スプライススリーブである。これは、内面に凸凹のある紡錘形の鋳鋼製のスリーブの中に、超高強度（Fc=650kg/㎠程度）の無収縮性グラウト材により鉄筋を接合するもので、施工性の良さからいってPC部材のタテ筋の接合に最適である（**図-3**）。この継手はA継手としての一般認定が取得されている（製造、販売：日本スプライススリーブ株式会社）。

■実験による構造性能の確認

PASH工法の構造性能、耐震性能の確認のために、ジョイント部や部分架構など一連の加力実験を行った。これらの実験結果から、十分な耐震性を有していると認められ、日本建築センターの構造評定が取得されている（BCJC-939、940 昭和53.7）。

おわりに

わが国で初めて高層壁式プレハブ工法を大規模工事に採用し、施工性、省力性、コスト、品質確保に所期の成果をあげて全戸数 1,168戸の建設を終了した。室内に柱型や梁型の突出のない壁式の良さ、壁面にひびわれのない高品質コンクリートのプレハブ工法の良さもあって、販売状況もきわめて順調であった。開発当初にかかげた「同類工法の中で最もシンプルで競争力のあるものを」という目標を達成したと信じている。

今後の課題としては、床工法の一層の合理化、基礎のプレハブ化等があげられると思う。

工事の省力化、簡易化は時代の要求であり、環境問題等から中高層住宅の需要が多くなるものと考えられるので、当工法の適用が増大すると期待している。

（こじま　ゆう　鹿島建設株式会社大阪支店建築部長）

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06－231－9648)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外¥650(55年4月号以降は¥750)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和39年(45集)	建築と照明	＊プレハブ	外部空間	ホテル建築	鋼管構造	施工	第11回青年建築家	宅地開発	オリンピック競技施設	交通施設	工事別建築材料集成(上)	工事別建築材料集成(中)
昭和40年(46集)	尾崎久助	委員会	工事別建築材料集成(下)	内部空間	人間工学	社会開発	第12回青年建築家	施工の手続	建物管理	＊建物と騒音	中小企業団地	医療施設
昭和41年(47集)	＊都市住居	地下街	空気調和設備	建具金物	建築法規	国立京都国際会館	第13回青年建築家	1970年万国博会場計画	＊造園	最近の地下工法	市街地改造	公害と都市・建築
昭和42年(48集)	＊国立劇場	建設機械	日本建築協会50周年記念号	社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年(49集)	都市生活	都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	都市交通施設	都市供給処理施設	群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	新都市計画法の諸問題
昭和44年(50集)	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民－中部からの報告	老人とすまい	建築史の方向－現代によみがえる過去－	建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	九州からの報告
昭和45年(51集)	現代社会とは何か	建築と安全	日本万国博と技術開発	設計のシステム化	グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	山陽・山陰からの報告
昭和46年(52集)	住宅－60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年(53集)	冬季オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号(桂中学)		都市住環境へのアプローチ	都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年(54集)	建築教育	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	大阪大林ビルディング	レジャーと施設	大阪国際ビルディング	老人コミュニティ	住宅－建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年(55集)	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年(56集)	図書館	東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76－建築デザインの動向	建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	＊設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向－部分と全体	兵庫県－その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法	身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題－大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向－新旧のコントラスト	水	医療施設－病院建築と情報システム	外壁塗装材料	電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD－設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築－まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	＊最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文－北京の都市計画	ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法－安全な環境をめざして	都市住宅－住まい手からの発想	●建築物と風－デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団－関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設－地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観－まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎(第1期)	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	

雑誌の大きさは第48集からは現行のA4判変形、それ以前はB5判

日本建築協会

月間の動き

昭和58年6月分

総会

通常総会
15日　4時半～5時　於建設交流館
出席者　福田会長ほか17名
議事 (1) 昭和57年度事業報告承認の件
(2) 昭和57年度決算報告承認の件
(3) 昭和58年度事業計画承認の件
(4) 昭和58年度収支予算承認の件

評議員会

定時評議員会
15日　4時～4時半　於建設交流館
出席者　高橋議長ほか43名（委任状共）
議事 (1) 理事1名補選の件
(2) 細則一部変更（理事会務・常任理事会）
(3) 昭和57年度事業報告承認の件
(4) 昭和57年度決算報告承認の件

理事会

定例理事会
15日　3時～4時　於建設交流館
出席者　福田会長、市川副会長ほか13名
議事 (1) 昭和57年度事業報告承認の件
(2) 昭和57年度決算報告承認の件
(3) 事務局職員上期賞与支給の件
(4) 住宅委員会委員委嘱の件
(5) 入退会者承認の件
(6) 報告事項

編集委員会

第1回施工材料分科会
1日　4時～6時　於本会集会室
出席者　西牧幹事ほか2名
議事 (1) 施工材料分科会の役割
(2) 施工材料特集の企画
(3)「施工材料の頁」の企画

「オフィス・インテリアの変革」特集第4回編集幹事会
7日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　加藤幹事ほか5名
議事　特集内容の報告と広告の企画

委員会
16日　4時～6時　於本会集会室
出席者　横山委員長ほか5名
議事 (1) 6月号「大阪駅とターミナルビル」特集
(2) 7月号「維持管理と設備更新」特集
(3) 8月号「東海の建築文化を考える」特集
(4) 9月号「オフィス・インテリアの変革」
(5) 10月号「プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造」特集報告
(6) 11月号「第30回青年技術者」特集報告
(7) 11月号「大阪城国際文化スポーツホール」特集の企画
(8) 12月号施工材料特集号(分科会報告)と設備分科会について
(9) 1月号計画特集の企画
(10) 来年の表紙デザインについて
(11) 収支状況報告、その他

広告企画小委員会
28日　4時～5時半　於本会集会室
出席者　横山委員長ほか8名
議事 (1) 7月号「維持管理と設備更新」特集広告収入報告
(2) 8月号「東海の建築文化を考える」(仮称)特集広告途中経過報告
(3) 9月号「オフィス・インテリアの変革」特集広告途中経過報告
(4) 10月号「プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造」(仮称)特集広告企画
(5) 11月号「大阪城国際文化スポーツホール」特集広告企画
(6) 収支状況報告、その他

大阪城国際文化スポーツホール特集編集幹事会
29日　3時～5時　於本会集会室
出席者　足立幸一氏(大阪市)、川本賀一・鵜飼邦夫・関伸二・山田恒春・渡辺豪秀各氏(日建設計)、宮田安雄・若松常美各氏(OCC大成・松村JV)、小野為一委員、田中直人委員
議事　「大阪城国際文化スポーツホール」特集の企画（テーマと執筆者の選定）

第1回設備分科会
30日　6時～8時15分　於本会集会室
出席者　橋本幹事ほか5名
議事 (1) 設備特集の企画
(2)「設備の頁」の企画

事業委員会

若い会員の集い企画分科会
1日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　葛谷幹事ほか2名
議事　「建築家以外に聞く」の企画

若い会員の集い幹事会
2日　6時半～10時15分　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか6名
議事　本年度企画案の調整及び検討、その他

広報PR分科会
6日　6時～9時　於本会会議室
出席者　今野幹事ほか5名
議事 (1) 第57回展示写真「大阪駅前第4棟と緑のプロムナード」の展示
(2) 第58回展示写真「大阪ターミナルビル」賛助依頼の経過報告
(3) 第59回以降の展示写真について

若い会員の集い企画分科会
8日　6時半～9時半　於本会会議室
出席者　寺尾主査ほか4名
議事　「レクリエーション施設を考える」の企画

広報・研修分科会
13日　6時～9時　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか4名
議事　本年度の研修会の企画

若い会員の集い企画分科会
14日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　葛谷幹事ほか6名
議事　「みどり学習会」の企画

21日　6時半～10時半　於本会会議室
出席者　寺尾主査ほか3名
議事　「レクリエーション施設を考える」の企画

23日　6時半～10時10分　於本会会議室
出席者　樽本主査ほか3名
議事　「学習シリーズ」の企画

広報・研修分科会
28日　6時～9時　於本会会議室
出席者　ゲスト・中居誠之助氏
原見副委員長ほか5名
議事　本年度の研修会の企画

住宅委員会

7日　5時半～7時半　於本会集会室
出席者　山下委員ほか8名
議事　委員会今後の運営について

建材委員会

16日　4時～5時半　於本会集会室
出席者　近藤・恒成副委員長ほか13名
材料説明　「セメンシャス#2000、#2500」
説明者　恒和化学工業株式会社
議事 (1) 今後のメインテーマ、その他
(2) 今後の新建材紹介コーナー

工高生デザインコンクール募集規定作成会

17日　6時～9時10分　於本会集会室
出席者　柳審査委員長ほか14審査員
多胡教育委員長ほか5名
議事 (1) 第29回工高生デザインコンクール募集規定の検討
(2) 今後の作業予定について

見学会

昭和58年度・茶室見学会(第1回)
京・清水寺の茶室〝白雲居〟と成就院の名園
並びに新築中の大講堂の見学
25日　1時半～5時半　於京都
参加者　44名
講　師　岡田孝男氏(工学博士　帝塚山学院大学教授)
●清水寺大講堂（新築）建築概要
建 築 主　北法相宗　清水寺
所 在 地　京都市東山区清水1丁目 清水寺境内
設計監理　㈱中村建築設計事務所
施　工　㈱竹中工務店

建築クラブ

朝食会
14日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　85名
当日は、大阪市立東洋陶磁美術館・伊藤郁太郎館長より、陶磁美術館建設に当たって、世界で初めての試みである自然採光ケースをはじめ、さまざまの創意工夫をこらし、鑑賞本意の美術館にした旨の話を伺った。

建築業務基準委員会

1日　2時～4時　於士会連合会会議室
出席者　関係16団体、建設省
議事　建築業務基準について

6月の入会者（敬称略）

〔団体会員3社〕
㈱青木建設　日新電機㈱
山武ハネウエル㈱大阪支店

〔個人会員21名〕

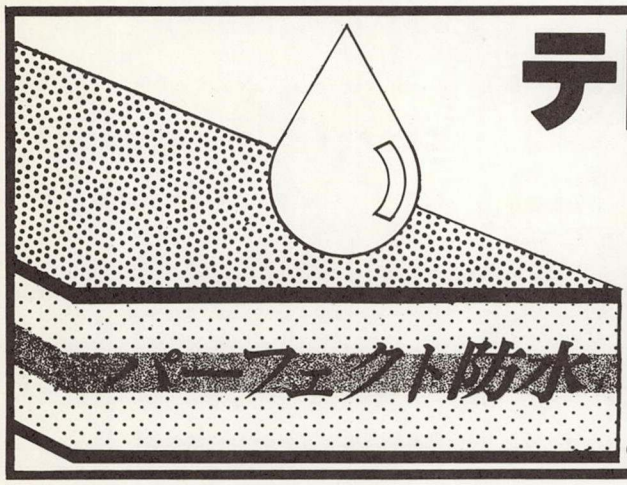
會田　篤郎	安藤　真吾	井上　和徳
石川　亮治	乾　　格	岩本　隆志
大杉　喬成	大塚　正彦	川合　祥介
北川　克己	熊埜御堂弘	小西　英二
佐藤　至則	志津　一郎	末松　宏
伊達　俊雄	永末　千尋	湊　晃一
村上　忠雄	村上　斉	山本　知範

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4丁目2番4号(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目(電話811-3610)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本社　東京都中央区銀座8—4—9　電話03 (571) 2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6—1—41　電話06 (391) 1081-2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1—3—30　電話0487(74)2845-6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田259　電話0462 (21) 1761
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話052 (811) 3660
九州出張所　佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450　電話0952 (47) 2945

■防火・防煙シャッター
■ステンレスシャッター
■アルミニュームシャッター
■軽量シャッター
■クリスタルシャッター
その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号　電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地　電話金沢(0762市外局番)65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7　電話神戸(078市外局番)611—7971 631—2021

防火 構造認定(防火第404号)

モルタルクラックが大幅に減少
工期の短縮が図れる左官用高級スタッコ

シンコー 白モルタル

地震に強い家をつくるモルタル下地合板

ラスカット

左官作業の近代化
一発で特殊「白モルタル」スタッコ仕上

スーパーローラー

(株)新興建材工業所

〒550　大阪市西区南堀江4丁目32—11　☎(06)538—2951(代)
営業所　明石・中国・四国・高槻・東京・新潟・仙台

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271(代)
支　　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤　博

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　　店　仙台市中央2丁目10番12号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822—47—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

---

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！



創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06—441—5171(大代表) 〒550

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本　　店　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
本　　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(代表)
支　　社　大阪・東京・名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・金沢・天理・岡山・広島・高松
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡・豊田津・富山・長野・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州熊本・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・徳島・長崎
海外支店　シンガポール・ホンコン

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031代表
メンテナンス部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
郵便番号531　電話 大阪(06) 374—0571代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2～4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話　03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　　店　札幌・岡山
営 業 所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出 張 所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—344—1851(大代)　大阪支店☎06—441—5851(代)
名古屋支店☎052—211—1535(代)　九州支店☎092—431—2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

空気調和設備　環境衛生施設
給排水・衛生水道　荷役運搬機械
電気設備　化学鉱山機械
厨房

三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
取締役支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪(202) 代表3071
本　　店　東京・日比谷・三信ビル
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営 業 所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

空気調和
給排水衛生　搬送機設備　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06—364—6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03—211—8511(代表)

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電0720—49—2128

MODAIR
空気調和設備 設計施工
換気・除塵設備
東洋熱工業株式会社大阪支店
大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

空調・衛生・防災設備　設計並施工
日本管工業株式会社
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26—3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22—9738(代)

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備
株式会社 西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3531番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

Carrier
冷暖房はCARRIER キャリア
東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
高砂熱学
大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話 大阪(372)2511(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

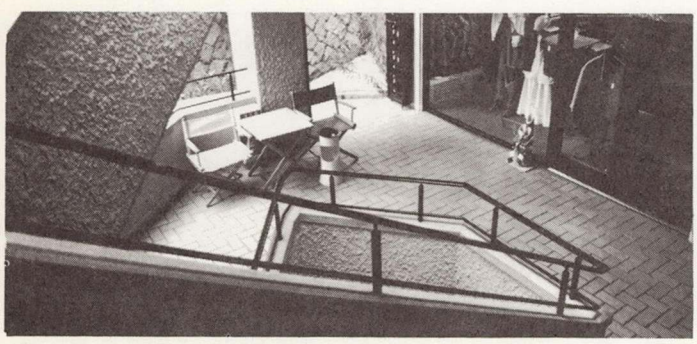
営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工
平山工業株式会社
大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06－441－1994・443－0331

営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　0003号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　0003号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　0004号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　0004号
合同特許建材工業株式会社
本　社　大阪市東住吉区駒川2-4-22　電話 (06)702—7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

RST方式 ロックオーガー
各種障害撤去　●砂礫層穿孔撤去●玉石層穿孔撤去
●岩盤層穿孔撤去●鉄筋、鉄骨コンクリート穿孔撤去●杭引抜き及び撤去
株式会社 菱備基礎
本社　豊中市宝山町22番44号　〒560 電話(06)841—7121～3
工場　豊中市利倉東1丁目16番5号　〒561 電話(06)863—0207(代)

白あり
木材保存のトップメーカー
サンヨー
住まいのガン細胞、しろあり公害を未然に防ぎましょう。
◉シロアリ予防・駆除・施工(10ヶ年保証付)
◉製造販売 サンプレザー(予防剤認定)
サンソイル(土壌処理剤)
PGスケヤー(加圧注入防腐木材・土台・大臭用)
山陽木材防腐株式会社
大阪営業所　〒541 大阪市東区北浜3丁目7 信愛ビル　☎06-231-6406
化成品部　〒101 東京都千代田区神田須田町1-26 芝信神田ビル　☎03-254-0831

活字のない印刷
日本写植印刷株式会社
代表取締役　神田都義
本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 横範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100





電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 坪 井 大

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・福 山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

総合設備工事《設計・施行》
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL (06)452—1151(大代)
事業所 東京・名古屋・広島・福岡

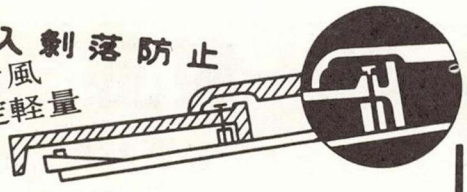
限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523—3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222—6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

大阪市浪速区元町一丁目七四二電話641五〇六五
ナニワ瓦株式会社

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

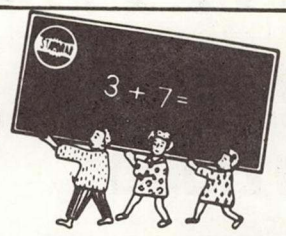
奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 大阪市西区西本町1－13—33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市町新町50

Standard



Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

飛 鳥 野 瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中110750, 110751) 製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年 綜 合 施 工 卸

久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本 社 大阪市生野区林寺1丁目5番14号 〒544
電話 06(715) 0 2 0 1 代表～5番
営業所 大阪市平野区 工場 兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財 社寺・天理教教会本部 御用達

株式会社 瓦宇工業所

代表取締役 小 林 麻 造

〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26—2901番(代表)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
OPCo
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 ＆ 研磨機器
布紙ペーパー ＆ ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
NISSO MASTER BUILDERS
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木3－16－26 ☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７ ☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンパイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム. ALC. 鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-１
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

電気・空調・衛生など各種設備分野の記事が1冊の雑誌に！

BE 建築設備 月刊

都市＋建築＋設備＋機器＋材料を
総合するユニークな専門誌



～充実した実務家のための内容～

■視点・随筆　業界，学会，社会，文化について，学識経験者の見解を発表
■新建築・新設備　注目すべき建物の建築と設備を紹介
■特　集　業界，社会のニーズにこたえる諸テーマをとらえて，必要知識を紹介
■講　座　建築，建築設備，機器，材料に関連し実務上必要とする基礎知識を連載
■特別講座　業界，社会のニーズにこたえ，時代的テーマに関し実務上必要とする知識を連載
■ニュース　国内・海外ニュース，機器・文献ニュース
■会社だより，研究所だより　その他

雑誌B5判・100頁・定価1000円——申込次第見本送付

社団法人　建築設備綜合協会　〒104 東京都中央区銀座1-6-10(皆川ビル) ☎03(535)6690・(561)1765

出版案内——好評発売中

建築技術
〒一六〇 東京都新宿区北新宿一―八―一 中島ビル
☎東京(三六三)四二一一(代) 振替口座 東京〇―七二四一七番

建築構造実務者を対象とした
山形骨組の応力計算
筒井助幸 著
A5・210頁　定価3,200円・送料300円

建築構造問題快答集
1 A5・430頁　定価3,800円・送料300円
2 A5・385頁　定価3,800円・送料300円
3 A5・373頁　定価3,800円・送料300円

工事検査方法を解いた唯一の指導書　亀田泰弘 監修
新版 **建築工事検査の実際**
上巻　B5・453頁　定価6,000円・送料350円
下巻　B5・535頁　定価7,000円・送料350円

設計者と現場マンのためのわかる溶接
増補 **溶接読本**
井上 博 著
B5・149頁　定価3,000円・送料300円

建築技術者並びにビル管理者のための
建築工事 **内外装の損傷と補修**
同編集部 編
B5・289頁　定価3,600円・送料300円

同じ失敗を繰り返さないために
建築工事 **失敗の実例にまなぶ**
同編集部 編
B5・279頁　定価3,600円・送料300円

専門技術者のための
建築型わく工法マニュアル
高橋 昌 著
A5・216頁　定価2,600円・送料300円

建築技術者のためのわかる設備
建築 **設備読本** Ⅰ給排水衛生設備篇
井上 博 著
B5・171頁　定価3,200円・送料300円

計画➡設計➡施工➡経営の綜合誌
月刊 **建築技術 9**
No.385　9月号予定目次　定価1,000円

●PC耐力壁を用いた複合RC構法……樋口元一ほか
●〝パソコン〟建築実務への応用(3)……武藤 鶴代
●PCブロック構法とは(1)……瀬尾 文彰
●研究施設の計画と設計(13)—風洞施設—……塩原 壮太
●うっかり間違える構造力学—連続ばり—……井上 允彦
●構造物の動的解析(26)……石丸 辰治
●BRI news & topics —総プロの動向—
●構造計算データシート(93)……構建設計研究所

●建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向　その他

亜鉛めっき鉄筋の性質と使い方……松本 静顕
既存共同住宅改造の設計・施工……石氏克彦ほか

全国書店毎月18日一斉発売！　お早目に最寄りの書店でお求め下さい

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

錆びない！
われない！
燃えない！

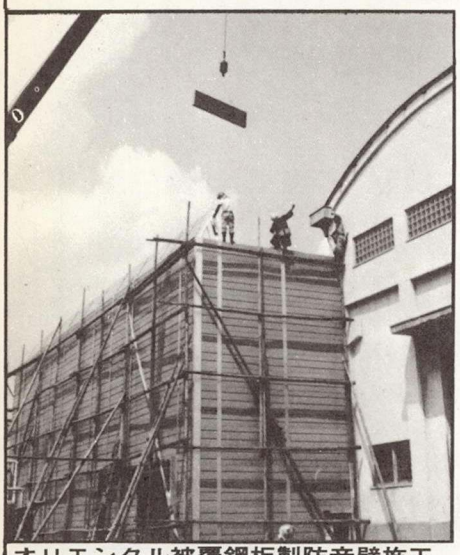
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスーパーメタル(SPM)
- オリエンタルメタル(OPM)
- オリエンタルスチールライト(STL)
- オリエンタルサンセラム(SS)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・スチールシングル・其の他

※ カタログを御請求下さい


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り3—26　松本ビル　電話大阪(06)412—5131(代)
営業本部　〒660　尼崎市長洲稲川新田44　電話大阪(06)488—1081(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越5丁目6番32号　電話蕨(0484)42—3115(代)
支店及工場　東北

建築・設備エンジニア必携の書！　好評発売中

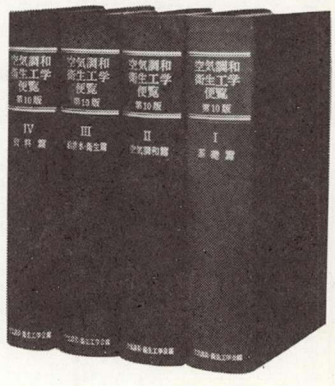
第10版 空気調和・衛生工学便覧

Ⅰ巻—基礎篇
第1編　基礎　第2編　総合計画
第3編　汎用機器および電気設備
第4編　材料と施工　付録　法規・規格

Ⅱ巻—空気調和篇
第5編　空気調和計画・設計
第6編　空気調和機器
第7編　空気調和応用

Ⅲ巻—給排水・衛生篇
第8編　給排水・衛生計画
第9編　給排水・衛生機器
第10編　給排水・衛生特殊設備
第11編　給排水・衛生応用
第12編　上下水道

Ⅳ巻—資料篇



価格　セット価格(Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ巻)　分冊価格(Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ各巻共)　Ⅳ巻資料篇は1冊
空衛学会員価…37 000円　空衛学会員価…13 000円　空衛学会員価…5 000円
定　価…44 000円　定　価…16 000円　定　価…7 000円

送料

地　域	1冊	2冊	3冊	4冊
全国均一	1500円	2000円	2500円	2800円

申込方法　現金書留または本学会指定の振込用紙にてセット数明記の上，代金・送料をご確認のうえ，最寄りの郵便局または銀行へお払込み下さい。

社団法人 空気調和・衛生工学会　〒160 東京都新宿区北新宿1—8—1(中島ビル)　TEL東京(03)363—8261(代表)
郵便振替口座　東京9—37842番　振込先銀行　三和銀行大久保支店㊒0053986番

最大の敵。

貴重な資源“水”も建物にとって最大の
敵となることもあります。
日本アスは多年の経験と実績を生かして
完全防水に取り組むプロ集団です。



地区	会社名	所在地	電話
北海道	日本防水総業株式会社	札幌市	TEL011(231)7511代
	日本防水総業㈱旭川出張所	旭川市	TEL0166(47)1050
	日本防水総業㈱釧路出張所	釧路市	TEL0154(23)2056
	日新建工㈱札幌出張所	札幌市	TEL011(512)8081代
	大和工業㈱苫小牧出張所	苫小牧市	TEL0144(34)3358
	大和防水工業株式会社	札幌市	TEL011(641)1717
	トーフジ工業株式会社	札幌市	TEL011(822)0331
東北	開発株式会社	秋田市	TEL0188(24)2233
	北原建材工業㈱仙台出張所	仙台市	TEL0222(96)6768代
	協和建材工業㈱仙台支店	多賀城市	TEL02236(6)1136
	日新建工㈱仙台支店	仙台市	TEL0222(73)1921代
	日新建工㈱青森出張所	青森市	TEL0177(22)3155
	日新建工㈱郡山出張所	郡山市	TEL0249(23)1677
関東	葵工業株式会社	江東区	TEL03(632)3385-9
	伊藤建材株式会社	台東区	TEL03(842)1431代
	いわき建材工業株式会社	中野区	TEL03(389)4561代
	春日工業株式会社	荒川区	TEL03(802)3871代
	金岡工業株式会社	新宿区	TEL03(363)4341代
	北原建材工業株式会社	調布市	TEL03(307)1661代
	木下工業株式会社	墨田区	TEL03(634)0821代
	協立工業株式会社	港区	TEL03(432)3517・(433)8485
	大東スレート株式会社	足立区	TEL03(883)3131代
	株式会社東京シングル	練馬区	TEL03(994)3861
	東京瀝青株式会社	荒川区	TEL03(803)3481代
	日新建工株式会社	足立区	TEL03(870)6231代
	日本綜合防水株式会社	渋谷区	TEL03(403)0171代
	日本防水総業㈱東京営業所	渋谷区	TEL03(464)3588代
	野口工材株式会社	北区	TEL03(903)4151-2
	鴻田工業株式会社	千代田区	TEL03(263)4861代
	富士工材株式会社	江東区	TEL03(634)0163代
	藤瀝青興業株式会社	中野区	TEL03(367)1611
	フタバ興業㈱東京営業所	港区	TEL03(591)2491代
	古川株式会社	台東区	TEL03(834)4151代
	北條瀝青工業株式会社	江東区	TEL03(643)3963代
	大和工業株式会社	荒川区	TEL03(802)4751代
	瀝青建材株式会社	千代田区	TEL03(861)2706-8
	有限会社神守建材社	横須賀市	TEL0468(22)4288
	金港瀝青株式会社	横浜市	TEL045(421)6521-2
	不二防水工業株式会社	横浜市	TEL045(231)4461
	北原建材工業㈱千葉営業所	千葉市	TEL0472(22)3161代
	三和工業株式会社	市川市	TEL0473(57)5153代
	石田建材工業株式会社	高崎市	TEL0273(27)3302代
	石田建材工業㈱大宮支店	大宮市	TEL0486(51)1251代
	石田建材工業㈱宇都宮出張所	宇都宮市	TEL0286(24)4191
	瀝青建材㈱宇都宮出張所	宇都宮市	TEL0286(22)9737
	株式会社奈良屋	水戸市	TEL0292(41)5141代
信越	鹿住防水工業株式会社	上越市	TEL0255(24)3402
	株式会社仙嶺	松本市	TEL0263(58)3188代
北陸	株式会社折橋政次郎商店	高岡市	TEL0766(22)0999
	一公工業株式会社	高岡市	TEL0766(23)0391
	㈱折橋商店金沢営業所	金沢市	TEL0762(47)4139
	マルセ化建株式会社	金沢市	TEL0762(42)5151
	石橋建材株式会社	福井市	TEL0776(23)0775・0885
東海	協和建材工業株式会社	清水市	TEL0543(45)2221代

地区	会社名	所在地	電話
東海	三井工業株式会社	静岡市	TEL0542(85)9151-2
	三信建材工業株式会社	豊橋市	TEL0532(45)8211代
	合資会社清谷商店沼津支店	沼津市	TEL0559(21)9610
	大池建工株式会社	名古屋市	TEL052(211)1885代
	重喜防水工業株式会社	名古屋市	TEL052(991)0111代
	辰巳防水工業有限会社	名古屋市	TEL052(501)1401代
	中央建材工業株式会社	名古屋市	TEL052(761)6181代
	東京建材工業株式会社	名古屋市	TEL052(411)6621
	東海物産株式会社	名古屋市	TEL052(721)2211代
	日本建材鋼業株式会社	名古屋市	TEL052(571)5541代
	宮崎建材株式会社	名古屋市	TEL052(331)1531代
近畿	池田瀝青工業株式会社	大阪市	TEL06(699)5757-9
	株式会社神原商店	守口市	TEL06(909)1433・(908)1282
	国際工事株式会社	大阪市	TEL06(211)6385-6
	清水興業株式会社	大阪市	TEL06(372)0250-3
	日新工材株式会社	大阪市	TEL06(541)3785-6
	日新建工㈱大阪出張所	大阪市	TEL06(326)3845-6
	日本綜合防水㈱大阪支店	大阪市	TEL06(361)0471-5
	ヒカリ工業株式会社	大阪市	TEL06(395)1051代
	フタバ興業株式会社	吹田市	TEL06(385)2781代
	有限会社丸藤商店	大阪市	TEL06(351)2150代
	久下商店	京都市	TEL075(311)2044-5
	東洋建材株式会社	京都市	TEL075(672)5351-5
	中村瀝青工業株式会社	神戸市	TEL078(341)5884・1223
	棚田建材有限会社	神戸市	TEL078(841)3551代
	有限会社ミサキ商会	和歌山市	TEL0734(22)3922
	マルフジ工業株式会社	大阪市	TEL0720(57)3293
中国	東中国防水工業株式会社	岡山市	TEL0862(72)1221代
	株式会社三洋技建	大竹市	TEL08275(2)5155代
	三和防水工業株式会社	広島市	TEL0822(83)3366代
	豊永建材株式会社	広島市	TEL0822(61)6371代
	大和工業㈱広島出張所	広島市	TEL0822(64)2761
	株式会社巴商会	宇部市	TEL0836(21)0760
	和光工業株式会社	松江市	TEL0852(38)1321
四国	大三工業株式会社	高松市	TEL0878(51)6811代
	徳島大三工業株式会社	徳島市	TEL0886(31)4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治市	TEL0898(32)5000代
	㈱マルマス河野商店松山支店	松山市	TEL0899(22)2121
	株式会社山本商会	松山市	TEL0899(31)6261代
	大三工業㈱高知支店	高知市	TEL0888(45)4800代
北九州	安藤工事株式会社	福岡市	TEL092(561)7012代
	加茂装備株式会社	福岡市	TEL092(561)6250
	草野工業有限会社	北九州市	TEL093(922)7631代
	日建工材株式会社	福岡市	TEL092(741)6665代
	株式会社工材社	北九州市	TEL093(371)1468代
	株式会社三宮工材	大分市	TEL0975(36)2326-7
	安藤工事株式会社	長崎県	TEL09588(2)2200
	山崎工業株式会社	北九州市	TEL093(941)5441
南九州	株式会社大二商会	宮崎市	TEL0985(47)6155代
	日新興業株式会社	延岡市	TEL0982(33)2455-9
	株式会社北原建材商会	鹿児島市	TEL0992(23)9395-6
	上原建設工業社	沖縄県	TEL09889(2)2368

協力組合員

北海道	クレミス工業株式会社	札幌市	TEL011(882)1232代
	株式会社ソロ防水北海道	札幌市	TEL011(751)1736代
	株式会社防水センター	札幌市	TEL011(683)5616代
	株式会社互建防水工業	帯広市	TEL0155(25)5776代
	株式会社昌興建設	砂川市	TEL01255(4)1166代
関東	株式会社大二商会	荒川区	TEL03(803)2651-2
	日瀝工業株式会社	甲府市	TEL0552(32)5477
	合資会社中西商会	板橋区	TEL03(961)1924代
	糖信瀝青株式会社	船橋市	TEL0474(38)4511
	マサル工業株式会社	江東区	TEL03(643)5911代
中部	伊藤防水工業有限会社	名古屋市	TEL052(503)1172代
	株式会社岩昇	一宮市	TEL0586(24)0505・1678
	小野建材株式会社	岐阜市	TEL0582(31)7158
	長登工業株式会社	名古屋市	TEL052(751)8141
	日精工業株式会社	金沢市	TEL0762(49)4593
	株式会社名神防水	岐阜市	TEL0582(71)7459
	名瀝工業株式会社	名古屋市	TEL052(721)5381代
	合資会社明光建材	名古屋市	TEL052(524)1411
	北陸瀝青工業株式会社	富山県	TEL0765(22)4523
	吉田防水店	岐阜県	TEL05732(5)3297
九州	株式会社沖縄装美工業	沖縄県	TEL0988(87)3847

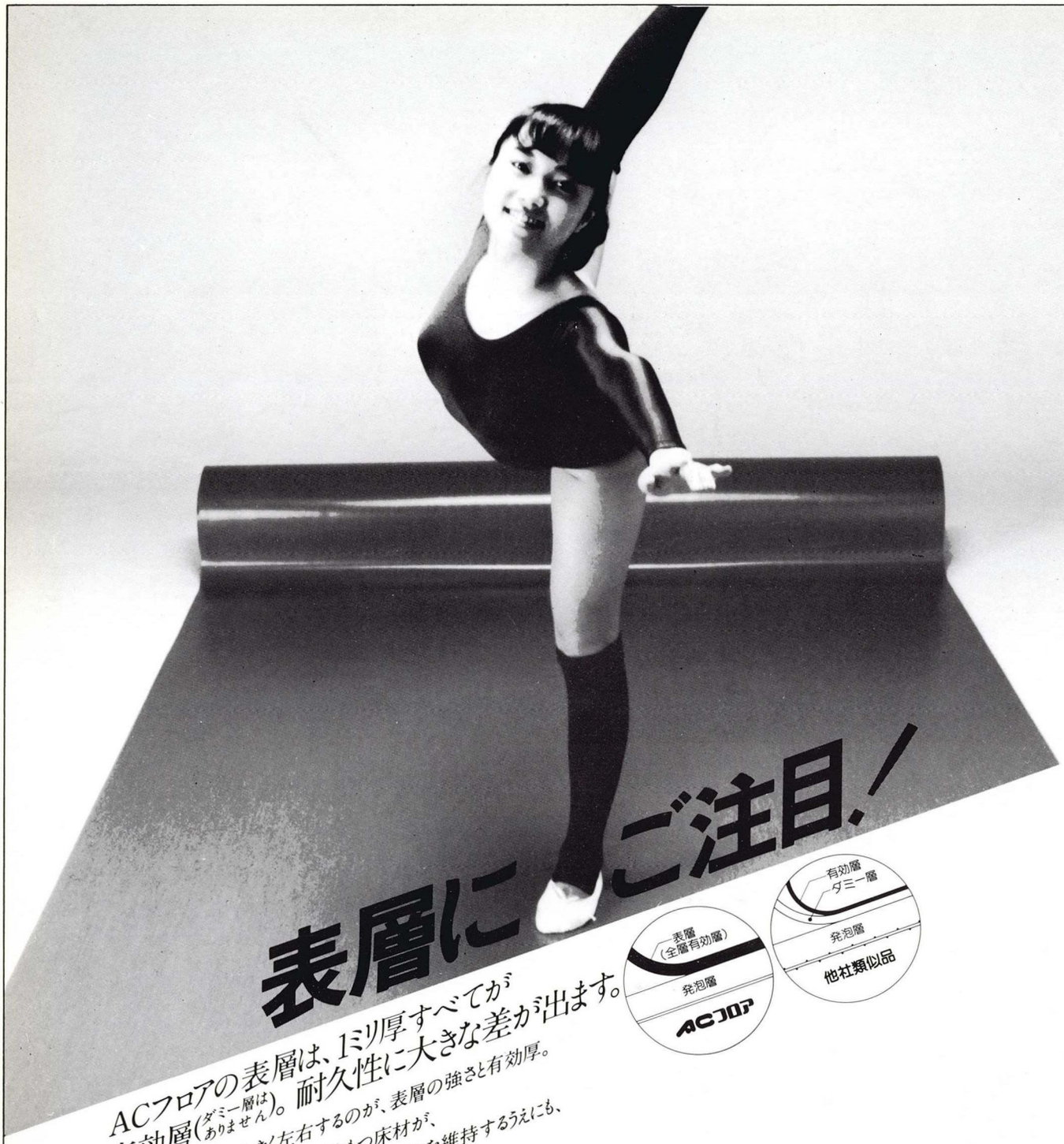
■建設省東計第240号認可

製造元 日新工業株式会社

日本アスファルト防水工業協同組合

本部	東京都足立区千住東2－23－4	☎(870)5051－2
関東支部	東京都足立区千住東2－23－4 日新工業内	☎(882)2424(代表)
中部支部	名古屋市千種区千種通り2-19(岐阜正ビル) 日新工業内	☎(741)6257(代表)
関西支部	大阪市西区新町1－12－2 日新工業内	☎(533)3191(代表)
九州支部	福岡市博多区博多駅前1－24－10 日新工業内	☎(451)1095(代表)
北海道支部	札幌市中央区南3条西13-319(柴田ビル4F) 日新工業内	☎(281)6328(代表)

建築と社会　第64輯第8号
昭和58年8月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
〒541　大阪市東区北浜3―37　電話大阪06(231)9648・9649・9640　振替口座大阪1―三九九七五番
（表紙デザイン・水野哲雄）
定価九五〇円（送料共）
正会員の購読料は会費に含めて徴収
社団法人　日本建築協会



ACフロアの表層は、1ミリ厚すべてが
有効層（ダミー層はありません）。耐久性に大きな差が出ます。

床材の耐久性を大きく左右するのが、表層の強さと有効厚。
とくに、ACフロアのような発泡層をもつ床材が、
安全性など、他の床材にはない独自の性能を維持するうえにも、
表層の有効厚は重要なポイントです。
ACフロアは、表層に高分子量の塩化ピュアビニルを用い、しかも
1ミリの厚み全層が、均一な有効層になっています。
一見表層に見えても、その実、有効層はACフロアの3分の1
しかなく、あとはダミー層で構成している類似品に比べ、
表層有効厚の耐久力は約3倍。高歩行量に耐え、
発泡層の性能や表面の美しさを長く維持します。

“ヒューマンな床材”

三星ACフロア

ACフロア28　ACフロア35　ACフロア55　ACフロアGT

田島ルーフィング・グループ
田島応用
責任施工
三星アコスティカルフロアーズ
東・西床協組

★くわしくは資料をお求めください。

東京営業所／〒101東京都千代田区岩本町3-11-13☎(03)866-6101(代)

札　幌☎(011)231-8261	横　浜☎(045)681-4835	大　阪☎(06) 441-5951
青　森☎(0177)42-8202	新　潟☎(0252)65-0261	神　戸☎(078)232-0132
仙　台☎(0222)22-6413	北　陸☎(0762)31-5741	広　島☎(082)246-9436
北関東☎(0486)51-9721	長　野☎(0263)27-1841	高　松☎(0878)62-5285
東関東☎(0472)56-8801	静　岡☎(0542)81-8931	福　岡☎(092)712-9141
多　摩☎(0425)27-8132	名古屋☎(052)571-6361	鹿児島☎(0992)29-6160